目　次

1．人間総合科目

文化・社会 …… 4

生命・自然 …… 16

コミュニケーション …… 27

2．こども専門科目

こども総合 …… 47

こどもと家族の生活支援 …… 62

こどもと家族の心理 …… 72

子育てと教育の原理 …… 81

こどもの文化と環境 …… 109

保育・福祉・教育の現場に学ぶ …… 134

授業科目開講一覧表

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	資格取得科目 保育士	幼稚園教諭
人間総合科目	文化・社会	コミュニティの社会学	5	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		法学（日本国憲法を含む）	6	2	○	○	○	○	○	○	○	○		■
		現代人と宗教	7	2		○		○		○		○		
		教育学概論	8	2		○		○		○		○		□
		やさしい経済学	9	2	○		○		○		○			
		歴史入門	10	2	○		○		○		○			
		美と表現	11	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		歌舞伎入門	12	2		○		○		○		○		
		日本文化	13	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		アジアの社会と文化	14	2		○		○		○		○		
		アメリカの生活と文化	15	2		○		○		○		○		
	生命・自然	自然科学の成立と発展	17	2	○		○		○		○			
		生命の倫理	18	2		○		○		○		○		
		生きる心理学	19・20	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		生活と環境	21	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		生き物の科学	22・23	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		宇宙へのアプローチ	24	2		○		○		○		○		
		健康とスポーツ	25	2	○		○		○		○		●	■
		体育実技	26	1		○							●	■
	コミュニケーション	スタディ・ナビゲーションA	28	1	★									
		スタディ・ナビゲーションB	29	1		★								
		キャリア・ナビゲーション	30	1			★							
		スタディスキル	31	2		★								
		コミュニケーションスキル	32	1			○		○		○			
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	33	1	★									■
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	34	1		○		○		○		○		■
		英語コミュニケーションA（こどもの文化）	35	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□
		英語コミュニケーションB（日常会話）	36	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□
		中国語コミュニケーション	37	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□
		韓国語コミュニケーション	38	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□
		ジャパノロジー入門	39	2	○	○	○	○	○	○	○	○		
		カナダ文化の理解	40	2	○		○		○		○			
		キャリアデザインA（就職基礎）	41	1				★						
		キャリアデザインA（就職基礎）	42	1					★					
		キャリアデザイン	43	1					○		○			
		キャリアデザインB（就職実践）	44	1					○		○			
		キャリアデザインB（就職研究）	45	1					○		○			
		インターンシップ	46	2					○		○			
こども専門科目	こども総合	こども理解と観察	48	2		★							○	■
		こどもと福祉社会	49	2				★						
		こどもの人権	50	2				○		○		○	○	
		ジェンダーと家族	51	2				○		○		○		
		家族支援の展開	52	1					○		○		○	
		地域支援の展開	53	1						○		○	○	
		地域資源とネットワーク（演習）	54	1						○		○		
		国際こども福祉	55	2		○		○		○		○		
		フィールド演習	56	1		★								■
		親子支援演習	57	1					○					
		海外セミナー（カナダ）	58	2		○		○		○		○		
		卒業研究Ⅰ	59	2						★				
		卒業研究Ⅱ	60	2								★		
		卒業研究	61	2								★		
	こどもと家族の生活支援	社会福祉概論	63	2	★								●	
		児童家庭福祉論	64	2		○							●	
		社会的養護論	65	2				○					●	
		社会的養護内容	66	1					○				●	
		相談援助演習	67	1					○				●	
		保育相談支援	68	1						○			●	
		グループダイナミクス	69	1						○		○		
		家庭支援論	70	2				○					●	
		ボランティア・NPO論	71	2			○		○		○			
	こどもと家族の心理	発達心理学	73	2	○								●	□
		保育の心理学演習	74	1		○							●	
		教育心理学	75	2			○		○		○		○	□
		家族の心理学	76	2			○	○	○	○	○	○	○	
		保育カウンセリング	77	1					○	○	○	○	○	■
		子育てと父親	78	2						○		○		
		こどもと性格	79	2					○		○			
		コミュニティの心理学	80	2			○		○		○			

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	資格取得科目 保育士	資格取得科目 幼稚園教諭
こども専門科目	子育てと教育の原理	保育原理	82	2	★								●	
		教育原理	83	2				○					●	■
		こどもの保健Ⅰ	84	2			○						●	
		こどもの保健Ⅱ	85	2				○					●	
		こどもの保健演習	86	1					○				●	
		こどもの食と栄養	87	2			○						●	
		こどもの食と調理	88	1						○		○	○	
		保育内容総論	89	2		○							●	■
		保育内容（人間関係）	90	2			○						●	■
		保育内容（環境）	91	2			○						●	■
		保育内容（健康）	92	2		○							●	■
		保育内容（ことば）	93	2		○							●	■
		保育内容（表現）	94	2			○						●	■
		乳児保育	95	2			○						●	
		障害児保育	96	2				○					●	■
		障害児保育演習	97	1					○		○		○	□
		保育方法の研究	98	2					○	○	○	○	○	□
		保育者論	99	2			○						●	
		保育の制度と展開	100	2				○		○		○		
		多文化と保育	101	2						○		○		
		教育社会学	102	2			○		○		○			□
		教育の制度と経営	103	2			○	○	○	○	○	○		□
		カリキュラム論	104	2				○					●	■
		こどもと学習活動	105	2					○	○	○	○		■
		教育の方法と技術	106	2			○	○	○	○	○	○		□
		教職概論	107	2					○	○	○	○		■
		保育・教職実践演習（幼稚園）	108	2								○	●	■
	こどもの文化と環境	こどもと音楽A（理論・ピアノ・こどもの歌）	110	1	○								●	□
		こどもと音楽B（理論・ピアノ・簡易楽器）	111	1		○							●	□
		造形表現（図画工作）	112	1		○							●	□
		児童文化	113	1			○	○	○	○	○	○		
		ピアノ応用	114	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		ピアノ実践	115	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		声とからだ	116	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□
		器楽・合奏	117	1			○	○	○	○	○	○	○	
		応用伴奏法	118	1							○			
		絵画制作	119	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		イノセンスアート	120	1				○		○		○	○	
		アートコミュニケーション	121	1	○		○		○		○			
		絵本と児童文学	122	2				○		○		○		□
		物語とこども	123	2			○		○		○			□
		絵本学	124	2	○		○		○		○			□
		おもちゃと文化	125	2			○	○	○	○	○	○		
		おもちゃ論	126	2			○	○	○	○	○	○		
		保育教材演習	127	1		○							●	□
		あそびと科学	128	2			○		○		○			□
		自然観察	129	1				○						
		英語の歌あそび	130	1		○		○		○		○		
		国語	131	2					○	○	○	○		□
		算数	132	2					○	○	○	○		□
		幼児体育	133	1			○						●	□
	保育・福祉・教育の現場に学ぶ	保育実習指導ⅠA	135	1			○						●	
		保育実習指導ⅠA	136	1			○						●	
		保育実習指導ⅠB	137	1				○					●	
		保育実習指導ⅠB	138	1				○					●	
		保育実習ⅠA（保育所）	139	2			○						●	
		保育実習ⅠB（福祉施設）	140	2				○					●	
		保育実習指導Ⅱ	141	1						○			○	
		保育実習指導Ⅱ	142	1						○			○	
		保育実習Ⅱ（保育所）	143	2						○			○	
		保育実習指導Ⅲ	144	1						○			○	
		保育実習指導Ⅲ	145	1						○			○	
		保育実習Ⅲ（福祉施設）	146	2						○			○	
		幼稚園教育実習指導	147	1					○	○	○	○		■
		幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	148	2						○				■
		幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	149	2							○			■

●保育士必修科目　○保育士選択科目
■幼稚園教諭必修科目　□幼稚園教諭選択科目

人間総合科目

（文化・社会）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニティの社会学	（講義・演習・実習）	金　美珍

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

(1)コミュニティと空間をキーワードとして、その内側にいる〈私たち〉と外側に置かれる〈彼ら（他者）〉の関係について、社会学的な考え方や見方を学んでいく。

(2)コミュニティの内と外の境界線を超えて、他者を理解することの重要性と難しさを考える。

［授業全体の内容の概要］

私たちは、家族や友人といった身近な集団から国といった大きな共同体など、様々な集団に所属して生きています。それぞれの集団では特有の価値や規範が存在し、〈私たち〉はそれらを学び、共有し、実践しています。しかし、一方で、こうした集団は、しばしば内と外、あるいは自己と他者を区別し、包摂と排除を伴います。この授業は、コミュニティが持つ文化、価値や規範の働きについて検討していきます。また、私たちが自分たちとは異なるとしてしまう他者の存在に注目し、その理解の方法を考えていきたいと思います。

［授業終了時の到達目標］

授業を通じて、身の回りにある集団や共同体のあり方について社会学的な見方・考え方を理解するとともに、これまで自身が「当然」だとしてきた考え方を批判的に思考する態度を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．イントロダクション
2．コミュニティの理解　親密性と公共性
3．コミュニティの理解　家族、共同体
4．他者の理解をめぐって
5．他者理解の難しさ
6．包摂と排除：共同体と暴力(1)
7．包摂と排除：共同体と暴力(2)
8．共同体形成のメカニズム
9．共同体作動のメカニズム
10．伝統社会とコミュニティ
11．リスク社会とコミュニティ
12．地域社会とコミュニティ
13．若者とコミュニティ
14．高齢化とコミュニティ
15．まとめ
期末レポート

［準備学習］

講義中に配布した資料は次回の講義までに読み、講義内容の理解を深めてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特になし（授業内で資料を配布する）

参考文献：各回で使用する参考文献は異なるため、以下は一例となる。

倉沢進、2002、『改訂版　コミュニティ論』、放送大学教育振興会。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　40%

期末レポート　60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
法学（日本国憲法を含む）	（講義・演習・実習）	横手　逸男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

憲法、民法及び行政法の基礎知識を学ばせるとともに、私たちの生活のどのような場面で法との密接なかかわりがあるのかを、具体的な事例を取り上げながら講義し、法の役割や作用を理解させる。社会の一市民として、日常生活を送るに際し必要な憲法及び法律の基礎知識を、具体的な事件・判例、論争の検討により、正しく認識させる。

［授業全体の内容の概要］

法は人間社会を規律する交通信号のようなものである。それゆえ社会生活を営むうえにおいてはこれらの法を正しく認識することが不可欠である。授業では社会のさまざまなきまり、法の目的、法の種類、裁判制度等を概観したうえで、結婚や離婚、交通事故、幼稚園での事故、犯罪と法、社会保障制度、社会福祉、環境問題など社会生活を送るに際し、われわれが直面すると思われる問題にスポットを当て、裁判で争われた具体的事例をまじえながらわかりやすく講義したい。特に、保育現場における乳幼児の事故については、判例の検討を通じて、その法律上の問題点を詳しく検討する。

［授業終了時の到達目標］

私たちの日常生活における、さまざまな問題に関する法律上の問題を学ぶことにより、社会生活を送るに必要な法的基礎知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義の概要、法の概念と特色（民法・行政法の基本）
2．憲法の基本原理，平和主義
3．裁判制度、民事事件・刑事事件（法と強制力、法源、民事事件・刑事事件の進行）
4．基本的人権の体系、法の下の平等
5．家族生活と法（結婚・離婚に関する民法の規定・親権）
6．人身の自由（犯罪と法、罪刑法定主義、犯罪・刑罰、受刑者の処遇）
7．死刑の存続・廃止をめぐる問題
8．生存権（社会権規定、生活保護法、人間らしい生活とは）
9．社会保障と法（高齢化社会と社会保障、介護保険法）
10．権利擁護の制度（権利擁護の考え方、成年後見制度の知識）
11．社会生活と法①交通事故（交通事故と損害賠償、加害者の責任）
12．社会生活と法②保育現場における乳幼児の事故
13．経済生活と法③ネズミ講・マルチ商法
（悪質商法の種類、訪問販売等に関する法律、クーリング・オフ制度）
14．環境破壊をめぐる裁判（環境権、被害者の救済、公害・環境裁判）
15．わが国の政治制度（三権分立、国会と内閣、議院内閣制）
授業到達目標達成度判定の筆記試験

［準備学習］

毎回の授業の終りには、次回の授業予定とテキストの範囲を述べます。テキストの該当ページはあらかじめ一読して授業に臨んで下さい。

［使用テキスト・参考文献］

『私たちと法』　法律文化社

（参考文献）
『新六法』三省堂　2017年度版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・小テスト　30%
期末テスト　70%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
現代人と宗教	（講義・演習・実習）	九里秀一郎

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

宗教はもともと人間生活の中から生まれてきたものであり、生と死について、生きることの意味について、人が理解する営みに根ざしている。この授業では、「人間」と「宗教」の関係と営みについて、現代の課題を十分に踏まえ、伝統的宗教が語り伝えてきたことを学習する。

［授業全体の内容の概要］

スピリチュアルケアの視点から、現代人と宗教の課題について理解を深める。世界宗教の中で最もポピュラーな聖書を概観し、聖書が現代人と宗教の課題にどのように応答するか考察する。

［授業終了時の到達目標］

①現代のスピリチュアルケアにおける宗教的側面を理解する。
②人類の歴史における宗教の役割、宗教の世界的現状を理解する。
③聖書の構成と歴史について理解する。
④旧約聖書、新約聖書の内容について理解を深める。
⑤聖書と現代社会との関係をスピリチュアルな話題を通して理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．授業概要
2．現代人と宗教の課題－1（スピリチュアルケアの意義）
3．現代人と宗教の課題－2（スピリチュアルな健康）
4．現代人と宗教の課題－3（スピリチュアルな課題）
5．世界の宗教（世界宗教、身近なキリスト教）
6．聖書について（構成と歴史）
7．旧約聖書－1（天地創造物語、人間の誕生）
8．旧約聖書－2（カインとアベル物語、人間の罪）
9．旧約聖書－3（律法）
10．旧約聖書－4（預言者）
11．新約聖書－1（イエスの生涯、誕生と死）
12．新約聖書－2（奇跡物語）
13．新約聖書－3（イエスの教え①）
14．新約聖書－4（イエスの教え②）
15．まとめ（スピリチュアルケアと宗教）
レポート

［準備学習］

①プリントと聖書（抜粋）を配布しますので、それを使って予習・復習する。（各2時間、15回）
②「現代人と宗教の課題」「旧約聖書」「新約聖書」について、それぞれ指示された課題についてレポートを作成する。（各10時間、3回）

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリント配布
参考文献：聖書（抜粋プリント配布）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：10%
レポート：90%
レポートの講評を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育学概論	（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

1．自分たちが受けてきた教育を相対化して認識できる力を養う。
2．日本の学校教育の歴史を含め、近代公教育の成立と展開の原理を学ぶ。
3．学校教育が抱える現代的な課題について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

1．これまで受けてきた学校教育について反省的にとらえる契機を与え、教育一般について省察的な意見をもてるような交流を行う。
2．近代公教育の変遷を系統的に説明し、教育の原理に関する思想の展開を解説する。
3．いじめ、体罰、学級崩壊、不登校、スクールセクハラなどの現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討する。
4．受講者数を勘案し、可能なら、グループワークを取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

1．自分の受けてきた学校教育だけが学校教育の在り方ではないことを理解できるようにする。
2．近代公教育の歴史的な展開を理解できるようにする。
3．現代の教育が抱える諸問題について、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．これまで受けてきた教育のふりかえり…「私」はいったい何人いる？
3．商品化した教育市場と大学大衆化…なぜ、大学の授業に学習意欲がわかないのだろう？
4．子どものとらえ方…教育の原理は、一つではない。
5．経済格差と学力問題…文化資本と学習意欲は相関する。
6．現代の貧困と児童虐待…児童虐待の社会的背景は？
7．体罰問題…なぜ、体罰はなくならない？
8．いじめの構造…いじめられる子どもに問題があるのだろうか？
9．不登校問題と多様な学び…学校だけが学びの場？
10．学校教師の労働状況…先生の仕事は結構大変なのに…。
11．発達障害への理解…大学生の中にもいる発達障害
12．スクールセクハラ問題…実習でスクールセクハラを受けたら。
13．学力評価によってうまれたこと…どうしてKYが生まれるのか？
14．近代公教育の成立と教育原理…もともと教育は「私の自由」に属することだった。
15．近代公教育の展開とその課題…競争･管理になってしまった教育はなぜ生まれた？
定期試験

［準備学習］

受講にあたって準備は必要ありませんが、授業中で提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の中で､テーマにそった資料を配布します。
参考文献：『〈いじめ〉〈迫害〉』（全国生活指導研究協議会編、クリエイツかもがわ）、佐々木正美・梅永雄二『大学生の発達障害』（講談社）、山口和孝・谷口典雄『センター試験―その学力に未来はある―』（群青社）
他は授業の展開に応じて紹介します。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート：30％
定期試験：70％
合計して60％以上合格

授業科目名	授業の種類	授業担当者
やさしい経済学	（講義・演習・実習）	中村　泰治

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

1．社会の基礎をなす経済と経済学の歴史を知ること。
2．経済の基本原理を理解すること。
3．社会の基礎をなす政府の経済的役割を理解すること。

［授業全体の内容の概要］

私たちの生活している社会の経済システム（市場経済）を歴史と理論の両面から論じるとともに、現代社会においてますます重要性を増している政府の経済的役割について説明する。

［授業終了時の到達目標］

基本的な経済の仕組みと政府の役割を知ることによって、自分や政府の行う経済活動の社会的な意味や意義を理解できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．経済と経済システム
2．市場経済の特徴
3．世界市場の成立
4．産業革命と企業活動
5．企業の目標と形態
6．政府の基本的役割
7．市場と価格
8．企業と生産
9．労働市場と家計
10．競争の意義
11．金融の原理
12．財政の仕組み
13．経済成長と現代社会
14．経済政策と現代社会
15．まとめ
試験

［準備学習］

テキストは使用しないが、授業の前に参考文献の関連箇所は読んでくること。また、毎日の経済や財政に関するニュースを関心をもって見聞きすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキストは使用しない。参考文献として伊藤元重『はじめての経済学』（日経新聞出版社）をあげておく。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度など：20%
試験・レポートなど：80%
小テストを実施し返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
歴史入門	（講義・演習・実習）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

過去を知ることは、現在を考える上で欠かせないことであると同時に、将来への展望を描く上にも欠かすことはできない。「歴史に学ぶ」ことを怠ると、現在に迷い、将来に憂うことになりかねない。真摯な気持ちで歴史に向き合いたい。とかく「暗記物」と敬遠されがちな歴史だが、映画を通して考えることによって受講生にとってより身近な問題として取り組ませたい。

［授業全体の内容の概要］

歴史を学ぶとは「暗記する」ことではなく「考える」ことである。21世紀を迎えた地球の現状（環境問題、民族や宗教紛争、貧困問題など）を見る上で原因究明や解決方法模索のためには歴史を学ぶ必要がある。戦争の世紀といわれた20世紀から平和を志向した21世紀に入ったにも拘わらず起こった「９月11日」以来、合衆国ばかりか世界が変わったと言われる。世界の歴史を考える上で、アメリカ史を通して歴史を学んでいく。「９月11日以降の世界を考える」を主たる目的として、20世紀以来残されたドキュメンタリーを含み、事実に基づいたアメリカ映画や身近な音楽を用いて視聴覚にも訴えながら講義を進める。

［授業終了時の到達目標］

現在の日本や世界を考えるために、歴史を学ぶのだという「眼」をもって受講後も、世界の行方や動きを見ていく大学生に成長する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介：時事ニュースから始める歴史学習
2．旧約聖書から読み解く中東和平：映画『プリンス・オブ・エジプト』
3．ギリシャ神話から知る西洋：映画『トロイ』
4．西洋と東洋の出会いから生まれたヘレニズム文化：映画『アレキサンダー』
5．十字軍が聖地から持ち帰ったものは…：映画『ダ・ヴィンチ・コード』
6．ケルト民族の伝説的英雄：映画『キング・アーサー』
7．大航海時代の始まり：映画『1492・コロンブス』
8．アメリカ先住民の悲劇の始まり：映画『ポカホンタス』と『ニューワールド』
9．アメリカ黒人奴隷貿易の実態：映画『アミスタッド』
10．南北戦争での逃亡奴隷と西方先住民：映画『グローリー』と『ダンス・ウイズ・ウルブス』
11．移民たちの夢「土地獲得レース」：映画『遥かなる大地へ』
12．日米関係を真珠湾攻撃と原爆投下から考える：映画『パール・ハーバー』
13．ハリウッドが描くマッカーシイズム：映画『真実の瞬間』
14．「９月11日」以降の世界を考える：映画『ワールド・トレード・センター』
15．まとめ（歴史入門を通して学習したことの整理）
最終試験

［準備学習］

講義初回で配布する詳細なシラバスに、毎回のテキスト予習頁が記載されている。この部分を熟読してから講義に臨むように心がけること。次回の予習をする前に、前回の該当頁を再度読んで、充実したノートを作るように復習の時間を重ねるようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
岩本裕子『スクリーンに投影されるアメリカ』
（メタ・ブレーン、2003年）
（参考文献）
随時講義で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。
受講態度　20%　　中間レポート　20%
期末試験　60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
美と表現	（講義・演習・実習）	船木美佳・クリスティーヌ・プレ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

美術の世界を体験しながら、自己の想像の枠を拡げ、日常生活において美やその楽しさの発見者となり、それを表現することができるようになる。また環境と時間にあわせ、多様な素材を使いながら、自分の表現力を高めることで、はじめて他者とのコミュニケーションが開けてくることを学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

美術史上の作品を参照しながら、アイデアや発想の着眼点を研究しその表現の多様性を学ぶ。同時に、実践の制作現場においては頭でなく手で「自分もやりたいこと」を探っていく。各課題に対し、時間や素材または環境の制約を、「何ができるか」を絞る条件として捉えることで、発想を柔軟にしていく。

［授業終了時の到達目標］

自分が「何をしたいのか」を、常に実践しながら思考できるようになる。また「何がしたいのか」を明確にすることで、時間の使い方も能動的になることが望ましい。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．コラージュ　ディスカッション
3．自画像Ⅰ　リテラシー（美術史より）
4．自画像Ⅱ　制作
5．自画像Ⅲ　制作　ディスカッション
6．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅠ
7．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅡ
8．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅢ
9．身体と動きと空間　自然の中での制作1　リテラシー
10．身体と動きと空間　自然の中での制作2
11．イマジネーションを拡げる　グループワーク
　　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践1
12．イマジネーションを拡げる　グループワーク
　　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践2
13．イマジネーションを拡げる　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践3
14．イマジネーションを拡げる　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践4
15．総合ディスカッション
提出物　レポートなど

［準備学習］

できればブルーノ・ムナーリの絵本などに触れておくことが望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時指示

参考文献：ブルーノ・ムナーリ画集
　　アンディー・ゴールズワージー画集

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験やレポートの評価基準など）
課題作品　レポート　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
歌舞伎入門	（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

2005年にユネスコによって世界遺産となった日本の伝統芸能のひとつである歌舞伎に接し、日本の伝統文化を見なおす。そして歌舞伎の諸様式を理解することで歌舞伎を生涯にわたって楽しめるような基本的な知識を獲得する。

［授業全体の内容の概要］

古典で難解だと思われている歌舞伎を、様々な約束事を知ることによって楽しめるようになるよう、そのきっかけをつくることをめざす。歌舞伎には12種類の様式（武智鉄二）があるとされ、現在、もうひとつの様式が加わりつつある。絶えず変化し、進化している演劇である。この講義では歌舞伎の主人公や、それにまつわる人たちやキー・ワードを毎回、取り上げて、歌舞伎の歴史やそこから生まれた諸様式の特徴を説明し、また、歌舞伎の中のいろいろな約束事を解説し、学生が歌舞伎の世界への関心を深められるよう講義を進める。

［授業終了時の到達目標］

歌舞伎座、国立劇場で観劇した場合、その演目のジャンルの違いによって、主題・演技・演出が違うことを理解できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．歌舞伎の特徴（律動性と絵画性）
2．現代の歌舞伎興行（俳優・裏方・音楽集団・興行会社）
3．出雲のお国（歌舞伎誕生と初期歌舞伎）
4．廓文章と封印切と和事（上方歌舞伎）
5．市川団十郎と荒事（江戸歌舞伎）
6．仮名手本忠臣蔵と義太夫狂言の特徴
7．義太夫狂言の展開（丸本歌舞伎）
8．歌舞伎のB·G·M（下座音楽）
9．京鹿子娘道成寺と歌舞伎舞踊のパターン
10．東海道四谷怪談（四世鶴屋南北の生世話）
11．河竹黙阿弥の世話物と江戸浄瑠璃（白浪五人男と直侍と三千歳）
12．勧進帳と松羽目物（明治の歌舞伎）
13．番町皿屋敷と新歌舞伎
14．ヤマトタケルとスーパー歌舞伎（現代の歌舞伎）
15．まとめ（もしくはレポート）

試験

※授業（2回相当分）を歌舞伎座及び歌舞伎座ギャラリーで行う予定。実施日は追って通知する。

［準備学習］

下記の参考文献を予・復習の時、該当項目ごとに読む。ノートを見開きにして、左側に板書、右側に疑問点を書き、調べ解決するようにする。分からない点は教員に積極的に質問し、自己を常に向上させるよう努力する。

次の回のとき、「日本芸術文化振興会」「文化デジタルライブラリー」にアクセスし、読んでくること。

4回 元禄文化と和事、5回 歌舞伎の成立と荒事、9回 歌舞伎舞踊、10回 鶴屋南北、11回 黙阿弥

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）なし、プリントを配布。

（参考文献）

『歌舞伎入門』岩波ジュニア新書

『歌舞伎への招待』岩波現代文庫

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

試験　60%

授業態度　40%

修了時にノート提出。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
日本文化	（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

江戸期の都市（京・大阪・江戸）の消費過程で発生し進化した落語という笑いの文化を理解し日本の社会における人間関係の基層の文化を理解する。その落語がなぜおもしろいのか、歴史的な背景やことばの面からも解き明かすことで、落語を身近に感じ、よりいっそう深く味わえるようになることを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

文化を都市の消費過程で生まれた精神的遺産と定義して江戸期の三都（京・大坂・江戸）で誕生し、進化している笑いの文化としての落語を取り上げる。落語の歴史や江戸の歴史的背景、話芸としての落語の言葉（日本語）の特徴、オチの分類、噺の展開のパターン、下座音楽等を総合的に解説し、落語が何故おもしろいのかを解き明かし、落語をいっそう深く味わうことを目標として講義を進める。また、以上の説明に際して、ビデオ、CD をふんだんに活用するほか、プロの落語家の実演を交えた授業の展開を行う。

［授業終了時の到達目標］

滑稽噺の様々なジャンル、人情噺、新作落語の特質を理解し、日本文化理解の一助となる能力を獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．寄席の興行システムと寄席の符牒
2．実際に落語体験（ゲスト　金原亭馬生師匠）
3．落語の構造（マエオキ・マクラ・本題・オチ）
4．滑稽噺 v.s.人情噺
5．落語のマエオキ、マクラ
6．落語の本題のパターン
7．オチの様々Ⅰ
8．オチの様々Ⅱ
9．落語のシグサ（手ぬぐいと扇子の使い方）
10．落語の歴史と亭号
11．正本芝居噺（落語と歌舞伎）
12．上方落語の特質（東京落語との比較を通して）
13．寄席囃子概説（組織と用途）
14．新作落語とは（ゲスト　三遊亭円丈師匠）
15．まとめ
試験

［準備学習］

下記の参考文献で予・復習すること。（大学の図書情報センターに登録）毎回、聴く落語についてコメント（ペーパーによる）を求めるが、授業内でまとめることは困難である。各自、無料動画サイトで、その日の内に、別の演者の同じ落語を聴き、印象の違いを明らかにしまとめる。

第4回までに浅草演芸ホール、鈴本演芸場、池袋演芸場、末広亭の一つを選び、5月上席の昼の部の落語家と色物を区別し、そのリストを提出すること。（それぞれの寄席のホームページにアクセスすること。）

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
なし、プリントを配布。
（参考文献）
『落語の言語学』平凡社ライブラリー
『落語の歴史』河出書房新社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　60%
授業態度　40%
ファイル及びノート提出を試験時に課す。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
アジアの社会と文化	（講義・演習・実習）	権　賢貞

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

アジア社会の形成の歴史の多様さや、多民族の特性にもたらされた多種多様な文化や生活スタイルを講義すると共に、一つ一つの国の生活と文化を取り上げ、その類似点と相違点を理解し、アジア共生社会への移行まで目を向けていく。授業の目標としては、アジア社会の急激な変動及び統合の情勢に対応できる能力を身につけることである。

［授業全体の内容の概要］

1）アジア社会への理解　　2）アジア文化の特徴と魅力
3）東アジア諸国の生活と福祉文化　　4）アジアの共生社会の構築

［授業終了時の到達目標］

①アジア社会への興味を持ち理解する。
②アジア社会の特徴を理解し、その国や文化を尊重する。
③アジアの共生社会であることを認識する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．アジア諸国の概要（地理、歴史、政治など）
2．アジア諸国の経済
3．アジア諸国の教育
4．アジア諸国の福祉
5．アジア諸国の社会と社会問題
6．アジア諸国の民族と多文化社会
7．アジア諸国の伝統文化
8．アジア諸国の食文化
9．アジア諸国の若者文化
10．アジア諸国の結婚文化
11．アジア諸国の言語
12．アジア諸国の言語行動の比較1
13．アジア諸国の言語行動の比較2
14．アジア諸国の非言語行動の比較1
15．アジア諸国の非言語行動の比較2
試験

［準備学習］

授業の最後で毎回の準備学習として参考文献や資料調べ等について指示する。

［使用テキスト・参考文献］

（使用テキスト）毎回プリントを配布
（参考文献）西川長夫『アジアの多文化社会と国民国家』人文書院　1999、萩原康夫『アジアの社会福祉』財団法人放送大学教育振興会　2010、環日本海学科　編『北東アジア事典』2006、服部民夫、金文朝　編『韓国社会と日本社会の変容』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40%
試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
アメリカの生活と文化	（講義・演習・実習）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

アメリカ文化を学ぶことにより、「アメリカ化」されたかに見える日本文化といかに異なるかを確認していく。異文化をその生活を通して学んでいく。祝日や宗教的な祭事（ハロウィーンやクリスマス、バレンタインデーなど）に表れたアメリカ社会の様相を、映画を通して理解させたい。

［授業全体の内容の概要］

日本人の生活がアメリカ化された事実を自覚しないまま我々は日々暮らしている。マクドナルドやコカ・コーラ等の表面的なアメリカ文化に留まらず、彼らの生活を知り、アメリカ文化の特殊性を考えていきたい。人種、宗教、民族、ジェンダーといった多文化要因をキーワードにアメリカ社会を考えると、アメリカばかりか世界のありようも見えてくる。アメリカ的生活をする日本人も国民性は大きく異なり、まさに異文化であることが実感されるだろう。ハリウッド映画やヒップ・ホップ等の若者文化を手がかりに日本の次世代に「文化」とは何かを問題提起したい。

［授業終了時の到達目標］

アメリカの祝日や行事を学んだことによって、日本にも入ってきている行事(ハロウィーン、クリスマスなど）に対して、積極的な知的好奇心を持ち続けながら、子どもたちに接することのできる保育者になる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介：身近なところに見つけるアメリカ文化
2．過ぎ越しの祭：映画『ファミリー・ビジネス』
3．復活祭：映画『イースター・パレード』
4．メモリアルデー：映画『めぐり会えたら』
5．独立記念日：映画『７月４日に生まれて』
6．ワシントン大行進：ドキュメンタリー『勝利を見すえて』
7．レーバーデイ：映画『スタンド・バイ・ミー』
8．コロンブス・デー：映画『1492・コロンブス』
9．ハロウィーン：映画『ET』
10．大統領選挙：映画『パーフェクト・カップル』
11．感謝祭（サンクスギビング・デー）：映画『34丁目の奇跡』
12．クリスマス：映画『ホームアローン２』
13．キング牧師誕生日：映画『ロング・ウォーク・ホーム』
14．セント・パトリック・デー：映画『逃亡者』
15．まとめ（アメリカの生活と文化で学習したことの整理）
最終試験

［準備学習］

講義初回で配布する詳細なシラバスに、毎回のテキスト予習頁が記載されている。この部分を熟読してから講義に臨むように心がけること。次回の予習をする前に、前回の該当頁を再度読んで、充実したノートを作るように復習の時間を重ねるようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
岩本裕子『スクリーンで旅するアメリカ』
（メタ・ブレーン、1998年初版2002年重版）
（参考文献）
随時講義で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。
受講態度　20%　　冬休みレポート　20%
期末試験　60%

人間総合科目

（生命・自然）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
自然科学の成立と発展	（講義・演習・実習）	宮城　敦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

近年、若年層の理科離れが進んでいる。原因は理科の授業時間の短縮化、授業内容の簡略化などのほか、背景に有る概念やひらめきに至る思考の積み重ねなどを学ぶ機会が無い事も、科学に対する理解がなかなか進まない一因であると考えられる。この授業では、自然科学を史学的な視点から学ぶことにより、科学とは何か、何故私たちの生活に必要不可欠であるのか、科学を活用する上での問題点は何かを考える思考力を身につける事を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

普段、私たちの便利な生活を支える自然科学がもたらした技術がどのようにして発明・発見されてきたか、人は科学技術とどのように向き合って行くべきか、意識したり考えたりする機会は少ないかもしれない。この授業では、現代の私たちの便利な生活を可能にした科学や技術がどのように生まれ、発展してきたかを科学史の視点から考え、これまでに学んで来た科学知識の裏にはどのような背景があったのかを学ぶ。また、近代科学技術の発展がもたらした「近代兵器、地球温暖化を含めた環境問題」など負の側面や科学倫理について学び、自然科学をこれからどのように発展させて行くべきなのか考える。

［授業終了時の到達目標］

これまでの科学の発展の過程を把握するとともに、現在の技術とその問題点について技術的および倫理的観点から自分なりの解決法を意識し考えられるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業のガイダンス、自然科学概論
2．古典科学入門
3．古代ギリシャと哲学
4．宗教と科学
5．ギリシャ・ローマ文明と科学
6．ルネッサンスと科学(1)
7．ルネッサンスと科学(2)
8．アジアの文明と科学
9．近代科学の幕開け
10．近代科学・物理学の発展
11．近代科学・化学の発展
12．近代化学・生物学の発展
13．21世紀の科学
14．地球環境・公害問題
15．科学倫理論
期末試験、小テスト

［準備学習］

中学、高校で学習した自然科学（物理・生物・化学・地学等）の内容をもう一度復習して、自分なりにまとめてみる。史学と重なる部分も多いので、高校で使用した世界史の教科書に目を通しておくと良い。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
アイリック・ニュート著、猪苗代英穂訳『世界のたね：真理を追い求める科学の物語』NHK 出版

※適宜資料プリントを配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み	10%
小テスト	20%
期末試験	70%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生命の倫理	（講義・演習・実習）	宮城　敦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

生命倫理とは何かを講義を通して学ぶ。科学技術に関する原理や手法を学んだり、新聞記事やニュースなどから最新の生命倫理に関わる情報を収集したりすることで、生命倫理は自分自身にも密接に関係している問題であることを理解する。

［授業全体の内容の概要］

臓器移植や再生医療、遺伝子組み換えという言葉は知っていても、それがどのような技術なのか、なぜ行われるか、実際にどのようなことに対して使用されているのかなどについて、詳細まで理解している人は多くない。究極の個人情報である遺伝子をどのように扱うのか、人間とそれ以外の生物では命の価値は違うのか、自分の命についてなど、現在、問題として取り上げられる様々なテーマについて詳細を学習し、新聞などを題材として話し合い、自分はその問題に対してどのような意見を持つか考える。

［授業終了時の到達目標］

生命現象に関わる現在の科学技術に関する知見を得たうえで、生命倫理に関する諸問題において多角的な観点から自分自身で考え、自らの意見を述べることができる。さらに、他者の意見に対する賛否とその理由を論理的に意見できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、生命倫理概論
2．生殖補助医療
3．妊娠中絶と胎児の権利
4．クローン技術の進歩
5．動物の倫理
6．幹細胞研究と再生医療への応用
7．がんの告知
8．インフォームド・コンセント
9．尊厳死と安楽死
10．薬物とエンハンスメント
11．臓器移植と生命倫理⑴背景
12．臓器移植と生命倫理⑵問題点
13．医療技術の発展と長寿化
14．脳死移植
15．災害と生命倫理
レポート

［準備学習］

新聞、テレビ、ネットなどの生命倫理にかかわるニュースに関心を持ち、自分の意見を考えておく。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
黒崎剛「生命倫理の教科書」ミネルヴァ書房、2014

※資料プリントを適宜配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、提出物：40%
レポート：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生きる心理学	（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

現代のこころの科学としての「心理学」が成立した過程、および心理学は何を目標として、どのような問題を解決しようとしているか、という全般的な見方を伝える。

［授業全体の内容の概要］

全体をとおして、動物と人間の比較の観点を重視している。生物的存在としての「ヒト」と社会的存在としての「人間」と分けて表現しながら、本科目では心理学の多様な側面にふれていく。

［授業終了時の到達目標］

通俗的な「心理学」ではなく、今日の意識と行動を科学的に研究している「心理学」の基礎を理解し、「こころ」について関心を寄せること

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：心理学の視点（心理学とは　方法と研究）初等実験の一例（ESP）
2．こころのありか：行動の基本様式、発達
3．学習・記憶：条件づけ、記憶、神経学的基礎
4．感覚・知覚：感覚の分化と統合
5．思考・言語：問題解決と認知発達、言語的＆非言語的コミュニケーション
6．心理学の実験：記憶、推論と発見　など
7．動機づけ・情動：達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションとコンフリクト
8．個人差：知能、性格、パーソナリティ
9．心理学の実験：夢分析、性格検査　など
10．社会行動：社会行動の意味、対人魅力と対人関係、集団のなかの個人
11．心理学の歴史(1)：こころの概念
12．心理学の歴史(2)：精神医学の影響
13．心理学の歴史(3)：心理学の成立
14．心理学の歴史(4)：科学としての心理学の展開と現在
15．まとめ：振り返り
試験
注）実験は順不同の場合がある

［準備学習］

①次回の授業のテキストの範囲を読み、わからない用語など調べておくこと
②前回の授業の範囲を復習すること
③課題がある時はそれを授業の前までに必ずやってくること

［使用テキスト・参考文献］

使用テキスト：「心理学［第５版］」鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃［編］東京大学出版会
参考文献：新聞記事等適宜、授業時にコピーを配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

成績評価の方法・基準：
授業態度　30%　　試験　70%
課題・成績評価のフィードバック：
・小テストは採点して返却する
・振り返りの提出シートはコメントをつけて返却するか、クラス全体に講評を伝える

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生きる心理学	（講義・演習・実習）	皆川　　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

ひとが生まれて死ぬまでの人生を心理学的に考察することがねらいである。ひとというものに対して、多面的にとらえていく方法論を学ぶ基本姿勢を作ることが達成目標である。さらにはこの講義を通じて、受講生みずからの生きる喜びや意味を見出していって欲しい。

［授業全体の内容の概要］

心理学はその起源をギリシア哲学に発しており、「こころ」という目に見えない対象を実証的に研究しようという学問である。したがって、その研究方法は、物理学や生物学の方法を応用した自然科学的なものから、哲学や現象学、社会学、歴史学の方法を応用した人文・社会科学的なものまで、さまざまな方法が用いられている。そのために、幅広くできるだけわかりやすい「心理学」の概説が中心になる。今日的な話題について、学生とともに討議する参加型の授業も取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

生物－心理－社会を切り口に、人間がひととして「生きる」ということを考察して、人間を温かく心理学的に見つめる目を養う糸口を得る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：心理学とは？この授業で学ぶ「心理学」の位置づけ
2．心理学の歴史と内容⑴実験心理学系統
3．心理学の歴史と内容⑵教育心理学系統・臨床心理学系統
4．錯視・学習
5．記憶
6．パーソナリティの理解
7．知能と性格
8．発達
9．対人関係
10．意識と無意識⑴適応とは
11．意識と無意識⑵交流分析
12．社会現象の心理学
13．さまざまな心理療法（自律訓練法他）
14．カウンセリング理論と技法について学ぶ
15．心理学研究法
試験

［準備学習］

適宜、テキストや参考文献の資料を配布するが、次回の授業までにかならず目を通して、必要な場合にはキーワードなど下調べをしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
藤本忠明・栗田喜勝他著『ワークショップ心理学』
￥2,000＋税　ナカニシヤ出版
その他、関連資料をプリントで授業ごとに配布する。
パワーポイントによる学習を中心とする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
期末テスト80％
授業態度、提出物20％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生活と環境	（講義・演習・実習）	石川　寿樹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

[授業の目的]

私たちの生活は地球環境のうえに成り立ち、また環境へも大きく影響を与えている。私たち自身が安全に生活するために、また無駄に自然環境を壊さないために、現代社会が直面している様々な環境問題を科学的に理解し、自らの問題として考えられるようにする。

[授業全体の内容の概要]

科学技術が進歩し私たちの日常生活は大変便利になったが、様々な問題が生じてきた。特に環境問題は全人類的な課題である。本講義では、私たちを取り囲む地球環境の成り立ちを理解するため、自然科学の基礎を学び、さらに現代社会が直面している環境問題を取り上げ、その原因や問題点、対策を科学的な観点から学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

様々な環境問題の科学的側面を理解し、生活との関わりの上での解決方法について自分なりの意見を述べることができることを期待する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業の目的と準備
2．環境とは
3．地球温暖化(1)
4．地球温暖化(2)
5．水と生活環境
6．酸性雨と大気汚染
7．公害と新たな都市環境問題
8．エネルギー問題(1)
9．エネルギー問題(2)
10．生活と化学物質
11．森林破壊と生物多様性
12．放射線とその利用
13．環境問題解決のための新たなアプローチ
14．循環型社会の構築を目指して(1)
15．循環型社会の構築を目指して(2)
期末試験

[準備学習]

近年様々な環境問題が注目され、エコへの意識が高まってきている。各自日常生活の中で見聞きする身近な環境問題・エコについて注目し、事前に考えをまとめておく。

[使用テキスト・参考文献]

毎回プリントを配布する。

（参考文献）
鈴木孝弘著「新しい環境科学」

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度　40%
期末試験　60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生き物の科学	（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

・講義や観察から、生物の世界を理解する。
・顕微鏡の使用方法や DNA の抽出方法など生物学に不可欠な技術について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

地球上には様々な生物が存在し、生物であふれている。人間も地球上に存在する生物の一種にすぎない。DNA など生物の体を構成する物質から生物の集団までを講義や観察を通して学び、さらに現代のバイオテクノロジーについても学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・様々な生物の世界について理解し、簡単に説明ができる。
・生物の実験、観察についてのレポートが作成できるようになる。
・生物に関する簡単な英文を、辞書を使用しながら読むことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．授業概要、生物観察の技術
2．生物の分類①　学名
3．生物の分類②　系統樹
4．魚類の体のつくりの観察
5．カイメンの骨片観察
6．人体
7．細胞
8．植物細胞の観察
9．プランクトンの観察
10．転写・翻訳
11．DNA 抽出実験
12．遺伝
13．酵素
14．免疫
15．まとめ
定期試験・レポート等

［準備学習］

①講義で行った実験についてまとめ、レポートを作成し提出する。
②講義内容について復習し、理解できなかった部分を明らかにしておく。
③講義内で配布する英文の和訳を行っておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時、資料を配布する。

参考文献：新版　生物学と人間
赤坂甲治編　裳華房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート　50%
試験　40%
受講態度　10%
提出されたレポート等は、コメントを入れて返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
生き物の科学	（講義・演習・実習）	石川　寿樹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

講義や実験を通じて生物の成り立ちや仕組みを理解する。また遺伝子組み換えや再生医療など最新のバイオテクノロジーの利点や問題点を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

地球上には微生物から大型動植物まで様々な生物が共存している。講義や実験を通して、DNA やタンパク質など生物の体を構成する物質から、生物の集団までを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

基本的な生物科学の知識を習得し、さらに現代のバイオテクノロジーについてその恩恵と問題点を考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．生物とは？なりたちと分類
2．細胞⑴さまざまな細胞とその構造
3．細胞⑵細胞の観察
4．代謝・酵素⑴代謝・呼吸・酵素
5．代謝・酵素⑵酵素のはたらきを調べる
6．光合成のしくみと植物の色素
7．生殖と遺伝
8．DNA と遺伝子⑴遺伝情報の本体
9．DNA と遺伝子⑵細胞から DNA を取り出す
10．血液・免疫・ホルモン
11．神経と脳
12．環境と生物多様性
13．生物の行動と集団
14．バイオテクノロジー⑴遺伝子組換え技術と再生医療
15．バイオテクノロジー⑵利点と問題点
試験

［準備学習］

講義で扱った内容を復習し、理解しておく。

［使用テキスト・参考文献］

教科書は使用しない。
授業中に適宜資料を配布する。

（参考文献）
生物科学入門　石川統著　裳華房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・レポート等：40%
試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
宇宙へのアプローチ	（講義・演習・実習）	袖山　文彰

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

人類の宇宙開発の歴史はまだ50年あまりであるが、常に最先端の科学技術を結集して日々進歩している。小惑星探査機「はやぶさ」や日本人宇宙飛行士の国際宇宙ステーション長期滞在などのトピックスを切り口に、宇宙開発の歴史や現状、未来について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

人類のこれまでの宇宙開発の歴史やロケットが飛ぶしくみ、最先端の宇宙探査などについて解説していく。

［授業終了時の到達目標］

ニュース等で宇宙に関するキーワードに触れたとき、興味・関心を持って接することができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．授業概要
2．宇宙はどんなところか？
3．世界の宇宙開発
4．日本の宇宙開発
5．ロケット（種類・仕組み）①
6．ロケット（種類・仕組み）②
7．ロケット（種類・仕組み）③
8．宇宙に行く
9．宇宙ステーション
10．宇宙でのくらし
11．宇宙探査①
12．宇宙探査②
13．宇宙開発からのスピンオフ
14．これからの宇宙開発
15．まとめ
試験・レポート等

［準備学習］

普段から宇宙に関するニュースに関心をもって見聞きすること。
科学館やプラネタリウム等に行ってみる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト　随時、資料を配布します
参考文献　宇宙開発がまるごとわかる本（学研）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　40%
試験・レポート　60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
健康とスポーツ	（講義・演習・実習）	青木　秀雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

健康についての基本的な知識を習得し、生涯を通じて心身ともに健康でいるためには何が必要なのか、どんなことに気を付けて生活していけばよいのかを自分の生活を振り返りながら実践的に理解していく。

［授業全体の内容の概要］

我が国における健康についての様々な問題について現状を把握し、その要因等を探り、考察することによって、自らの健康についての関心を高めていく。また、保育士・幼稚園教諭として、子どもの健康を支える様々な保育活動を総合的に捉えていく授業を行う。

［授業終了時の到達目標］

「生涯を通じて心身の健康を保つためには、どうしたらよいのか」というテーマに沿って、学びを深め、健康の保持増進のためにはスポーツや正しいライフスタイルが必要なことを認識していく。また子どもの健康を支えるにはどうしたらよいのかを考える力を養っていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．（ガイダンス）「健康とは」
2．「自分のライフスタイルを認識する①」
3．「生活習慣病①」
4．「生活習慣病②」
5．「健康とレジャー・レクリエーション①」
6．「健康と食習慣」
7．「健康と睡眠」
8．「健康とストレス（心の問題について）」
9．「自分のライフスタイルを認識する②」
10.「健康と運動①」
11.「健康と運動②」
12.「健康とレジャー・レクリエーション②」
13.「現代の子どもの健康について①」
14.「現代の子どもの健康について②」
15.「生涯スポーツへ向けて」
定期試験・レポート等

［準備学習］

事前に参考文献等に目を通し、当該の内容について自分なりの考えをもって授業に臨んでほしい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特に使用しない。（※毎回の授業でプリントを作成・配布して参考資料とする。）
参考文献：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」
・「健康と運動の科学」大修館書店
・「健康・スポーツ科学講義（第２版）」杏林書院
・「子どもの遊び・運動・スポーツ」市村出版
※その他を適宜紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

※定期試験の結果（60%）とともに、レポートの内容（30%）、授業に参加する態度（10%）の総合的な見地により評価する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
体育実技	（ 講義・演習・(実習) ）	北原　澄高

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

[授業の目的]

・技術の向上ではなく、様々な課題に積極的に取り組む姿勢を養う。
・仲間と協力して、一つの作品を創り上げる。

[授業全体の内容の概要]

この授業では、子どもの運動能力の発達段階を知り、それぞれの段階に応じた運動あそびを考え、実践する。また、表現あそびやリズムあそび、ダンス、ゲームなどの様々な活動を通して、動くことの楽しさを知り、積極的に運動に参加できる態度を養う。そして、保育の現場に即した運動あそびや態度を学ぶとともに、将来、安全面に配慮した指導を行うことができるよう、器具・用具などの安全な使用方法を学ぶ。これらの学習を進めながら、保育者として自らに求められる基礎体力に目を向けさせ、それを身につけることができるよう指導する。

[授業終了時の到達目標]

・安全面に配慮した上で、子どもの運動能力の発達段階に応じた運動遊びを実践できる。
・積極的に運動に参加できる態度および協調性を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション・コミュニケーションゲーム
2．体操・ゲーム・運動あそび(1)
3．体操・ゲーム・運動あそび(2)
4．体操・ゲーム・運動あそび(3)
5．体操・ゲーム・運動あそび(4)
6．器具・用具を使っての運動あそび(1)
7．器具・用具を使っての運動あそび(2)
8．器具・用具を使っての運動あそび(3)
9．器具・用具を使っての運動あそび(4)
10．表現あそび・ダンス(1)
11．表現あそび・ダンス(2)
12．表現あそび・ダンス(3)
13．表現あそび・ダンス(4)
14．表現あそび・ダンス(5)
15．創作ダンス発表会（実技試験）

マット・平均台・跳箱・鉄棒・ボール・フラフープ・プレイバルーン・縄

[準備学習]

「数年後には、自分が保育士もしくは幼稚園教諭になる」という自覚を持って参加することが望ましい。運動の出来る服装で参加すること。（第1回目に限り、私服でも可。）

[使用テキスト・参考文献]

特にテキストは指定しないが、下記参考文献を予習・復習に活用してほしい。
（参考文献）
・前橋明『0～5歳児の運動あそび指導百科』2004年、ひかりのくに、￥2500
・西洋子ほか『子ども・からだ・表現～豊かな保育内容のための理論と演習～』2003年、市村出版、￥2200

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

意欲・態度・準備　40%
実技試験　30%
レポート　30%

人間総合科目
（コミュニケーション）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スタディ・ナビゲーションA	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	１年次・前期	必修

［授業の目的］

変化の予測がつかないこの時代に、大学で何を、どのように学ぶのかという問いに答えることは、そう簡単ではありません。１年次の必修科目である、スタディ・ナビゲーションＡ，Ｂの目的は、受講者が自ら、自分自身を成長させながら、その答えを見つけることにあります。

スタディ・ナビゲーションＡでは、大学での学びに必須となる「スチューデント・スキル」と「スタディ・スキル」の内容を理解し、実践と自己分析を通して、それらを確実に身につけていきます。自ら課題を発見し、深く思考し、責任を持って行動を遂げる態度が習慣となり、大学生として主体的に学べることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

大学生としての社会性と自律（スチューデント・スキル）、学びの技術（スタディ・スキル）を身につけるため、大学生活の身近な場面や、学部の特徴を題材に、グループワーク、学習トレーニング、自己分析を継続して行う。また、スタディ・ナビゲーションＢのグループ・プロジェクトに向けての準備を開始する。

［授業終了時の到達目標］

大学生として、安定した学習環境を自ら保持し、主体的に学ぶための基礎能力が身についていること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．授業ガイダンス、スチューデント・スキル①　キャンパスライフ
２．スチューデント・スキル②　学びの環境を構築する
３．スタディ・スキル①　話を聞き、要点をまとめて記録する
４．スチューデント・スキル③　学生生活のリスクを管理する
５．スタディ・スキル②　専門的な文章の情報を読み取る
６．スチューデント・スキル④　友人との人間関係
７．スチューデント・スキル⑤　あらたまった人間関係
８．前半の振り返りと自己評価
９．浦和大学を知る
10．スタディ・スキル③　情報を文章で書いて表す１．
11．スタディ・スキル④　情報を文章で書いて表す２．
12．専門性とキャリア
13．共同調査準備
14．夏休みの課題決め
15．前期の振り返りと後期に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を着実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部スタディ・ナビゲーション担当者編著『浦和大学こども学部スタディ・ナビゲーション』
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート・提出物　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スタディ・ナビゲーションB	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	１年次・後期	必修

［授業の目的］

変化の大きい社会で生きて行くためには、身につけた知識や技術の応用力が問われます。応用力を磨くには、熟考と実践を繰り返すしか方法はありません。スタディ・ナビゲーションBでは、こども学部の特徴を生かしたテーマに基づくグループ・プロジェクトに取り組み、スタディ・ナビゲーションAでの学びを、実践活動を通して強化することと、大学で「主体的に学ぶ」ことの意義と喜びを再認識することを目的とします。また、その活動を通して、教員や他学生との円滑なコミュニケーションの取り方を実践的に学びます。

［授業全体の内容の概要］

スタディ・ナビゲーションAで決めたテーマで、グループ・プロジェクトを進める。そのために必要な研究法やプレゼンテーション法を学び、課題設定、計画の立案、中間発表、結果報告プレゼンテーションまで、規定に沿って行う。また、スタディ・スキルのトレーニングも継続して行う。

［授業終了時の到達目標］

前期に学んだ、スチューデント・スキルとスタディ・スキルを生かし、グループ・プロジェクトを最後までやり遂げること。グループ活動の中で、他人を尊重し、適切な自己表現ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス　全体会
2．共同調査・企画①
3．共同調査・企画①振り返り
4．スタディ・スキル⑤　情報を集める
5．共同調査・企画②
6．共同調査・企画②振り返り
7．スタディ・スキル⑥　図・表の活用方法
8．共同調査・企画③
9．共同調査・企画③振り返り
10．スタディ・スキル⑦　プレゼンテーションの方法
11．共同調査・企画④
12．共同調査・企画④振り返り
13．共同調査・企画プレゼンテーション①
14．共同調査・企画プレゼンテーション②
15．振り返りと来年度に向けて　全体会
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部スタディ・ナビゲーション担当者編著『浦和大学こども学部スタディ・ナビゲーション』
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート・提出物　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリア・ナビゲーション	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	船木美佳・瓜巣由紀子・鶴ヶ谷柊子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
20回	40時間・1単位	2年次・通年	必修

［授業の目的］

この授業の目的は、職業や社会、人生に向き合うための、広い意味でのキャリア展望と、こども学部での学びの専門分野におけるキャリア展望の両方を持ったうえで、自己実現に向けた課題を発見することにあります。

授業では、さまざまな視点から「自己」と「社会」を相対化し、自分自身を客観的に理解することに取り組みます。さらに「社会」と具体的な関わりを持つことによって、大学における専門的な学びが、どう自分自身の将来に結びついていくのかを考えます。少しずつ冷静に将来の展望を描き、大学在学中に達成すべき課題を見つけます。

［授業全体の内容の概要］

自己と社会について、研究的な視点で分析や研究を行うと共に、キャリアガイダンスやフィールド調査、外部講師講演などを通し、実際の社会（人）と関わりを持つことで、視野を広げ、客観的な自己理解に繋げる。また、3年次のインターンシップに備え、社会人としての基本的なマナーを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

客観的な自己理解と自己肯定に基づいた、近い将来の展望を描けること。その展望を実現するための課題を発見すること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．キャリア形成と自己理解①（演習）
2．研究法①
　ブレインストーミングと KJ 法（演習）
3．研究法②
　予備調査法（演習）
4．職業・業界研究①（演習）
5．職業・業界研究②
　キャリアガイダンスへの参加 a（実習）
6．共同調査に向けて（実習）
7．研究法③
　面接法とアンケート調査（演習）
8．共同調査パネル発表①準備（実習）
9．共同調査パネル発表②グループ内での検討（実習）
10．共同調査パネル発表③相互評価（実習）
11．自己のキャリア形成について考える①（演習）
12．自己のキャリア形成について考える②
　履歴書を通して（演習）
13．外部講師招聘（実習）
14．職業・業界研究③
　キャリアガイダンスへの参加 b（実習）
15．自己のキャリア形成について考える③
　ディスカッションを通して（演習）
16．自己のキャリア形成について考える④
　未来への展望を描く（演習）
17．職業・業界研究④
　キャリアガイダンスへの参加 b（実習）
18．社会人としてのマナー①（演習）
19．社会人としてのマナー②（演習）
20．授業振り返り、3年次に向けて（演習）
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、自身の専門領域と社会の繋がりに深く関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業において必要な資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート・提出物　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
スタディスキル	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・ 2 単位	1 年次・通年	必修

［授業の目的］

スタディスキルでは、「大学での学びの基本技術」と「社会人としての基礎能力やマナーを身につけること」を目的とする。ここでは、「読む・聞く・話す」力を伸ばすことを主軸に考え、年間を通じたプログラムを組んでいる。それが理解力・コミュニケーション能力・表現力（伝える力）として育成され、今後の大学での学問に対し積極的な姿勢で取り込めるようになることを目指している。

［授業全体の内容の概要］

題材として実生活のさまざまな場面ならびにこどもに関わるさまざまな場面を想定し、テーマを取り上げている。

その一つに新聞をとりあげ「読む」ことを中心に語彙力を増やしていく。また「聞く」ことについてはテキストと別に毎回の授業でトレーニングを組み、相手の言うことを理解し聞き取ろうとする姿勢をつくっていく。「話す」ことは、自分の言いたいことを考え、どのようにしたら相手に伝わるのかということを考慮するような練習を、発表などを通じ行っていく。これらを４名の担当教員できめ細かく指導する。

［授業終了時の到達目標］

アカデミックスキルの基本だけでなく、大学生活における基礎的なマナーや思考する習慣を身につけてほしい。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．前期スタディスキル　ガイダンス
2．タイム・マネジメント（４年間の流れ）
　聞くトレーニング①
3．ビオトープ観察と記録１
　聞くトレーニング②
4．ノートのとり方　聞くトレーニング③
5．話し言葉　書き言葉１　聞くトレーング④
6．話し言葉　書き言葉２　聞くトレーング⑤
7．話し言葉　書き言葉３　聞くトレーング⑥
8．ビオトープ観察と記録２
　聞くトレーニング⑦
9．手紙の書き方１　聞くトレーニング⑧
10．手紙の書き方２　聞くトレーニング⑨
11．敬語１　聞くトレーニング⑩
12．敬語実践　聞くトレーニング⑪
13．ビオトープ観察と記録３
　聞くトレーニング⑫
14．観察記録まとめ　聞くトレーニング⑬
15．全体会　前期ふりかえり
16．後期スタディスキル　ガイダンス
17．ビオトープ記録考察
　聞くトレーニング⑭
18．レポート作成１　聞くトレーニング⑮
19．レポート作成２　聞くトレーニング⑯
20．レポート作成３　聞くトレーニング⑰
21．割合とグラフ１　聞くトレーニング⑱
22．割合とグラフ２　聞くトレーニング⑲
23．割合とグラフ３　聞くトレーニング⑳
24．グラフの読み取り１
25．グラフの読み取り２
26．グラフの読み取り３
27．データの信憑性１
28．データの信憑性２
29．データの信憑性３
30．全体会　後期ふりかえり　２年生に向けて

［準備学習］

日頃から、新聞を読む習慣をつけておくこと。その他課題は随時、授業時に説明する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
○浦和大学こども学部スタディスキル担当者編著
　『浦和大学こども学部スタディ・スキル』
○朝日新聞社会教育事業センター
　『天声人語　書き写しノート（学習用）』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
レポート・提出物　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーションスキル	（ 講義・演習・実習 ）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

対人コミュニケーションの様々な理論を学び、体験的に学習することを通して、自他理解を深め、社会に通用する対人スキルを獲得する。

［授業全体の内容の概要］

社会とは何かと聞かれれば、私たちにとって最も身近な社会は“人”であり、“人間関係”であると考えられます。そのため、よりよい人間関係を築くことは、社会でうまくやっていくことに直結することになります。この演習では、よりよい人間関係を築くきっかけを得るべく、様々な対人コミュニケーションを体験的に学びます。授業では、参加する様々な人たちと共に演習に取り組んでいきますので、自分を表現する勇気を少し持って参加していただけたらと思います。

［授業終了時の到達目標］

体験的に自他理解をとおして、コミュニケーションの再考と再構成化を行い、社会性を獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．エクササイズⅠ
3．コミュニケーションと自己理解
4．コミュニケーションと他者理解
5．パーソナル・スペースと対人関係
6．コミュニケーションと対人距離
7．コミュニケーションと自己表現
8．コミュニケーション演習1
9．コミュニケーション演習2
10．エクササイズⅡ
11．グループワークⅠ
12．グループワークⅡ
13．コミュニケーション演習3
14．コミュニケーション演習4
15．まとめ
期末レポート

［準備学習］

演習で学習した内容を、普段の日常生活で意識的に用いて対人コミュニケーションをするように心がけること。また、他者の行為を詳細に観察し、コミュニケーションのパターンや行動の予測を行うようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業内でプリント配布
参考文献：渋谷昌三「人と人との快適距離―パーソナル・スペースとは何か」NHK　ブックス　1990
國分康孝、縫部義憲「教師と生徒の人間作り　エクササイズ実践記録集　第1～5集」
瀝々社　1987

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：30%
授業内レポート・課題提出：40%
期末レポート：30%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅠ(基礎)	(講義 ・演習・ 実習)	内田　徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修	幼稚園教諭必修

[授業の目的]

・コンピューターを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。
・コンピューター操作の基本的な技能（Word）を身につける。

[授業全体の内容の概要]

現代において、コンピューターの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われているWordを用いて分かりやすい文書を作成する方法を学ぶ。また、情報倫理について理解し、電子メールやインターネットを使う際のマナーについても学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

・情報倫理について理解し、ルールを守ってコンピューターを使うことができる。
・インターネットを用いた検索ができる。
・電子メールの送受信（添付ファイルを含む）ができる。
・Wordを用いて文書作成、プレゼンテーション作成ができる。
・30分で600文字以上の文字入力ができる。・生活科の授業の意義を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業概要、情報倫理について
2．電子メール・インターネットについて
3．Windowsについて・Word（日本語入力）
4．Word（書式）
5．Word（図の挿入）
6．Word（表の挿入）
7．Word（フォント・拡張書式）
8．Word（ワードアート）
9．Word（課題）
10．Word（プレゼンテーションとは）
11．Word（プレゼンテーション準備1）
12．Word（プレゼンテーション準備2）
13．Word（プレゼンテーション1）
14．Word（プレゼンテーション2）
15．まとめと入力テスト
試験

[準備学習]

①講義の前後に講義内で説明された操作について確認し、使用できるように練習しておく。
②正確で迅速な文字入力ができるよう、常に練習を行う。
③課題を行う際に必要となる配布資料を整理しておく。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：Word 2010 Excel 2010 PowerPoint 2010
ステップアップラーニング(技術評論社)

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

試験　60%
提出物　30%
受講態度　10%
提出物には、コメントを入れて返却する。
試験の不合格者には補習を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅡ(応用)	(講義 ・演習・ 実習)	内田徹・鶴ヶ谷柊子・袖山文彰

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択	幼稚園教諭必修

[授業の目的]

・コンピューターを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。
・コンピューター操作の基本的な技能（Excel•PowerPoint）を身につける。
・ホームページの作成ソフトの基本操作を身につける。

[授業全体の内容の概要]

現代において、コンピューターの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われているソフトを用いて、分かりやすい表やプレゼンテーションを作成する方法、ホームページを作成する方法を学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

・表計算ソフトを用いて、表の作成、計算、グラフの作成ができる。
・インターネットやホームページの仕組みを理解する。
・ホームページ作成ソフトを用いた簡単なホームページ作成ができる。
・効果的なプレゼンテーション方法について理解する。
・プレゼンテーション作成ソフトの使い方を理解し、プレゼンテーションを行うことができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．Excel　基本操作
2．Excel　表の作成
3．Excel　差し込み印刷
4．Excel　グラフの作成
5．Excel　データの並べ替え・計算
6．ホームページの作成　ネットワークの仕組み
7．ホームページの作成　自己紹介ホームページの作成
8．ホームページの作成　自己紹介ホームページの紹介
9．Excel　入力試験
10．PowerPoint　基本操作１　プレゼンテーションの作り方
11．PowerPoint　基本操作２　アニメーション
12．PowerPoint　プレゼンテーション準備１
13．PowerPoint　プレゼンテーション準備２
14．PowerPoint　プレゼンテーション１
15．PowerPoint　プレゼンテーション２
試験

[準備学習]

①授業の前後に授業内で説明された操作について確認し、使用できるように練習しておく。
②課題を行う際に必要となる配布資料を整理しておく。
③プレゼンテーションを作成するための資料を集める。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：Word 2010 Excel 2010 PowerPoint 2010
ステップアップラーニング(技術評論社)

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

試験　50%　　発表　30%
提出物　10%　　受講態度　10%
提出物には、コメントを入れて返却する。
試験の不合格者には補習を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
英語コミュニケーションA（こどもの文化）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 1 単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業のテーマ及び到達目標］

地球共通語として、あらゆる国の人々とのコミュニケーション手段となる英語を、嫌うことなく積極的に学び、教育現場で向き合うことになる児童たちにも、英語学習の学びが楽しいことだと伝えられるような教員になってほしい。

［授業の概要］

初等教育の場では、読み書き、文法などよりもまず聴力養成が優先されることだろう。コミュニケーションの現場でも、会話力以前に聴力が必要とされる。話すことより聴くことが言語能力向上には必須条件となる。その能力を高めるために、映画を題材にする。アメリカ生まれながら日本で絶大な人気を誇るディズニー映画を、吹き替えではなく英語で見聞きしながら、こどもの文化理解を進めていきたいと思う。主として学生による研究発表を中心に授業を進めていくことになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
授業計画

第１回：英語コミュニケーション（こどもの文化）とは？（講義内容紹介）
第２回：低年齢での英語学習の意味を考える
第３回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　①　♪When you wish upon a star
第４回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　②　♪Happy Working Song
第５回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　③　♪Part of your world
第６回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　①　Toy Story
第７回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　②　Finding Nemo
第８回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　③　Lilo & Stitch
第９回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　④　Monster’s Inc.
第10回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　①　Bambi の母との別れ
第11回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　②　Dumbo が空を飛ぶ！
第12回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　③　Pinocchio が人間になる！
第13回：低年齢での英語学習とディズニー文化の効果を確認する　①　TDL キャラクターを通して
第14回：低年齢での英語学習とディズニー文化の効果を確認する　②　TDS アトラクションを通して
第15回：まとめ（ディズニー映画に関するドキュメンタリーを使った講義最終確認）
定期試験

［準備学習］

ディズニー映画ばかりか、日常的にアメリカ映画を見るときには、必ず英語（日本語字幕付き）で見聞きするようにする。吹き替えで見る習慣があった学生は、この授業を契機に、映画で英語を聞くように切り替える。英語力とは聴力を意味する。耳に英語をなじませることが準備学習である。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特に指定はせず、授業の展開に応じて、その都度配布する。
参考文献：『ディズニーアニメーション大全集』（集英社、2008年）など

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験（60％）
受講態度（20％）
ファイルノート提出（20％）
総計して60点以上を合格とする。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
英語コミュニケーションB（日常会話）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 1 単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業のテーマ及び到達目標］

地球共通語として、あらゆる国の人々とのコミュニケーション手段となる英語を、嫌うことなく積極的に学び、教育現場で向き合うことになる児童たちにも、英語学習の学びが楽しいことだと伝えられるような教員になってほしい。

［授業の概要］

英語を嫌う学生が多い一方、現実には英語を使えなければ海外へ出られず、日本国内でも外国人との意思疎通が困難になっているのが21世紀の日本の現状である。「日常会話程度なら話せる」という表現があるが、これこそが難しい。日常会話をこなすためには、英語力だけでなく異文化理解能力も問われるからである。授業では単に語学力向上にとどまることなく、異文化理解を積極的に指導していく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
授業計画

第１回：英語コミュニケーション（日常会話）とは？（講義内容紹介）
第２回：まずは自己紹介から始めよう！　Relax and smile!
第３回：英語圏にホームステイするとしたら①　ホストファミリーに挨拶を！
第４回：英語圏にホームステイするとしたら②　異文化の中で暮らすとは？
第５回：身体の部位を英語で言ってみよう！♪Head, shoulders, knees and toes
第６回：家系図を作り、家族関係を英語で表現しましょう！Family Tree
第７回：家族に関する英文を読んで、アメリカの家族のあり方を知ろう！
第８回：身の回りの英語を探そう！沢山あふれる英語表現を学ぶ①　ノートパソコンは英語じゃない！
第９回：身の回りの英語を探そう！沢山あふれる英語表現を学ぶ②　交通機関の「回送」は英語で何？
第10回：初めての海外旅行をするとしたら①　食事の注文はできる？
第11回：初めての海外旅行をするとしたら②　チップの習慣を学ぼう！
第12回：言葉でなくジェスチャーで会話はできる。異文化体験をしてみよう！
第13回：つづり字コンテストについて学ぶ（映画やミュージカルを通して）
第14回：つづり字コンテスト（Spelling Bee）に挑戦！
第15回：まとめ（これまでに覚えた日常会話表現の整理）
定期試験

［準備学習］

授業時間内に限らず、常に身の回りにある「英語」に敏感になってアンテナを伸ばし、見聞きしてほしい。見聞きしたものは、その場でメモする習慣をつけ、語学学習は24時間、世界中どこにいても続いていることを自覚してほしい。それこそが準備学習である。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特に指定はせず、授業の展開に応じて、その都度配布する。
参考文献：NHK テレビ・ラジオ英会話テキストに代表される各種英会話教材

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験（60％）
受講態度（20％）
ファイルノート提出（20％）
総計して60点以上を合格とする。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
中国語コミュニケーション	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	金　　佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・ 1 単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

・授業のテーマ：中国語の聞き取りと発音、初級レベルの中国語文法及び会話。

・到達目標：中国語で簡単なコミュニケーションができるようになること。

［授業の概要］

日本語と比較しつつ、中国語に関する基礎知識を取り上げる。4技能（聞く・話す・読む・書く）の中で、特に聞くことと話すことに重点を置く。また、独学で中国語を勉強できる方法等も教授する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：講義内容の紹介と中国語の発音（その１：母音とアクセント）

第２回：中国語の発音（その２：子音・重母音）

第３回：中国語の発音（その３：鼻母音と発音のまとめ）と挨拶

第４回：自己紹介

第５回：友達を紹介する。

第６回：家族のことを話す。

第７回：復習とロールプレイ（その１：挨拶と自己紹介について）

第８回：どこに何があるかを伝える。

第９回：どこに住んでいるかを伝える。

第10回：復習とロールプレイ（その２：住まい、場所について伝える）

第11回：趣味について話す。

第12回：何ができるかを伝える。

第13回：相手をほめる。

第14回：復習とロールプレイ（その３：趣味と相手について話す）

第15回：まとめ

定期試験

［準備学習］

授業の後に、宿題とテスト準備を完成すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：山田眞一著『たのしくできる中国語』
白水社

参考文献：オンライン中国語学習
http : //www.ch-texts.org/index.html

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、宿題・小テスト（40%）。
総合して60点以上を合格。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
韓国語コミュニケーション	（ 講義・演習・実習 ）	権　賢貞

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業のテーマ及び到達目標］

韓国語の仕組みを理解しハングル（文字）の読み書きができるとともに、基本的な会話ができるようになる。また、韓国の社会や文化についての知識を深める。

［授業の概要］

韓国語の文字の仕組みを学びハングルの読み書きができるようにする。韓国語の基本的な挨拶をはじめ、日常会話に必要な願望・依頼・勧誘表現などの習得を目指す。写真や映像などを通して韓国の生活習慣、社会・文化に触れることで日本との共通点・相違点について考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：韓国語のしくみ　ハングルとは　韓国はどのような国か
第２回：文字と発音１　子音と母音、パッチム
第３回：文字と発音２　濃音と激音、合成母音
第４回：文字と発音３　日本語のハングル表記　発音の復習
第５回：韓国語の挨拶と自己紹介　挨拶の日韓比較
第６回：指示表現と質問　初対面における韓国人の言語行動の特徴
第７回：基本動詞と動詞の活用　韓国語の敬語の特徴
第８回：動詞と形容詞の否定表現　韓国語における人の呼び方の特徴
第９回：数字（時間と曜日）　韓国の年中行事
第10回：同意を求める表現　韓国の子供と教育
第11回：願望表現　韓国の交通
第12回：勧誘表現　韓国の食べ物
第13回：依頼表現　韓国の若者
第14回：可能・不可能表現　韓国の歌
第15回：まとめと自由会話
定期試験

［準備学習］

毎回の授業で課する課題を行う。テキストのCDを利用して単語および会話の読み方を予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：李志暎『できる韓国語Ⅰ（初級）』
DEKIRU 出版

参考文献：特になし

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、課題・確認テスト（40%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ジャパノロジー入門	（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

グローバル化が急速に進む現在、外国人に日本文化について、聞かれ、説明しなければならない機会や必要性が、近年、とみに高まっていることを感じているだろう。そこで、良く聞かれるトピックだけでなく、「もったいない」（環境問題の解決）等、外国人が見習うべき文明とでも呼ぶべき、日本文化について講義し、個人として、また、それぞれ特定の地域に生きて、生活を営んでいる、日本人のひとりとして、誇りをもって社会で活躍し、外国人に臆することなく、対等に渡り合えるような人材を育成すべきことを本講義のねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

日本の文化のありかたは、長い歴史の間に、経済活動（稲作）をベースにして自生的に形成された。それは対人関係、言語、もの、食、思想、芸術、芸能、衣などに具体的に表現されている。本講義では、日本文化の数々の中から、外国人によく聞かれるもの、日本文化をひたすら賞美し、自己満足の世界にひたることなく、世界に輸出すべき、日本文化、地域に誇るべき文化遺産の３本立てでこの講義を構成したい。ただし、下記の予定は、諸般の事情によって順序に変更がありうることを申し述べておく。

［授業終了時の到達目標］

日本文化を多項目に渡って検討することで、対象が自然であれ、社会であれ、その細かな対象との配慮（調和）のあり方について理解を得る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．日本語にみられる日本文化のありかた１
2．日本語にみられる日本文化のありかた２
3．忠臣蔵と武士道
4．日本人の信仰心
5．市川団十郎と荒事
6．浮世絵の魅力
7．すしの歴史
8．相撲
9．古今和歌集と和歌
10．俳句と歳時記
11．旧制浦和高等学校と寮歌
12．緑区周辺と見沼の歴史
13．見沼探訪１
14．見沼探訪２
15．浦和とサッカー
試験等（レポートに換えることも）

［準備学習］

上記に関する項目について、１項目でもよいから、インターネット、図書館等で調べておくこと。

ノートの左右を１ページとし、左側に板書をし、右側に分からないことを調べ、メモを取る。分からなかった点は教員に質問することを繰り返す。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業時にプリントを配布。
参考文献：
本名信行　ベイツ・ホッファ編
『日本文化を英語で説明する辞典』有斐閣

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験・レポート等　60%
授業態度　40%
レポート時にノート提出。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
カナダ文化の理解	（講義・演習・実習）	濱田　康史

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

カナダは毎年20万人以上の外国人を移民として受け入れている。これは春日部市や熊谷市の人口と同じくらいの数である。カナダではこうした街が毎年一つ誕生するようなペースで、外国人が新しく暮らし始めている。なぜカナダはこれほど移民の受け入れに積極的なのだろうか。どうしてそんなことができるのだろうか。その利点は何で、課題は何だろうか。世界的な「反移民」の声が聞こえるなか、移民社会の実情を知ることはますます重要になっている。この授業では、こうした問いに対して「多文化主義」をキーワードにさまざまな視点から答えに迫りつつ、あわせてこれからの日本社会を考えるためのヒントを得ることを目的にする。

［授業全体の内容の概要］

地理、歴史、政治、社会などいろいろな視点から、カナダ文化について総合的に講義する。「多文化主義」とはどのようなものか、それがどのような経緯で形成されたのか、文字資料だけでなく、スライドや映像を使って解説する。また、日本やアメリカの社会・文化とも比較することで、カナダの個性について立体的に学んでいく。高校で世界史や政治経済、地理を選択していない学生にも、本授業だけで理解できるように進める。

［授業終了時の到達目標］

カナダに関する基本的な知識を習得する。またこうした異文化理解を通して、自文化についても適度な距離をもってかえりみられるような視点を養う。カナダ研修への参加希望者においては、カナダ社会・文化への興味を深め、その予習となるような総合的な理解を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．カナダの自然　—広い国土、豊かな生態系、恵まれた資源—
3．カナダの生活　—カナダの春夏秋冬—
4．カナダの歴史①　—先住民から連邦結成まで—
5．カナダの歴史②　—19世紀から現代まで—
6．カナダの政治　—イギリス的伝統の継承—
7．カナダの外交　—PKO が生まれた国—
8．カナダの経済　—アメリカとの微妙な関係—
9．カナダの社会　—多様なエスニシティと言語—
10．カナダの宗教　—世俗化とニューカマー宗教—
11．多文化主義①　—北米の「フランス」ケベック—
12．多文化主義②　—北米の「中国」バンクーバー—
13．多文化主義③　—課題と展望—
14．カナダと日本　—一つ海の両岸で—
15．まとめ
試験もしくはレポート

［準備学習］

①授業前に前回のノートや配布資料を見直す。
②国内外の「異文化」に関する話題やニュースを積極的にチェックする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業時にプリント配布。
参考文献：①日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣　②飯野正子・竹中豊編『現代カナダを知るための57章』明石書店　③細川道久『カナダの歴史がわかる25話』明石書店

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験もしくはレポート：60%
授業への取り組み、毎回のコミュニケーションシートなど：40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインA(就職基礎)	(講義・演習・実習)	船木美佳・瓜巣由紀子・鶴ヶ谷柊子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
20回	40時間・1単位	2年次・通年	必修

[授業の目的]

キャリア形成は一生涯をとおした個人的・社会的な取り組みであるが、1年生のスタディスキルで修得した知識やスキルに基づき、自らのキャリア積み上げの第一歩を学ぶ。これまでのスタディスキルや実習体験と関連させて、自らのキャリア形成を促進し、体系的な学びをとおして将来について考えを深めていく。

[授業全体の内容の概要]

自己にとって「働く」意味を考え、社会的な視点を学び、客観的な自己の理解を深める。

保育や福祉、幼児教育の専門職に限らず、一般企業においての社会人としての基礎を身に付け、希望を持って卒業後の進路をイメージし、自己決定をして意欲的に活動できるようにする。

[授業終了時の到達目標]

社会的スキルの基礎を構築し、職業意識を確立することを到達目標とし、キャリアデザインBにて、さらに自らのキャリア形成を促進していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．オリエンテーション（演習）
2．「働く」ということの発見①（実習）
3．「働く」ということの発見②（実習）
4．さまざまな職業観を学ぶ（実習）
5．「実社会」との出会いからの自己分析（実習）
6．前期まとめ（演習）
7．キャリアスキルを磨く①（演習）
8．場に即した身のこなしや身だしなみ（実習）
9．就活に活かすTPO（実習）
10．業界研究（実習）
11．業界研究のまとめ（実習）
12．キャリアスキルを磨く②（実習）
13．キャリアスキルを磨く③（実習）
14．スタートダッシュセミナー【エントリーシート編】（実習）
15．スタートダッシュセミナー【エントリーシート実践編】（実習）
16．スタートダッシュセミナー【面接編】（実習）
17．スタートダッシュセミナー【面接実践編】（実習）
18．キャリアスキルを磨く④（実習）
19．キャリアスキルを磨く⑤（演習）
20．まとめとキャリアデザインBに向けて（演習）

[準備学習]

新聞やニュースに触れ、世の中の流れやさまざまな情報を得られるよう、日々心がけてください。授業後はノートや配布資料を整理し、次回の授業に臨むようにしてください。

[使用テキスト・参考文献]

就職に関する各種書籍等（講義内で別途説明）
各回に配布する教材を各自ファイリングすること

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

提出物、授業への取り組み：20%
ノート：20%
試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインA（就職基礎）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	船木美佳・瓜巣由紀子・鶴ヶ谷柊子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	２年次・後期	必修

［授業の目的］

１年生のスタディスキルで修得した知識やスキルに基づき、自らのキャリア積み上げの第一歩を学ぶ。

スタディスキルや実習体験と関連させながら、自らの将来について考えを深めるため体系的教育を実施していく。

職業意識を確立することを到達目標とし、更なる段階としてのキャリアデザインBへつなげる。

［授業全体の内容の概要］

自己にとって「働く」意味を考え、社会的な視点を学び、客観的な自己の理解を深める。

保育や福祉、幼児教育の専門職に限らず、一般企業においての社会人としての基礎を身に付け、卒業後の進路をイメージできるようにする。

本演習では、さまざまな職種・職業観を知り、その中で求められる社会規範や資質形成の基礎知識を身に付けることを目的とする。

［授業終了時の到達目標］

社会的スキルの基礎を構築し、職業意識を確立することを到達目標とし、キャリアデザインBにて、さらに自らのキャリア形成を促進していく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．イントロダクション
2．「働く」とは？① ―身近なことからイメージを広げる―
3．「働く」とは？② ―わたしを知る―
4．「働く」とは？③ ―社会のまなざしとわたし―
5．さまざまな職業観を学ぶ①
6．さまざまな職業観を学ぶ②
7．さまざまな職業観を学ぶ③
8．さまざまな職業観を学ぶ④
9．履歴書の書き方
10．一般常識テスト①
11．コミュニケーションのスキル
12．場に即した身のこなしや身だしなみ
13．情報収集の方法
14．一般常識テスト②
15．まとめとキャリアデザインBに向けて
試験

［準備学習］

新聞やニュースに触れ、世の中の流れやさまざまな情報を得られるよう、日々心がけてください。授業後はノートや配布資料を整理し、次回の授業に臨むようにしてください。

［使用テキスト・参考文献］

就職に関する各種書籍等（講義内で別途説明）
各回に配布する教材を各自ファイリングすること

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

提出物、授業への取り組み：20%
ノート：20%
試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザイン	（ 講義・演習・実習 ）	太田真美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3，4年次・前期	選択

［授業の目的］

キャリア・ナビゲーションを習得した学生の第２段階とする。一般的な職業意識から具体的に保育職やこどもに関する仕事への理解を深め、自分の適性を探していく第一歩とする。キャリア・ナビゲーションの学習同様に「自分探し」を続けていきながら、もっとも自分が就きたい仕事を見極めていく。

［授業全体の内容の概要］

この授業では、「キャリア・ナビゲーション」において学びとった就労の意義と職業についての理解に関する基本事項をもとに、職業人としての資質をより高めるため、人間的な態度や基礎的な人間関係の形成について学ぶ。そして、職業人としての自覚や態度の形成と自己の形成を行うことにより、職業に就くことへの意欲と関心をより高める。

企業、福祉現場を問わず、職業人に共通して求められる常識を身につけることをめざす。礼儀、マナーやモラルをはじめ、社会人として通用するような態度行動をとれるよう、ロールプレイを取り入れた指導を行う。また、適性検査の実施や自己分析シートの作成指導、自己紹介文の作成指導などを行い、自己を見つめ、社会人としての自己の形成を助ける。8回のうち、4回程度を自己PRと自己紹介の作文指導にあてる。

保育、福祉現場の現場で求められる保育者像と、そうした職業の意義や労働条件を含めて総合的に理解することをめざす。また、こどもや親に接するうえで求められる常識や態度を身につけるとともに、特に親（保護者、養育者）との関係形成、職場内のチームワークなどこどもだけではなく、大人との円滑な人間関係の重要さを理解させる。

［授業終了時の到達目標］

キャリアデザインの履修後には、全員の職業適性検査、自己分析、作文指導、履歴書指導を修了し、就職活動に向けての土台づくりを固める。また、一社会人としての一般的な礼儀やマナーやモラルを習熟し、社会で通用していける大人の知識を幅広く身につける。

保育士として働く上での保護者や養育者の背景や接し方を学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介
2．「自分探し」は進んでいますか？書いて確かめる自己 PR
3．自己 PR 1（履歴書→面接での回答）
4．自己 PR 2（履歴書→面接での回答）
5．第１回学習度合確認
6．保育者像の学習１
7．保育者像の学習２
8．保育対象のこどもの保護者や養育者の仕事理解
9．就職適性（SPI）
10．第２回学習度合確認
11．「日本社会の社会人としてのマナー」講義の復習：面接指導に向けて
12．就職活動面接模擬指導１（保育職を中心に）
13．就職活動面接模擬指導２（こどもに関する職業を中心に）
14．キャリアデザイン終了直前の履歴書披露大会
15．まとめ（「就職研究」で身につけたものの整理）
キャリア意識成長度最終確認試験（筆記試験で確認）

［準備学習］

毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。努力に期待している。

［使用テキスト・参考文献］

就職試験に関する各種問題集（具体的には、講義内で説明する）
授業ごとに配布した教材を各自学生がファイルを作っていく。
使用教材：早稲田教育出版『秘書検定２級』（クイックマスター）
『秘書検定３級』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

受講態度	20%
レポート	20%
試験	60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインB(就職実践)	(講義・演習・実習)	太田真美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3，4年次・前期	選択

[授業の目的]

キャリアデザインAを習得した学生の第2段階とする。一般的な職業意識から具体的に保育職やこどもに関する仕事への理解を深め、自分の適性を探していく第一歩とする。キャリアデザインAの学習同様に「自分探し」を続けていきながら、もっとも自分が就きたい仕事を見極めていく。

[授業全体の内容の概要]

この授業では、「キャリアデザインA」において学びとった就労の意義と職業についての理解に関する基本事項をもとに、職業人としての資質をより高めるため、人間的な態度や基礎的な人間関係の形成について学ぶ。そして、職業人としての自覚や態度の形成と自己の形成を行うことにより、職業に就くことへの意欲と関心をより高める。

企業、福祉現場を問わず、職業人に共通して求められる常識を身につけることをめざす。礼儀、マナーやモラルをはじめ、社会人として通用するような態度行動をとれるよう、ロールプレイを取り入れた指導を行う。また、適性検査の実施や自己分析シートの作成指導、自己紹介文の作成指導などを行い、自己を見つめ、社会人としての自己の形成を助ける。8回のうち、4回程度を自己PRと自己紹介の作文指導にあてる。

保育、福祉現場の現場で求められる保育者像と、そうした職業の意義や労働条件を含めて総合的に理解することをめざす。また、こどもや親に接するうえで求められる常識や態度を身につけるとともに、特に親（保護者、養育者）との関係形成、職場内のチームワークなどこどもだけではなく、大人との円滑な人間関係の重要さを理解させる。

[授業終了時の到達目標]

キャリアデザインBの履修後には、全員の職業適性検査、自己分析、作文指導、履歴書指導を修了し、就職活動に向けての土台づくりを固める。また、一社会人としての一般的な礼儀やマナーやモラルを習熟し、社会で通用していける大人の知識を幅広く身につける。

保育士として働く上での保護者や養育者の背景や接し方を学ぶ。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．講義内容紹介
2．「自分探し」は進んでいますか？書いて確かめる自己PR
3．自己PR 1（履歴書→面接での回答）
4．自己PR 2（履歴書→面接での回答）
5．第1回学習度合確認
6．保育者像の学習1
7．保育者像の学習2
8．保育対象のこどもの保護者や養育者の仕事理解
9．就職適性（SPI）
10．第2回学習度合確認
11．「日本社会の社会人としてのマナー」講義の復習：面接指導に向けて
12．就職活動面接模擬指導1（保育職を中心に）
13．就職活動面接模擬指導2（こどもに関する職業を中心に）
14．キャリアデザインB終了直前の履歴書披露大会
15．まとめ（「就職研究」で身につけたものの整理）
キャリア意識成長度最終確認試験（筆記試験で確認）

[準備学習]

毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。努力に期待している。

[使用テキスト・参考文献]

就職試験に関する各種問題集（具体的には、講義内で説明する）
授業ごとに配布した教材を各自学生がファイルを作っていく。
使用教材：早稲田教育出版『秘書検定2級』（クイックマスター）
『秘書検定3級』

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

受講態度	20%
レポート	20%
試験	60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
キャリアデザインB(就職研究)	(講義・演習・実習)	太田真美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3，4年次・前期	選択

[授業の目的]

キャリアデザインAを習得した学生の第2段階とする。一般的な職業意識から具体的に保育職やこどもに関する仕事への理解を深め、自分の適性を探していく第一歩とする。キャリアデザインAの学習同様に「自分探し」を続けていきながら、もっとも自分が就きたい仕事を見極めていく。

[授業全体の内容の概要]

この授業では、「キャリアデザインA」において学びとった就労の意義と職業についての理解に関する基本事項をもとに、職業人としての資質をより高めるため、人間的な態度や基礎的な人間関係の形成について学ぶ。そして、職業人としての自覚や態度の形成と自己の形成を行うことにより、職業に就くことへの意欲と関心をより高める。

企業、福祉現場を問わず、職業人に共通して求められる常識を身につけることをめざす。礼儀、マナーやモラルをはじめ、社会人として通用するような態度行動をとれるよう、ロールプレイを取り入れた指導を行う。また、適性検査の実施や自己分析シートの作成指導、自己紹介文の作成指導などを行い、自己を見つめ、社会人としての自己の形成を助ける。8回のうち、4回程度を自己PRと自己紹介の作文指導にあてる。

保育、福祉現場の現場で求められる保育者像と、そうした職業の意義や労働条件を含めて総合的に理解することをめざす。また、こどもや親に接するうえで求められる常識や態度を身につけるとともに、特に親（保護者、養育者）との関係形成、職場内のチームワークなどこどもだけではなく、大人との円滑な人間関係の重要さを理解させる。

[授業終了時の到達目標]

キャリアデザインBの履修後には、全員の職業適性検査、自己分析、作文指導、履歴書指導を修了し、就職活動に向けての土台づくりを固める。また、一社会人としての一般的な礼儀やマナーやモラルを習熟し、社会で通用していける大人の知識を幅広く身につける。

保育士として働く上での保護者や養育者の背景や接し方を学ぶ。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．講義内容紹介
2．「自分探し」は進んでいますか？書いて確かめる自己PR
3．自己PR 1（履歴書→面接での回答）
4．自己PR 2（履歴書→面接での回答）
5．第1回学習度合確認
6．保育者像の学習1
7．保育者像の学習2
8．保育対象のこどもの保護者や養育者の仕事理解
9．就職適性（SPI）
10．第2回学習度合確認
11．「日本社会の社会人としてのマナー」講義の復習：面接指導に向けて
12．就職活動面接模擬指導1（保育職を中心に）
13．就職活動面接模擬指導2（こどもに関する職業を中心に）
14．キャリアデザインB終了直前の履歴書披露大会
15．まとめ（「就職研究」で身につけたものの整理）
キャリア意識成長度最終確認試験（筆記試験で確認）

[準備学習]

毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。努力に期待している。

[使用テキスト・参考文献]

就職試験に関する各種問題集（具体的には、講義内で説明する）
授業ごとに配布した教材を各自学生がファイルを作っていく。
使用教材：早稲田教育出版『秘書検定2級』（クイックマスター）
『秘書検定3級』

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

受講態度	20%
レポート	20%
試験	60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
インターンシップ	（ 講義・演習・実習 ）	高野・船木・瓜巣・岩本・菅野・皆川・亘理・金井・五十嵐・五味・柴田・丸谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	90時間・２単位	３，４年次・前期	選択

［授業の目的］

企業、NPO法人、保育実習の実習先とはならない地域の子育てひろばなどへの就労の体験を通じて自らの適性を見つめ、就職への意識を高めるとともに、職場における基本マナー、チームワークの重要性を身につける。

［授業全体の内容の概要］

学生の希望も勘案しながら大学の開拓した企業等への配属を行い、学生就職課との連携のもとで書類作成等事前指導を行った後、10日～２週間のインターンシップを行う。事前指導、巡回指導、終了後報告会を実施する。

［授業終了時の到達目標］

夏休みに行うインターンシップが充実したものとなるよう、事前準備を整える。
社会に出る経験を通し、働くことのやりがいや責任感、就業倫理などを体得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．オリエンテーション・配属希望調査
２．配属先決定にもとづく提出書類（履歴書等）作成
３．配属先の企業等研究
４．直前指導
５．インターンシップ（10日間以上）
６．インターンシップ報告会

［準備学習］

①各自が実施するインターンシップ先に関する資料を読む。
②授業時に指定される課題を行い、インターンシップのための事前準備を積み重ねる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：なし、プリントを配布する。
参考文献：授業の展開に応じて紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

記録：20％
評価票：50％
事前学習：30％

こども専門科目

（こども総合）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こども理解と観察	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	菅野陽子・柴田崇浩・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
30回	60時間・ 2単位	1年次・通年	必修	保育士選択 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

日々乳幼児と共に在ってこどもの全人格に影響をあたえる保育者として、一人ひとりのこどもの成長・発達を的確に感受し、促進的に関わることのできる専門職としての力が求められる。実践と理論を融合させた学習形態によって主体的な学びを促進させ、実践に際して重要なこども理解に関する基礎知識・技能、態度を培う。

［授業全体の内容の概要］

こどもの心や行動の発達に関する理論と実際のすがたを実践の中で統合的に学ぶために参加型の体験学習や観察学習を多く取り入れる。大学周辺に居住する親子の協力による学内施設における特定の親子との継続的な交流授業を行い、学生がこどもの豊かな感受性や親子の関係性の中での育ちに直接触れ保育者としての感受性や共感性を練磨する機会を提供する。

［授業終了時の到達目標］

交流授業の録画・観察記録・フィールドノートなどを基にグループ学習を行い多様な価値観を認め、自己洞察を深める等を通して共感的人間理解と観察力を深めること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．こども理解と観察方法1
3．こども理解と観察方法2
4．親子観察の事前学習①
5．授業内（保育実習室）での親子観察①
6．親子観察の事後学習①
7．授業内（スタジオ）での親子観察①
8．乳幼児期のこども理解を深める(1)
9．乳幼児期のこども理解を深める(2)
10．乳幼児期のこども理解を深める(3)
11．親子観察の事前学習②
12．授業内（保育実習室）での親子観察②
13．親子観察の事後学習②
14．授業内（スタジオ）での親子観察②
15．乳幼児期のこども理解を深める(4)
16．親子観察の事前学習③
17．授業内（保育実習室）での親子観察③
18．親子観察の事後学習③
19．授業内（スタジオ）での親子観察③
20．乳幼児期のこども理解を深める(5)
21．乳幼児期のこども理解を深める(6)
22．親子観察の事前学習④
23．授業内（保育実習室）での親子観察④
24．親子観察の事後学習④
25．授業内（スタジオ）での親子観察④
26．乳幼児期のこども理解を深める(7)
27．親子観察のまとめ①
28．親子観察のまとめ②
29．親子観察の事前学習⑤
30．親子観察のまとめ③

［準備学習］

年間の授業計画にあわせて各テーマ毎に提示する学習課題に関する文献・資料等を基に、自らの問題意識をもって臨むこと。とくに交流授業は事前の理論的学習と事後の場面分析をセットにした統合的学習であるので準備学習を十分にすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
必要により随時、オリジナル教材を配布
参考文献：
岡本依子他「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち」新曜社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
課題レポート：50%
記録ノート・ファイル：30%　　参加態度：20%
①毎回課題を提出し、コメントをつけて返却します。②レポートの講評を行います。③ファイルを評価して返却します。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもと福祉社会	（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修

［授業の目的］

保育者・教育者は自身が福祉社会の担い手であると同時に、日々の保育・教育実践を通じて、福祉社会の創造者を形成する役割を有している。このことをまず理解し、福祉の諸課題と支援方策の現状、展望について学び、保育者・教育者として、こどもの未来に対して何ができるか、あるいは何をしてはならないか、を学んでいく。その成果を将来にわたり実践に生かせるように身につけていくことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

こどもに限らず、高齢者や障がい者に関する幅広い福祉課題と家族・地域社会の支援体制のあり方、行政の役割ならびに住民参加の意義について基礎的知識を学ぶ。また、前提となる高齢者理解、障がい者理解に関する自らの先入観に気づくことを促し、人間理解を深めることにより、保育者・教育者としての資質を高める。日本のめざした20世紀型福祉国家の到達点と限界を知り、歴史的観点をふまえながら参加型の福祉社会への転換の必要性と可能性を理解できるよう講義を進める。理解を促すため、必要に応じて視聴覚教材を用いる。

［授業終了時の到達目標］

こどもから高齢者、障がい者までの多様な人々の存在やその直面する福祉課題に気づき、人間理解を深めること及び、その理解を、未来を担う子供たちに伝えていく重要性を理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．障がい児・者の歴史
3．障がいの正しい理解：障がいの概念の変遷を学ぶ
4．障がい児・者と家族の生活
5．保育・教育場面における「合理的配慮」
6．放課後のこどもたちの居場所づくり
7．放課後保障から学ぶ福祉課題と支援
8．高齢社会に生きる「こども」
9．高齢者の正しい理解：認知症高齢者の変容を促す関わりとは
10．高齢者の福祉文化の理念を学ぶ
11．こどもと高齢者・障がい者をつなぐ福祉文化実践
12．福祉社会の支援拠点とその役割
13．日本における20世紀社会福祉・福祉国家の到達点と展開
14．21世紀の福祉課題と福祉社会
15．総括―福祉社会の創造へ―
定期試験

［準備学習］

1．毎回資料を配布するので、指定箇所を事前に読む。レポートを指示通り作成する。
2．授業後には配布資料を読み直して整理しファイルを作成しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大久保秀子『新・社会福祉とは何か』（1年次に購入した者はそれを持参のこと）
毎回の授業時にプリントを配布
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の方法・基準）
試験：60%　課題・授業時提出物等：40%
（成績評価のフィードバック）
授業時の小課題に記載された内容を整理し、授業に反映させることにより、学生間の考え方や感じ方の共有を進める。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの人権	（講義・演習・実習）	普光院　亜紀

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「子どもの権利」への理解および感性を身につけ、①現代社会の子どもに関する種々の問題を考察するための視点を獲得する、②子どもにかかわる仕事をする者として必要な基本姿勢や判断力を身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

子ども観の変遷、子どもの権利条約の理念の成立過程など、子どもの権利保障の歴史を学ぶとともに、子どもの権利条約が保障しようとする内容、子どもの最善の利益の考え方について、世界および日本の現状に照らして理解する。また、子どもの権利に関わる身近なテーマや、保育との関係について、グループワークによって意見を出し合い、理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

・子どもの権利条約について理解する
・子どもの権利の侵害の現状について理解する
・日常の保育に活かせる子どもの権利の視点を身に付ける

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．子どもと人権
2．子どもの権利保障の歴史
3．子どもの権利条約１〈理念と内容〉
4．子どもの権利条約２〈実現の方策〉
5．戦争と子どもの権利
6．少年法に関する議論
7．教育を受ける権利
8．体罰の禁止についての議論
9．児童虐待にかかわる現状と施策
10．子どもの最善の利益とは何か
11．児童福祉法と子どもの権利
12．子どもの意見表明権
13．差別・いじめの防止
14．障害をもつ子どもの権利
15．子どもの権利を実現する保育とは？
試験
（テーマに応じてグループワークを行います）

［準備学習］

毎回の授業で学んだことを復習し、配布資料も含めてノートに整理すること。また、次の回で学ぶテーマについて、ニュースで見聞きしたことや、自分の身近に起きていることと関連づけ、自分なりのイメージをもって積極的に授業に参加できるように準備すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：なし。必要な資料を毎回配布します。
参考文献：喜多明人、森田明美、広沢明、荒牧重人 著
『［逐条解説］子どもの権利条約』
日本評論社　2009年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：40%
（テーマに応じてリアクションペーパーを提出、次の授業で講評する）
試験：60%
（自作のノートの持ち込みを可とする）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ジェンダーと家族	（講義・演習・実習）	堀川　修平

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

1．自分たちの身のまわりにあるジェンダー／セクシュアリティ問題を相対化して認識できる力を養う。
2．フェミニズム運動を含め、ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動（社会運動・教育/学習活動）の成立と展開の原理を学ぶ。
3．ジェンダー／セクシュアリティに関する現代的な課題について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

1．身のまわりにあるジェンダー／セクシュアリティ問題を反省的にとらえる契機を与え、差別問題一般について省察的な意見をもてるような交流を行う。
2．ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動の変遷を系統的に説明し、フェミニズム思想・ジェンダー／セクシュアリティ論・クィア論の展開を解説する。
3．性の多様性、「らしさ」の強要、「LGBT 市場」、学校教育とジェンダー／セクシュアリティ差別、スクール・セクシュアル・ハラスメントなどの現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討する。
4．受講者数を勘案し、可能なら、グループワークを取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

1．ジェンダー／セクシュアリティに関する差別問題が身のまわりに存在することを理解できるようにする。
2．ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動の歴史的な展開を理解できるようにする。
3．ジェンダー／セクシュアリティに関する諸問題について、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．性の常識を打ち破ろう！　①ジェンダー／セクシュアリティとはなにか
3．性の常識を打ち破ろう！　②フェミニズム・ジェンダー論の諸相と歴史
4．「らしさ」を押し付けないとは？　①「本能」ってなんだ？
5．「らしさ」を押し付けないとは？　②性規範としての「らしさ」
6．恋愛・結婚・家族の「あたりまえ」を問う　①それって暴力です～DV･デート DV
7．恋愛・結婚・家族の「あたりまえ」を問う　②制度としての「結婚」
8．「はたらく」ってなんだ？　①ペイド・ワークとアンペイド・ワーク
9．「はたらく」ってなんだ？　②「イクママ」って聞かないのはなぜ？
10．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　①隠れたカリキュラムとは？
11．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　②性教育の重要さ
12．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　③子どもの貧困は、だれの問題か
13．「まなざし」を問う　①消費される「マイノリティ」
14．「まなざし」を問う　②「ヘン」で何が悪い？～クィア視点から社会をみる
15．まとめ　あらためて「マイノリティ」を問いなおす
定期試験

［準備学習］

受講にあたって準備は必要ありませんが、授業中で提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の中でテーマにそった資料を配布します。
参考文献：加藤慶・渡辺大輔編著『セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援　エンパワーメントにつながるネットワークの構築にむけて　増補版』（開成出版）、河口和也『クィア･スタディーズ』（岩波書店）
他は授業の展開に応じて紹介します。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート：30%
定期試験：70%
合計して60%以上合格

授業科目名	授業の種類	授業担当者
家族支援の展開	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	３，４年次・前期	選択	保育士選択

［授業の目的］

現代の家族を取り巻く社会的状況、人々の生活様式や価値観は変わりつつある。いまや保育者は、こどもの背景にある家族に目を向け、家族や地域と連携して、こどもが豊かに育っていくことを保障することが求められている。そのために、家族の観方や支援のあり方を、さまざまな方向から理解することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

家族の機能、家族の現状とかかえる課題を理解し、家族を支援する方法や技術、社会的資源について学ぶ。保育や支援センターにおける支援と支援者のあり方について、演習や現場経験を通して学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

家族支援のさまざまな方法や技術のなかから、特に自分の選択したテーマについてより深く考察を行い、自らの身につけるための基盤が作られること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション（保育者と家族支援）
2．こどもと家族
3．親であること
4．現代社会と家族の変容
5．家族関係と子育ての諸問題
6．現代の家族とジェンダー
7．児童福祉における家族支援の諸施策
8．家族支援の対象と理解
9．子育て家庭の課題と支援
10．障がいのあるこども家庭の課題と支援
11．ひとり親家庭の課題と支援
12．虐待・疾患のある家庭の課題と支援
13．家族支援の理論と活用
14．関係機関・施設における家庭支援
15．保育所における家庭支援　まとめ
試験

［準備学習］

テキストを読んでくること。また、その週の授業で行った箇所の演習問題を、次週に口頭発表あるいは提出する。全授業のなかで、各人が関心あるテーマをテキストから１つ選び、ゼミ形式で発表を行う課題をこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「実践　家庭支援論」松本園子・永田陽子・福川須美・堀口美智子　著　ななみ書房
参考文献：
武藤安子・吉川晴美・松永あけみ　共著「家族支援の保育学」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度：30％
試験：70％
①発表へのコメントをします。②レポートの講評をして返却します。③小テストを行い、返却します。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
地域支援の展開	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	３，４年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

地域社会への働きかけによって、既存の社会資源活用や、新たな社会資源の構築を行い、こども・子育て家族や障がい者、高齢者などをインクルーシヴな地域社会の形成が可能である。その手法、展開過程や、展開の主体形成について、具体的事例も用いながら学んでいく。

［授業全体の内容の概要］

地域福祉の枠組み、原理、歴史など基礎知識を学んだ後、身近な地域の生活課題をどのように発見し、解決への支援過程を計画、展開するかについて演習を通じて学ぶ。住民や当事者の力を高めることの重要性、新たな社会資源とネットワークづくりの可能性などを考察し、子育て支援拠点の発展が地域社会にどのような影響を与えてより良い地域社会の創造に結びつくのかを理解し、支援的に行動する力を高める。

［授業終了時の到達目標］

地域支援の意義を地域社会の変化に結び付けて理解でき、地域の課題を解決するための初歩的なプログラムの企画をする事ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

１．授業オリエンテーション・地域社会と私たちの生活
２．地域・地域社会・コミュニティの概念
３．日本における地域社会の特色
４．地域支援の理念と歴史
５．地域における生活課題の発見１
６．地域における生活課題の発見２
７．地域支援の実際１
８．地域支援の実際２
９．当事者型福祉・住民参加型福祉と地域支援
10．地域支援の拠点とネットワークづくり
11．地域支援の計画と行政の役割
12．地域支援の担い手養成
13．地域の経済とコミュニティビジネス
14．地域支援の課題
15．総括
試験・レポート等

［準備学習］

①事前に配付する資料の指定箇所を読んで、関連文献にも目を通しておく。
②授業後にはノートを整理し、理解を深める。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
毎回資料配布
参考文献：
川村匡由『地域福祉の理論と方法』久美出版
日本地域福祉学会編『地域福祉事典』中央法規出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の方法・基準）
試験：60％　　授業時の課題等：40％
（課題・成績評価のフィードバック）
授業時には自らの生活の中での地域社会との接点に関する発表や小課題を課し、課題に関するフィードバックを共有しながら授業を進める。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
地域資源とネットワーク(演習)	(講義・(演習)・実習)	新澤　拓治

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
10回	20時間・1単位	3，4年次・後期	選択

[授業の目的]

これからの子育て支援・子ども家庭福祉は、要保護、要支援児童の対応が重要なのはもちろんの事、予防的な視点から地域全体の福祉の中で対応していく必要がある。そうした中、地域資源も表面的なメニューにとらわれるのではなく、地域住民や市民団体、公的な制度や施設など複合的な資源の視点と、それぞれの力が相互に絡みあいながら、助け合い支えあう文化の形成を含めたネットワーク化が必要であることを理解し、現状の把握とその形成過程を学んでいく。

[授業全体の内容の概要]

現代では子育て支援の推進にあたり、個々の施設内における活動だけでは対応が難しい事例が多くなっており、地域でのネットワーク構築や関連機関と連携した活動が重要になっている。様々な事例をもとに、具体的な支援策や連携の持ち方などを、地域の現状把握から各機関や行政の組織、制度の理解を深めたり、フィールドワークを通して情報を収集したりしながら、講義、グループワーク、ディスカッション等を通して学習をすすめる。授業内には、土曜日等を活用した実際の子育て支援現場における演習が含まれており、その出席を必須とする。

[授業終了時の到達目標]

子育て支援における地域の社会資源を把握する。またその把握についての手法、ルールについても学習し、習得をする。またネットワークの中で地域資源とクライアントをどうつないでいくのか、そのマネジメントに関しても、理解を深める。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション：授業の内容と進め方について
　　地域資源とは何か　その視点の持ち方と理解
2．様々な社会資源とその課題①
3．グループ演習・討議　①の課題について
4．学外演習1　地域子育て支援最前線を知る（現場での演習）
5．学外演習2　地域子育て支援最前線を知る（現場での演習）
6．様々な社会資源とその課題②
7．グループ演習・討議　②の課題について
8．事例対応における具体的なマネジメントと地域資源の開発
9．グループ演習・討議：想定ケースへの対応を考える
10．まとめ（被虐待（要保護）児童の対応と実際から考えるこれからの子育て支援）
レポート

[準備学習]

授業での対象地域について、市役所、区役所等へ行き、子育て支援、および暮らしに係わる社会資源についての情報収集を行う。(例：暮らしの便利帳・子育てガイド・保育園入園のしおり等　その他WEBでの情報収集も可)

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
よくわかる　子育て支援･家族援助(ミネルヴァ書房)
　　大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
現場演習を含む授業への取り組み態度：10%
課題・提出物：30%
レポート：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
国際こども福祉	（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

1．世界的に拡大する経済格差がもたらす富裕層と貧困層の二極化。その中で、子どもたちはどのような生活や教育環境に投げ込まれているかを、アジア、アフリカ、アメリカの子どもたちの現状をとおして考える。

2．紛争や貧困の中で、人間としての基本的な生きる条件を奪われている子ども達や日本とは異なる教育を模索している世界の現状を理解する。

［授業全体の内容の概要］

アジア、アフリカ、アメリカなどの富裕層の子ども達に与えられる競争と能力主義の教育現実。同時に、同じ国に生まれながら極貧の生活を強いられながら、学ぶことを貴重な機会ととらえる子ども達の実態をさまざまに紹介しながら、その現実をどう受け止めるかについて意見の交流をおこなう。また、こうした現実に対して、どういう支援が可能なのかを検討する。映画やドキュメントを見ながら、グループワークで意見交流を行う。

［授業終了時の到達目標］

世界の子ども達が直面しているさまざまな教育問題への認識を深め、日本における教育を相対化して認識できるようにし、多文化社会において異なる価値を持つ人たちとの共生について自分の意見をもてるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．世界の子どもがおかれている現状…富裕層と極貧層の二極化
2．子どもの貧困と生存
3．アメリカのマイノリティの子ども達（その１）…マイノリティとは
4．アメリカのマイノリティの子ども達（その２）…マイノリティに対する教育（グループワーク）
5．アメリカのマイノリティの子ども達（その３）…宗教と教育
6．中国内陸部の子ども達…貧困と児童労働
7．中国エリート層の子ども達…エリート学校での教育（グループワーク）
8．韓国の子ども達…競争と能力主義
9．韓国の進学熱（グループワーク）
10．それでも学校に行きたい子ども達（その１）…「地球の果ての通学路」
11．それでも学校に行きたい子ども達（その２）（グループワーク）
12．少数民族としての誇りを（その１）
13．少数民族としての誇りを（その２）（グループワーク）
14．ベールを脱がない子ども達（その１）
15．ベールを脱がない子ども達（その２）（グループワーク）
レポート

［準備学習］

グループワークに向けた準備学習を課すことがあります。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の展開に応じて授業中に指示。
参考文献：石井光太『絶対貧困』(新潮文庫)、『レンタルチャイルド』(新潮文庫)、堤未果『アメリカ弱者革命』(珍重文庫) 二宮皓『世界の学校』(学事出版)

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業（グループワーク）への取り組み：30%
レポート：70%
合計して60%以上合格

授業科目名	授業の種類	授業担当者
フィールド演習	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐・宮﨑・岩本・菅野・高野・船木・皆川・亘理・金井・瓜巣・五味・柴田・丸谷・鶴ヶ谷・内田

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
8回	15時間・1単位	1年次・通年	必修	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

保育所、幼稚園、学内の親子のひろば「ぽっけ」での体験活動を通じて実際にこどもとふれあうことにより、こどもに関わる現場の様子を学び、「こどもとふれあう自分」に対する新たな気づきをうながす。２年次以降の保育実習や幼稚園教育実習への準備学習を兼ねる演習である。

［授業全体の内容の概要］

年間を通じて２回の学外見学とその事前学習ならびにグループ学習を活用した事後学習、親子のひろば「ぽっけ」における指定された回数の体験活動を行うことによって、こども、親子とふれあう。

［授業終了時の到達目標］

保育所、幼稚園、学内の親子のひろば「ぽっけ」の現場における保育者の役割、こどもの姿、活動、保育環境などについての理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

１．授業オリエンテーション
２．参加のための事前学習
３．「ぽっけ」での体験活動１（事前・事後学習指導含む）
４．「ぽっけ」での体験活動２（事前・事後学習指導含む）
５．「ぽっけ」での体験活動振り返り
６．学外見学１（保育園）（事前・事後学習指導含む）
７．学外見学２（幼稚園）（事前・事後学習指導含む）
８．見学報告会
レポート提出

［準備学習］

事前に指示された内容を期日に提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：フィールド演習の手引き

参考文献：「０歳～６歳 子どもの発達と保育の本」
監修・執筆　河原紀子　学研教育出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート：70%
受講態度：10%
取組の姿勢：20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
親子支援演習	（ 講義・演習・実習 ）	五十嵐裕子・市川美恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択

［授業の目的］

親子支援とは何か、その意義と方法について、学内の親子のひろば「ぽっけ」での演習や子育て支援センター、保育園・幼稚園での親子支援プログラムの実践例を通して理解する。子育て期の親子には共通してみられるニーズ、個々の親子に固有なニーズがあることを知り、それらニーズに対して保育者として可能な支援について考える。

［授業全体の内容の概要］

学内親子ひろば「ぽっけ」において展開されている親子支援プログラムについてその意図や実際について学ぶとともに、各地の子育て支援センター等で展開されている親子支援のプログラムについて知る。子育て期にある親子のニーズに基づいた親子支援プログラムのプランニングを行い、各自の考えた親子支援プログラムのうち、いくつかのものを「ぽっけ」にて実践し、そのふり返りを行う。

［授業終了時の到達目標］

①親子支援の必要性を理解し、親子支援に携わる者としての基本的な考え方、態度を身につける。②子育て支援センターや親子のひろば等における親子支援、保育園や幼稚園における親子支援の例について知る。③親子のもつさまざまなニーズを理解し、それらに対する支援の方法、プログラムを立案・実践・評価する力を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．親子支援とは
2．「ぽっけ」における親子支援プログラムを学ぶ
3．「ぽっけ」体験学習①
4．事後学習　発表とグループディスカッション
5．親子支援プログラムの実践例について学ぶ①
6．親子支援プログラムの実践例について学ぶ②
7．親子支援のためのプログラム、技法について学ぶ
8．「ぽっけ」体験学習②
9．事後学習　発表とグループディスカッション
10．親子支援プログラムを考える①
11．親子支援プログラムを考える②
12．「ぽっけ」体験学習③
13．事後学習　発表とグループディスカッション
14．保育園・幼稚園における親子支援について考える
15．まとめ
レポート提出

［準備学習］

①配布資料は必ず事前に読んでくること。②ワークシートは指定の期日までに完成をさせ、授業に臨むこと。③授業内での3回の体験学習の他、自主的に親子のひろば「ぽっけ」や講座等の保育スタッフに参加すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業に配布するプリントを使用
参考文献：
『子育て支援の理論と実践』ミネルヴァ書房
『育つ・つながる子育て支援』チャイルド本社
その他、授業時に適宜紹介する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート60%
体験学習（事後学習を含む）への取り組み　40%
※「ぽっけ」での3回の体験学習には必ず参加すること

［履修条件］

フィールド演習等の授業を含め、1、2年次に5回以上「ぽっけ」に参加していることが望ましい。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
海外セミナー（カナダ）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・出口雅生・柴田崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	60時間・ 2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

カナダのライアソン大学との学術提携にもとづいて、カナダの保育や家族支援の実際ならびにその背景にある文化について国際的な学びを行うことを通じ、保育者としての視野を広げる。

［授業全体の内容の概要］

事前に研修先について学習し、英語のスキルアップを図り、現地における６泊８日の研修に参加する。学内での授業参加および学生との交流、学内外の保育施設や家族支援のドロップインセンターなどを見学する。事後に報告会を行い、報告書を作成する。

［授業終了時の到達目標］

カナダへの研修に参加し、保育や家族支援について理解を深めるとともに、国際感覚を養い、保育者としての視野を広げ専門性を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．オリエンテーション　ライアソン大学の概要、カナダの家族支援、カナダ文化の理解、研修日程及び事前指導等について
2．事前学習　カナダの家族支援と保育について
3．英語指導①　基礎的な会話
4．英語指導②　自己紹介
5．英語指導③　カナダの生活と文化
6．英語指導④　プレゼンテーション（内容の考案）
7．英語指導⑤　プレゼンテーション（発表練習）
8．学生交流のためのプレゼンテーション準備
9．現地研修　６泊８日　ライアソン大学子ども学科の授業参加
学生との交流
学内学外保育施設等の見学
10．研修報告会
11．報告書作成

［準備学習］

事前学習、英語学習、プレゼンテーション準備等にあたり、それぞれ課題を提示するので、それぞれの課題に沿って着実に予習し、進めていくこと。カナダの文化や家族支援に興味を持って学習し、関連のある授業科目を受講するなど自主的に学びを深めること。

［使用テキスト・参考文献］

伊志嶺美津子他『子ども家庭支援プログラムの開発に関する研究』平成15年度・16年度厚生労働科学研究報告書
『浦和大学　国際セミナー2008　資料集』(図書館に蔵書あり)

［備考］

旅費等の参加費は別途提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

事前事後授業受講および参加態度：30%
現地研修参加態度：50%
報告書：20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅰ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本裕子・高野実貴雄・亘理史子・金井玲子・五十嵐裕子・内田徹・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・２単位	３年次・通年	必修

［授業の目的］

２年間の学内外における学びをもとに、３年次、４年次においては、個々の学生が関心のあるテーマに取組み、４年間の学修成果をまとめていくための幅広い学習を行う。４年次に成果物として論文や作品を仕上げ、「卒業研究」として提出することをめざし、３年次には、文献やデータ収集、事例研究、教材研究などを行い、どのようにして各自の望む成果を達成していくのかについて、担当教員の指導を受けつつ自主的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

２年次終了時に学生の希望をもとに授業担当教員（所属ゼミ）を決定し、原則として２年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究Ⅰにおいては、各自の課題発見と研究の意義と方法について焦点化することを目的として、調査報告、討論などの演習と、分析、考察の深め方、研究方法に関する指導を中心に行う。

［授業終了時の到達目標］

研究及び作品作成のための適切な課題設定を行い、目的に応じた方法を理解し、活動計画を立てることができる。卒業研究成果物提出の形式に従って小規模なレポートや作品を完成できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．課題の立て方と研究の進め方
3．研究課題設定のための学習①
4．研究課題設定のための学習②
5．学生による発表とディスカッション①
6．研究課題設定のための学習③
7．研究課題設定のための学習④
8．学生による発表とディスカッション②
9．研究課題設定のための学習⑤
10．研究課題設定のための学習⑥
11．学生による発表とディスカッション③
12．研究計画の立て方①
13．研究計画の立て方②
14．研究方法指導①
15．研究方法指導②
レポート提出

16．後期の進め方
17．研究計画発表とディスカッション①
18．研究計画発表とディスカッション②
19．研究課題に関する指導①
20．研究課題に関する指導②
21．研究計画及び研究方法
22．個別指導①
23．個別指導②
24．個別指導③
25．経過発表とディスカッション③
26．経過発表とディスカッション④
27．総括レポート作成指導①
28．総括レポート作成指導②
29．総括レポート作成指導③
30．卒研発表会（４年生の発表聴講）
レポート提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題を、授業時間外に準備学習として行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅱ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本裕子・高野実貴雄・船木美佳・出口雅生・瓜巣由紀子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	4年次・通年	必修

［授業の目的］

4年間の学内外における学びの総まとめとして、個々の学生が関心のある課題を発見し、3年次の「卒業研究Ⅰ」における研究計画や研究方法に基づいて、さらに研究を発展させ成果物を完成させる。自らが課題を発見し、それを解決するための総合的能力を高める自主的な学習態度を養う。

［授業全体の内容の概要］

2年次終了時に学生の希望をもとに授業担当者（所属ゼミ）を決定し、原則として2年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究・作品を仕上げていくための個別指導と相互発表を中心に授業を行う。

［授業終了時の到達目標］

卒業論文・作品の作成と発表を通じて、研究、及びその発表に必要な知識や技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．論文・作品指導演習〈個別指導①〉
3．論文・作品指導演習〈個別指導②〉
4．論文・作品指導演習〈個別指導③〉
5．研究成果中間発表①
6．論文・作品指導演習〈個別指導④〉
7．論文・作品指導演習〈個別指導⑤〉
8．論文・作品指導演習〈個別指導⑥〉
9．研究成果中間発表②
10．論文・作品指導演習〈個別指導⑦〉
11．論文・作品指導演習〈個別指導⑧〉
12．論文・作品指導演習〈個別指導⑨〉
13．研究成果中間発表③
14．研究計画の修正
15．夏休み中の進め方
レポート提出
16．研究成果中間発表④
17．論文・作品指導演習〈個別指導⑩〉
18．論文・作品指導演習〈個別指導⑪〉
19．論文・作品指導演習〈個別指導⑫〉
20．論文・作品指導演習〈個別指導⑬〉
21．論文・作品指導演習〈個別指導⑭〉
22．研究成果中間発表⑤
23．論文・作品指導演習〈個別指導⑮〉
24．論文・作品指導演習〈個別指導⑯〉
25．論文・作品指導演習〈個別指導⑰〉
26．論文・作品指導演習〈個別指導⑱〉
27．論文・作品指導演習〈個別指導⑲〉
28．ゼミ内研究発表会
29．卒業研究発表会準備
30．卒業研究発表会
卒業研究の提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題と、成果物の完成に向けた作業を、授業時間外に行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

卒業研究提出物：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
卒業研究	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本裕子・高野実貴雄・船木美佳・出口雅生・瓜巣由紀子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	4年次・通年	必修

［授業の目的］

３年次終了時に学生の希望に沿って授業担当者を決定し、一年間を通じて同一教員による指導を受けるので、詳細は各教員の指導に従う。授業では、３年次までの学内外における学習をふまえて、個々の学生が関心のある課題を発見し、文献やデータ収集、調査、事例研究、教材研究などによって、その課題に関する分析や考察を深め、卒業研究として成果物をまとめる。この一連の学習を通じて、課題発見から課題解決能力へと導く総合的能力を高める。少人数のクラス編成の演習授業として実施する。

［授業全体の内容の概要］

前期においては、各自の課題発見と研究の意義と方法について焦点化することを目的として、関心のあるテーマに関して調べて報告し、ディスカッションを行うなどの演習と、分析、考察の深め方、研究方法に関する指導を中心に行う。夏休みに各自が研究を進め、後期においては成果物へとまとめていくための個別指導と中間発表を中心に行う。

総まとめとしての成果物を作成し、最後に研究発表を行う。

［授業終了時の到達目標］

卒業論文・作品の作成と発表を通じて、研究や創作及びその発表に必要な知識や技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．研究計画の立て方と研究の進め方
3．学生による課題の発表とディスカッション(1)
4．学生による課題の発表とディスカッション(2)
5．資料収集と分析、考察の進め方
6．研究方法指導①
7．研究課題設定と研究計画作成指導〈個別指導①〉
8．研究課題設定と研究計画作成指導〈個別指導②〉
9．研究計画発表とディスカッション
10．研究方法指導②
11．研究成果のまとめ方
12．研究計画の修正、発表と指導(1)
13．研究計画の修正、発表と指導(2)
14．今後の研究の進め方について中間発表
15．研究計画書提出、夏休み中の進め方
16．研究成果中間発表(1)
17．論文指導演習〈個別指導①〉
18．論文指導演習〈個別指導②〉
19．論文指導演習〈個別指導③〉
20．論文指導演習〈個別指導④〉
21．論文指導演習〈個別指導⑤〉
22．研究成果中間発表(2)
23．論文指導演習〈個別指導⑥〉
24．論文指導演習〈個別指導⑦〉
25．論文指導演習〈個別指導⑧〉
26．論文指導演習〈個別指導⑨〉
27．論文指導演習〈個別指導⑩〉
28．論文指導演習〈個別指導⑪〉
29．研究発表会準備
30．研究発表会

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献収集やレポート作成等、研究や作品作成を行うための準備を、授業時間外に行う。

［使用テキスト・参考文献］

各教員の指示による

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

卒業研究への取り組み、出席状況ならびに卒業研究としての成果物の状況、発表等を総合的に評価する。

受講態度　30%　　最終提出物　70%

こども専門科目

（こどもと家族の生活支援）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会福祉概論	（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	保育士必修

［授業の目的］

①社会福祉の基本理念ならびに現代社会において求められる役割を学ぶ。
②保育者として求められる社会福祉の基本的仕組み、法行財政、分野ごとの基礎的知識を身につけ、課題を理解する。
③社会福祉の歴史的展開と現代の動向及び展開方向について理解する。

［授業全体の内容の概要］

社会福祉の基本理念を正しく理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を学ぶことを通じ、保育士が広く社会福祉を担う役割を果たすことへの気づきを促す。また、社会福祉の法行財政、日本における社会福祉の歴史、社会福祉の援助の実際がどのような場でどのような考え方や方法で行われているのか、といった援助の体系、社会福祉専門職の役割など、社会福祉の基礎的な知識を学習する。この講義を通じて、多様な人々がより良く生きることができるよう支援するための、さまざまな方策が社会福祉であることを理解していく。

［授業終了時の到達目標］

社会福祉の理念と各分野の概略ならびに福祉的な支援の特色を理解すると共に、福祉の視点での人間理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション・現代社会と社会福祉、保育
2．人権の歴史と社会福祉の生成
3．社会福祉の理念
4．社会福祉の仕組み：法行財政①
5．社会福祉の仕組み：法行財政②
6．社会福祉の施設と機関
7．相談援助の理論と実際
8．社会福祉の分野①　障がい児・者の生活と自立を支援する社会福祉
9．社会福祉の分野②　高齢者の生活問題の理解
10．社会福祉の分野③　高齢者の生活問題としての介護と介護保険制度
11．社会福祉の歴史①　イギリスにおける福祉国家形成を中心に
12．社会福祉の歴史②　日本の社会福祉史概観
13．社会福祉の動向：社会福祉基礎構造改革と地域福祉の批判的検討
14．社会福祉を担う人々：専門職制度と職業倫理
15．総括――学習のまとめ――
筆記試験を実施

［準備学習］

①教科書ならびに配布資料の指定箇所を事前に読み、予習課題がある場合には期日厳守にて提出する。
②授業後はノート整理をして授業内容を復習しておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大久保秀子著『新・社会福祉とは何か』（中央法規出版）
テキストで不足する部分については、授業時に資料配布を行う。
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の基準）試験：60%
課題の提出等：40%
（課題、成績評価のフィードバック）
授業時、または上記授業前準備学修課題等提出物の内容を授業に反映させる。他の学生の体験や意見を共有して授業内容の理解を深める。したがって課題の提出が重要である。定期試験については、記述・論述式を除き、試験後に正解を示し、学生自身の理解を促す。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
児童家庭福祉論	（講義・演習・実習）	五十嵐裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

・児童家庭福祉の意義を歴史や子どもの人権を通して理解するとともに、制度や実施体制について知る。
・子どもと家族をめぐる福祉的問題と、それへの児童家庭福祉サービスの実際と課題について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

児童家庭福祉の意義と歴史、子どもの人権と児童家庭福祉問題の現代的背景、児童家庭福祉の制度と体系についての理解を図るとともに、子どもを巡って現在おきているさまざまな問題を取り上げ、その背景や動向、対応、課題などについて具体的に考える。

［授業終了時の到達目標］

児童家庭福祉に携わる者としての価値観・倫理観を養うとともに、現代の子どもたちの抱えている問題、問題解決のため必要な施策、サービスについて基本的な知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．児童福祉とは(1)　―児童福祉の根拠・特徴・対象―
2．児童福祉とは(2)　―児童福祉の範囲・領域、わが国の児童福祉の現状―
3．児童福祉の歴史(1)　―イギリス－
4．児童福祉の歴史(2)　―日本―
5．こどもの生活と生活問題
6．こども観の変遷とこども福祉の理念の形成
7．児童福祉の法と行財政(1)　―児童福祉にかかわる法律と実施機関―
8．児童福祉の法と行財政(2)　―児童福祉にかかわる事業・施設と児童福祉の財政―
9．子どもと家族
10．子育て支援の体系と保育施策
11．社会病理・家族病理としてのこども虐待
12．社会的養護の現状と課題
13．障害のあるこどもへの福祉の現状と課題
14．こどもの福祉に携わる専門職
15．まとめ
試験・レポート等

［準備学習］

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：米山岳廣他編著『子ども・生活・福祉』
文化書房博文社

参考文献：
『社会福祉小六法』
日本子どもを守る会編『子ども白書2015』本の泉社　2015

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会的養護論	（講義・演習・実習）	瓜巣由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

社会的養護とは何かということを理解し、社会的養護の法制度、実施体系などを理解する。社会的養護の今日的意義と児童福祉の専門職としての基礎的な知識等を習得できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

社会的養護の歴史的変遷、現状と課題を把握する。家庭環境の変化と社会的養護の役割、社会的養護の法制度や体系、従事者の役割を解説する。これらをふまえ、児童福祉施設の従事者として備えるべき支援の理念や内容を学習する。

［授業終了時の到達目標］

社会的養護を必要とする子どもへの理解を深める。そしてその子どもを一人の人として尊重する支援や必要とする支援について習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．社会的養護とは何か
2．社会的養護の歴史的変遷と今日的意義
3．児童の権利擁護と自立支援
4．社会的養護の法制度と体系
5．社会的養護と専門職
6．家庭養護（里親制度）と支援
7．施設養護の運営管理
8．施設養護と支援①　乳児院
9．施設養護と支援②　児童養護施設・母子生活支援施設
10．施設養護と支援③　障害児入所施設
11．施設養護と支援④　情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設
12．施設養護と支援⑤　児童厚生施設、児童福祉施設と地域のかかわり
13．施設養護と家庭支援・地域とのかかわり
14．社会的養護と危機管理
15．社会的養護まとめ
試験

［準備学習］

「社会福祉概論」や「児童家庭福祉論」を復習しておくこと。授業後に授業中に指定した参考文献や関連資料を読み、次回の授業に臨むこと。そして新聞等で児童福祉の現状を把握しておいて下さい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『現代の保育と社会的養護』
井村圭壮・安田誠人編／学文社

参考文献：『福祉小六法』／みらい

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：15%
期末試験：70%
課題提出：15%（レポート講評あり）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
社会的養護内容	（ 講義・演習・実習 ）	瓜巣由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

社会的養護の実際と支援の方法を学び、児童福祉従事者の役割を理解する。児童福祉の現場で活かせる知識を習得する。

個人ワークやグループワークを通して、児童福祉の専門職として必要な基礎的技能を習得する。

［授業全体の内容の概要］

社会的養護の基礎的知識を活かし、児童の権利擁護と児童福祉専門職としての知識・技能を高める。そして各事例について個人ワークならびにグループワークを行い、支援の多様性や考え方の多様性を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

グループワークを通して、事例考察から支援方法や考え方の多様性を学ぶ。考察作業や発表等からグループ活動の意義を体得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．家庭養護と社会的養護の役割
2．社会的養護の体系と支援事業
3．児童の権利擁護と自立支援の実際
4．児童福祉専門職としての役割と倫理
5．自立支援事例①における個人ワーク
6．事例のグループワークと発表、まとめ
7．自立支援事例②における個人ワーク
8．事例のグループワークと発表、まとめ
9．被虐待児事例における個人ワーク
10．事例のグループワークと発表、まとめ
11．親子関係調整事例における個人ワーク
12．事例のグループワークと発表、まとめ
13．保護者支援事例における個人ワーク
14．事例のグループワークと発表、まとめ
15．社会的養護内容のまとめ
試験

［準備学習］

「社会的養護論」を復習しておくこと。授業中に課した課題を行い、グループワークに臨むこと。グループワークでは現場実習の振り返りもあるので、実習で得た資料等を復習して授業に臨んで下さい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『社会的養護～社会的養護の基礎～』
瓜巣一美（執筆者代表）／中央教育・福祉研究所

※「社会的養護論」で使用したテキストを継続使用します

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：20％
期末試験：70％
課題提出：10％（レポート講評あり）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
相談援助演習	（ 講義・演習・実習 ）	馬場　康徳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育・児童福祉の現場では子ども達を援助することは当然のことですが、今日においては子どもの保護者への支援、そして地域の子どもやその家庭への支援も欠かせないものとなっている。そこで保育士にとって相談援助の意義を深め、保育活動と相談援助の関係について理解をする。

［授業全体の内容の概要］

相談援助の理念と歴史、原理原則、展開過程、記録、評価について学ぶ。事例を通してグループワークやロールプレイングを行い、相談援助を体得する。

［授業終了時の到達目標］

保育・児童福祉の現場において相談援助がどのように活用されているか、その必要性と意義について理解する。また相談者の抱えている課題は多岐にわたることを知り、保育者として相談者の視点からも多様な考え方を尊重できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育と相談援助
2．相談援助とソーシャルワーク
3．相談援助の理論と歴史
4．相談援助の機能
5．相談援助の対象
6．相談援助の原理・原則
7．相談援助の過程
8．相談援助の記録
9．相談援助の評価
10．ソーシャルワークの方法①　グループワーク
11．ソーシャルワークの方法②　コミュニティワーク
12．ソーシャルワークの方法③　その他のソーシャルワークの方法
13．相談援助の具体的展開①　事例分析
14．相談援助の具体的展開②　事例分析
15．相談援助の具体的展開③　事例分析
試験

［準備学習］

授業の前に前回のノートや配布された資料を読み返し授業に臨むこと。授業において配布された資料等はきちんと整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要に応じてプリント配布。
参考文献：大久保秀子著『新・社会福祉とは何か』中央法規出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
提出物、授業への取り組み等：40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育相談支援	（ 講義・演習・実習 ）	甲斐　恵美・木村　弘美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

・保育相談支援の意義と原則について理解する。
・保育所・子育て支援センター、その他の児童福祉施設における保育相談支援の実際について学び、内容や方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

保育相談支援の意義・原則について理解を図り、保育相談支援の基本的姿勢や実際について学ぶ。
グループワークや事例、ロールプレイングを通して保育相談支援を考え深める。

［授業終了時の到達目標］

・保育相談支援の意義と原則を理解し、実際の展開に役立てられるように、保育相談の方法と技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業のねらい・保護者に対する保育相談支援の意義
2．保育の特性と保育士の専門性を活かした支援
3．子どもの最善の利益と福祉の重視
4．子どもの成長の喜びの共有
5．保護者の養育力の向上に資する支援
6．信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
7．地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8．保育に関する保護者に対する指導
9．保育者支援の内容
10．保護者支援の方法と技術
11．保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12．保育所における保育相談支援の実際
13．保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14．児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
　　障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援
15．まとめ
試験・レポート等

［準備学習］

授業前テキストの該当部分を読んでくること

［使用テキスト・参考文献］

〔テキスト〕保育相談支援⑲　中央法規

〔参考文献〕子育て支援の原点『保育園における子育て支援の歩みと実践事例から学ぶ働き』子育てセンター実践研究会

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
受講態度：40%（授業への取り組み・提出物等）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
グループダイナミクス	（ 講義・演習・実習 ）	雨宮　有里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

社会心理学的なものの見方を学び、その知識を日常で使えるようにすることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

本講義ではグループダイナミクスのうち、うわさ・インターネットと心理学・プロパガンダを扱う。このように書くと難しいイメージがあるかもしれないが、これらの内容はとても身近なものである。例えば、デマはどのようにして広まっていくのだろうか？（流言）。「流行」はどのようにしてつくられるのだろうか？（プロパガンダ）。この講義はそうした日常生活の「不思議」について、実験や調査を踏まえた知見を提供する。それと同時に、実際の生活にどのように応用すればいいのかを学ぶことを目的とする。

［授業終了時の到達目標］

講義を通じてグループダイナミクスに関する知識の獲得と日常生活への応用を目的とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．グループダイナミクスとか何か
2．流言(1)：3．11のデマはどのように広まったのか？（社会情報としてのうわさ）
3．流言(2)：流言を広めやすい人・状況はどのようなものか
4．流言(3)：流言で伝わりやすい内容･プロセスを体験してみよう！(グループワーク)
5．ゴシップ(1)：ゴシップの構造（おしゃべりとしてのうわさ）
6．ゴシップ(2)：人はなぜゴシップが好きなのか？（ゴシップの機能）
7．都市伝説(1)：都市伝説にはどのようなものがあるのか？(楽しみとしてのうわさ)
8．都市伝説(2)：都市伝説と企業、うわさを打ち消すにはどうしたらいいのか？
9．インターネットと心理学(1)：インターネットの使用は心理的健康を損ねる？
10．インターネットと心理学(2)：インターネットと自己開示
11．インターネットと心理学(3)：インターネットと自己呈示
12．プロパガンダ(1)：広告・宣伝のからくりを見抜く、CMはなぜ効果があるのか？
13．プロパガンダ(2)：流行はどのようにして作られるのか？
14．プロパガンダ(3)：恐怖アピール､｢同じ出身地｣の人と親しくなりやすいのはなぜ？
15．ふり返りとまとめ
レポート

［準備学習］

一つのテーマが終わるごとに「復習問題」や「次回のテーマのポイント」を提示する。その内容について、復習・予習することで講義への理解を深める。

［使用テキスト・参考文献］

テキストは特に定めず、毎回、資料を配布する。なお、講義で配布する資料は重要なところは穴埋め式になっている。休んだ分は友人に聞くなどして資料を完成させる。

（参考文献）
グラフィック社会心理学
池上　知子（著）、遠藤　由美　サイエンス社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
レポート　90%
講義内課題　10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
家庭支援論	（講義・演習・実習）	丸谷　充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

現代の家庭の状況や問題を理解することを通して、子育て家庭への支援の必要性と支援の内容について知り、支援者としての視点と知識を身につける。

［授業全体の内容の概要］

家庭の意義と機能について学び、データや事例を通して子どもと子育て家庭の置かれている社会的状況の変化と今日的課題を理解する。それらを踏まえた上で、保育の観点から子どもと子育て家庭への支援施策と支援体制を理解し、子育て家庭の多様なニーズに応じた相談支援の展開と社会資源の活用、関係機関との連携について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

1．現代の子育て家庭の現状と家庭支援の必要性を理解できる。
2．家庭支援の方法と関係機関との連携について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション　家庭支援を学ぶ意義
2．少子高齢化と家族
3．家族の変遷
4．家族の発達と家庭支援
5．子どもにとっての家庭⑴さまざまな家庭で育つ子ども
6．子どもにとっての家庭⑵子どもの発達と家庭
7．現代社会における父母の役割と協働
8．家庭支援施策の概要
9．多様な家庭への支援：ひとり親の家庭支援
10．多様な家庭への支援：発達のつまずきや障がいのある子ども
11．多様な家庭への支援：児童虐待と家庭内暴力
12．地域の家庭支援の実際
13．保育所の家庭支援
14．家庭支援における多職種・多機関連携
15．まとめ・これからの家庭支援
試験

［準備学習］

家族に関するニュースを積極的に収集してくること。
授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「児童の福祉を支える家庭支援論」
吉田眞理著　萌文書林

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

課題・リアクションペーパー　20%
講義への参加度　20%
期末試験　60%
課題・リアクションペーパーの返却と講評を行います。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ボランティア・NPO 論	（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

ボランティア活動の原理や考え方の基本について、演習を交えて学ぶことにより、市民としての行動原理について理解するとともに、保育者としての職務において、ボランティアとの間により良い関係を築く視点や留意点を学ぶ。そして、近年、急速に盛んになった多様な NPO 活動の社会的意義や NPO 法人の今後の展開方向について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

ボランティア活動ならびに NPO 組織と活動についての基礎知識について理解を深めるため、必要に応じてグループ学習も取り入れながらボランティア活動と組織について学ぶ、保育現場でどのような役割を果たせるか、ボランティアコーディネートの役割と重要性について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①ボランティア活動の歴史と現代的意義を理解するとともに自らが活動することに関心を持てるようになる。
② NPO 法を理解し、NPO 法人の活動を理解し、その可能性と課題について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．ボランティアとは何か
2．ボランティア活動の原理①自発性
3．ボランティア活動の原理②非営利―無償の意義
4．ボランティア活動の原理③社会性・社会貢献性
5．ボランティア活動の原理④創造性の発揮
6．日本におけるボランティアの歴史的展開 1
7．日本におけるボランティアの歴史的展開 2
8．NPO 法の背景と意義
9．NPO 法人の組織的活動の実際と課題
10．NPO 法人の組織と運営
11．NPO・市民活動・ボランティア活動
12．保育・福祉施設におけるボランティアとの協働
13．地域社会とボランティア
14．ボランティアコーディネートの役割と重要性
15．ボランティア・NPO・市民活動の今後
試験・レポート等

［準備学習］

①事前に配付する資料の内、指定箇所を読んでくる。
②授業時に指定された課題を実施する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業時に資料配布
参考文献：
川口清史他編『よくわかる　NPO・ボランティア』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の方法、基準）
試験：60%　　課題等：40%
（課題・成績評価のフィードバック）
授業時に事例を提示した課題についてグループ学習を行い、発表を通じて他者の考え方を十分に理解する。したがって、学生個々の考え方を発表できる時間が多く、その中で課題の成果がフィードバックされる。議論の参加姿勢等を含め、受講態度を重視する。

こども専門科目

（こどもと家族の心理）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
発達心理学	（講義・演習・実習）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

こどもの発達を中心に、生涯発達の視点から、心理的、生理的、社会的側面に関する発達心理学の知見を学び、より深い人間理解を目指す。子どもから大人までの各発達段階の変化を詳細に理解することにより、日常生活の人間行動の諸現象への洞察を深め、保育・教育現場で活かせる基礎力の獲得と向上に取り組む。

［授業全体の内容の概要］

こどもの発達における運動、知覚、言語、思考、情動等の、精神的および身体的な機能および構造の発達的要因や変化の条件を理解する。そして、具体的な発達に関する事例や現象について、映像等を観察し、考察することをとおして、発達段階によって生じる様々な心理的問題や障碍について体験的に理解する。発達の変化を予測する力を養い、適切な発達の理解と援助を可能とする知識とスキルを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

胎児期から老年期のライフサイクルにおけるこどもの発達的要因（運動、知覚、言語、思考、情動等）について理解する。

発達の変化を予測する力を獲得し、適切な発達の理解と援助が可能となる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．発達心理学の視点、研究法
2．発達心理とライフサイクル
3．発達の生物学的側面
4．発達の心理・社会的側面
5．こころの発達の時期と段階説
6．出生前から幼児期までの発達
7．児童期から青年期までの発達
8．成人期から高齢期までの発達
9．学習と言語の発達
10．社会性の発達
11．パーソナリティの発達
12．発達に関する問題の理解と心理学的援助(1)
13．発達に関する問題の理解と心理学的援助(2)
14．発達と保育、教育、創造性
15．総括
定期試験：筆記試験を実施

［準備学習］

事前にテキストを熟読し講義を受けること。準備学習で不明な点、疑問点を講義で質問し、こどもの発達の理解を深めていく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：無藤隆 他『よくわかる発達心理学』
ミネルヴァ書房　2009

参考書・参考資料等：
藤崎眞知代他『保育のための発達心理学』新曜社
高橋道子他共著『子どもの発達心理学』新曜社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験	50%
授業への取り組み	20%
ミニレポート	20%
授業参加度	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育の心理学演習	（ 講義・演習・実習 ）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの心身の発達を、生活と遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程から理解する。そして、どのように保育を進めていけばよいのか、心理学的な原則を保育場面における実際に照らしあわせていくことが授業の目的であり、さらには、保育における発達援助についての学びをねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

保育実践においてはこどもの心身の発達にかかわる心理学的理解が不可欠であることを知ると同時に、心理学的理解をいかに具体的な保育実践に生かしていくか考える。生活や遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程を理解し、それぞれの過程、場面における発達援助のあり方について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

こどもがどのようにして生活と遊びのなかで心身を発達させているのかを、具体的な事例演習から、現場でのさまざまな場面を想像し、その支援の方法について知る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

絵本（英語）を読み、また教科書の事例をロールプレイすることを通して、考えを深める。

1.「しなやかな」こころとからだ
2. こどものストレス
3. こどもの葛藤
4. 仲間と集団
5. こころの理論
6. こどもの自我
7. もののしくみ
8. 自然環境とふれあう
9. こどもの数理解と保育
10. 遊びとコミュニケーション
11. やりとりと学び
12. 遊びと概念獲得
13.「生きる力」の基礎
14. 発達の課題に応じた援助
15. 就学へのつなぎ
試験

［準備学習］

授業で行う範囲を、必ず読んでくる。よく理解できない箇所をチェックしておくこと。用語調べ。
前の回の配布資料について読み直し、演習事例についてふり返りノートを作成する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：井戸ゆかり　編著　園田巌・紺野道子「保育の心理学Ⅱ　演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助」（第3版）　萌文書林
参考文献：適宜配布する。
鯨岡　峻・鯨岡和子　著「よくわかる保育心理学」ミネルヴァ書房　他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験：70%
授業態度：30%
①授業のふり返りシートを提出し、それにコメントをつけて返却します。
②ロールプレイの評価をします。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育心理学	（講義・演習・実習）	皆川　　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

幼児期から児童期の子どもに焦点を当て、保育や教育を通して、学ぶこと、学ぶことへの動機付け、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知的機能の測定方法、集団における人間関係、評価について、心理学的側面から基礎的な理論を理解する。さらに、障害のある幼児、児童、生徒の心身の発達と学習過程について理解し、特に、記憶、学習、知能、動機付けについては障害児の発達とその特性を知る。

［授業全体の内容の概要］

保育所、幼稚園、小中学校で学ぶ幼児、児童、生徒の発達と学習および教育評価について、心理学的側面から基本的知識を習得し理解を深める。子どもの発達と子どもが学ぶこと、学ぶことへの動機づけ、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知能の測定、集団の中での子ども同士の関係、保育者や教師の子ども理解や評価と子どもの発達や行動との相互関係、保育や教育における評価について、心理学的側面から基礎的な理論を学習する。

［授業終了時の到達目標］

学習理論、学習への動機付け、記憶のメカニズム、知能観と知的機能の発達、評価に関して基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子ども理解のために教育心理学の果たす役割、学習法（知識の整理法など）
2．記憶のメカニズム、短期記憶と長期記憶、リハーサル、認知構造
3．乳幼児期からの記憶の発達と知識の形成過程
4．古典的条件づけと道具的条件づけによる学習の理論
5．条件付けの、幼児・児童・生徒に対する適応促進・治療的かかわりへの応用
6．社会的学習理論とその応用、社会現象への見方
7．知能観についての諸説、知的機能の発達、知的障害児の知能の発達
8．知的機能の測定に関する理論と方法及び知能検査
9．知的機能の変動要因、遺伝と環境が知能におよぼす影響
10．学習に対する達成動機、期待と価値、学習意欲等と学習成果
11．学習における内発的動機付けと外的報酬及びこれらの成果との関係
12．障害のある幼児・児童・生徒の心身の発達と学習過程
13．クラス集団の子ども同士の関係、教師の役割、教師と子どもの関係
14．教育における評価の意義と目的、評価基準と方法
15．教育心理学研究法
試験

［準備学習］

毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストその他の該当部分を読んでおくこと。また、図書館等で調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
鎌原雅彦・竹網誠一郎著
『やさしい教育心理学第3版』有斐閣2015
￥1,900＋税

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

テスト（中間・期末・小テスト）80%
授業態度　20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
家族の心理学	（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

親子・同胞などの家族関係、結婚や離婚に関する心理―社会的な事象、家族の形成・発達・崩壊などの家族プロセスを学び、今日のわが国の家族問題について受講生が主体的に学ぶことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

まず、「家族とは何か」を考える。次に家族の起源、進化・発達というものを歴史や異文化社会から見渡す。

そして、恋愛と配偶者の選択、結婚生活と夫婦関係、親子の関係といった家族の諸相を日本のみならず諸外国のデータと比較しながら、わが国の家族問題を学ぶ。最後に受講生各自の家族に対する価値観や幸福感の再考を促す。教員が独自で用意した資料からの講義を中心とする。また、ファシリテーションやディベート式ロールプレイを用いるなど、参加型の体験学習を多く取り入れていく。

［授業終了時の到達目標］

わが国の家族問題について、広い視野から検討し考察する方法を見つけること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション（家族心理学で学ぶこと）
2．家族とは？（「家族」とは誰か、家族の定義、家族の機能）
3．歴史と異文化・社会にみる家族
4．人間家族の進化（社会変動と家族、社会変化と個人の発達）
5．結婚の態度と行動（結婚についての意見、結婚の実態、晩婚化の要因）
6．恋愛と配偶者選択（結婚の形態、配偶者選択のプロセス）
7．結婚生活と夫婦関係（夫婦関係のコミュニケーション、「非法律関係」、離婚）
8．親子の関係⑴（1．ヒトの発達の特殊性―親子関係や子育ての文化）
9．親子の関係⑵（親の発達―育児・こどもをめぐる葛藤）
10．親子の関係⑶（父親と母親―心理学における父親不在と父親発見）
11．親子の関係⑷（親にとってのこども、こどもの価値）
12．家族関係と闘病⑴（HIV 感染患者と家族、そしてその背景システム）
13．家族関係と闘病⑵（ガンの末期患者に対する心理的サポートやホスピス）
14．家族とは？　家族に対する価値観や幸福感の再考
15．まとめ（授業の振り返り）
試験

［準備学習］

次の講義内容にそってテキストを事前に読んでくる。キーワードを調べるなど課題を出す。また、授業の後にその回のふり返りシートを提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「よくわかる家族心理学」
柏木惠子著　ミネルバ書房
参考文献：「家族の心理」
平木典子・中釜洋子共著　サイエンス社
適宜、資料を配布
その他、映像（DVD）、マンガ、新聞記事など

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、提出物：30％
試験：70％
①授業のふり返りシートを提出させ、コメントをつけて返却します。
②小テストを行い、返却します。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育カウンセリング	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	皆川　　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 1 単位	3, 4年次・前期, 後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの理解とその対応について、事例を通して、基礎的な知識を理解する。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子どもとそのリスクのある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮を要する子どもに対する保育者の関わりと保護者への対応について、臨床心理学的な視点から学習する。特別な配慮を必要とする子どもの事例を通して、保育者としての基本的な心構えや保育者間のチームワーク、保護者対応で求められるカウンセリングマインド、外部の関連機関との連携の仕方などについても学習する。

［授業終了時の到達目標］

幼稚園や保育所において、障害のある子ども、気になる子ども、かかわりの難しい子どもなど特別な配慮や支援を必要とする子どもの理解と対応に関して基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育カウンセリングの背景
2．保育カウンセリングの定義・方向性・特徴
3．保育カウンセリングにおける基本的な心構え
4．カウンセリングの基本理論と保育カウンセリング
5．カウンセリングの基礎的な訓練
6．軽度発達障害児に対する対応、発達援助、他児との関係づくり
7．集団生活への適応が難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
8．他児との関係作りが難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
9．自傷行為をする子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
10．他児に手を出すなど困る行動をする子どもの心理について理解し、その対応を学習する。
11．特別な支援が必要な子どもの保護者の気持を理解し、その対応について学習する。
12．被虐待の疑われる子どもを発見する手掛かり、心理特性、対応の際の配慮事項を理解する。
13．子どもへの虐待が疑われる保護者を発見する手掛かり、対応の際の配慮事項を理解する。
14．虐待が疑われる事例に対応する際の園でのチームワークと関連機関との連携を理解する。
15．担当者があげる特別な配慮や支援を必要とする子どもの事例について、履修者がその対応等をまとめる。

試験

［準備学習］

授業時に次回の学習内容とテキストの箇所を示したり、関連する資料を配布するため、前もってテキストの該当部分や資料を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）藤後悦子他著
「保育カウンセリング」ナカニシヤ出版2010

（参考文献）佐川寛子・成瀬美恵子著
「保育者のためのカウンセリングマインド入門」
チャイルド本社2007

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　70%
課題への取り組み　15%
授業態度　15%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
子育てと父親	（講義・演習・実習）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・後期	選択

［授業の目的］

子育てにおける父親の役割は時代背景とともに大きく変化してきている。現代の子育ては圧倒的に女性によるものであるが、少子高齢化や地域コミュニティー・ネットワークの減少によって、父親の子育てに対する社会的な期待と要請はますます増加している。子育ての現状について、心理社会的状況を深く理解し、家族の子育てについて熟考し、よき保育者として、よき親として、自ら実践する姿勢や態度を学習することを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

子育てと時代背景の実態の理解、子どものいる家族の理解をとおして、親の立場や子どもを育てる視点をもって考えていく。乳幼児とのふれあいの機会をとおして、生命、親子や家族、育てるということ、そして育てられた自分自身についても深く考える機会を持って学習する。母親・父親になるとはどういうことか、母親について、父親についてその現代的役割を考え、実際の子育て家族から具体的な事例を検討して学ぶ。妊娠の疑似体験、育児書の検討、父親の育児、母親と父親の就労など、子育てに関する課題を検討し、そのあり方を考えていく。

［授業終了時の到達目標］

父親の役割とあり方について洞察することを通して、保護者のこどもへの思いに対して深く理解し、支援に役立てる。将来自らが親となる心理社会的な準備を行い、子育てに臨む心構えを育む。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．現代の子育てと父親の位置
2．父親の役割と時代背景：現在の父親　自分たちの周辺から考える
3．父親の子育ての現状：聞き取りや観察を持ちよって考える
4．赤ちゃんから学ぶ　1妊娠の疑似体験　父親になることとは
5．赤ちゃんから学ぶ　2父親から学ぶ
6．赤ちゃんから学ぶ　3育児と父親の役割について考える
7．父親の存在・父親の意義・父性と母性
8．海外の父親のための育児支援策
9．父親の子どもとのかかわり
10．両親のチームワーク・離婚
11．父親・母親の働き方　企業における育児支援
12．子育て支援における父親　1父親参加の現状
13．子育て支援における父親　2子どもとの遊び
14．子育て支援における父親　3父親支援のためのプログラム
15．父親支援プログラムを作成する
レポート提出

［準備学習］

埼玉県がWEB上で配布する「イクメンの素（もと）」を熟読し、父親が子育てで直面する事象について理解する。ニュースや新聞等のメディアを活用し、子育てする父親の心理社会的な現状を学び、講義に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要により随時、資料を配布
参考文献：子ども家庭リソースセンター編・発行
『育児するお父さん』
さいたま市父子健康手帳

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度及びグループ参加態度（10%）
ワークシート（10%）
中間レポート（30%）
期末レポート（50%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもと性格	（講義・演習・実習）	柴田崇浩(2017年度不開講)

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・前期	選択

［授業の目的］

こどもは日々の社会的かかわりの中で成長し、パーソナリティを形成していく。この授業では、生まれ持った気質と幼少期の人間関係がパーソナリティ形成にどのように影響するかを中心に、乳幼児から成人期までの発達について、社会学的諸理論と人格理論、発達臨床心理学を中心として学び、こどもたち及び成人などの自他のパーソナリティ理解を深め、保育者としての人間理解力の向上を目指す。

［授業全体の内容の概要］

こども及び成人の生まれもった性格と環境によって影響される性格を理論的に理解し、自らの発達過程と照らし合わせながら自他の理解を促進し、包括的にパーソナリティを理解する。具体的な性格理解をこどもたちの事例や映像の行動観察・考察をとおして、日常の社会生活に応用可能な知識とスキルを獲得する体験的な学習を行う。

［授業終了時の到達目標］

こども及び成人の人格の包括的な理解をとおして、豊かな人間観を養い、自信をもって意欲的に社会に参加するための基礎力を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．こどもの性格①　性格とは
2．こどもの性格②　環境と気質
3．こどもの性格③　親の養育やしつけ
4．愛着の発達と性格
5．社会性の発達と性格
6．ライフサイクルと自我発達
7．こどもの性格を理解するてがかり①　類型論・特性論
8．生まれもった性格
9．環境に影響される性格
10．こどもの性格を理解するてがかり②　性格検査
11．こどもの性格の問題①　パーソナリティの障害
12．こどもの性格の問題②　発達の障害
13．こどもの性格の問題③　支援
14．性格の変容
15．性格と自己理解
期末試験

［準備学習］

日々の生活において自らの言動を強く意識し、講義内容をふまえて、自己の性格について継続的に理解することを試みる。自他の理解を促進するため、日常でこどもたちや仲間、家族を観察し、自己の行動の影響について考察する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要により随時、資料を配布

参考文献：
詫摩　武俊他「性格心理学への招待―自分を知り他者を理解するために」サイエンス社　2003

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度及びグループ参加態度（10%）
ワークシート（10%）
期末試験（50%）
自己分析レポート（30%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニティの心理学	（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

コミュニティを心理学的見地から理解するには、心理学の分野でも新しいコミュニティ心理学から学ぶことが適している。新しい時代の様々な問題を考えることは、地域に深く根ざすことを可能にする。今日の学生にとってコミュニティは地域コミュニティはもちろんであるが、大学や実習先の保育園や幼稚園、アルバイト先であったり、さらにはインターネット上の仮想空間などがあてはまる。人と環境の適合性を求めるコミュニティ心理学をベースに、わが国のコミュニティを考える。

［授業全体の内容の概要］

まずコミュニティ心理学の特徴をコミュニティの概念や定義から紹介し、歴史的に振りかえることから始め、ひとと環境とがどのように心理社会的に適合できるか介入の方法を学ぶ。次にコミュニティ心理学の中心テーマである「予防」について理解をすすめる。また日々の生活に身近でやっかいなストレスと対処（コーピング）に関する知見を紹介する。

さらに社会的心理援助についての実践と研究例をテキストおよび授業担当者の経験談から学習を深めていく。

［授業終了時の到達目標］

コミュニティを単に地域ととらえずに、学生自身のコミュニティについて再考する機会を持ち、学問としても若いコミュニティ心理学のパラダイム（考え方）にふれて、今日の諸問題をひとと環境の適合（fit）という観点で実践的に捉える視野を獲得することを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：15回の授業について概要を説明、履修への動機づけ
2．コミュニティ心理学とは何か：歴史的背景、定義、理念と目標、その研究方法
3．人と環境の適合－生態的アプローチ－：生活者の視点、システム論、心理・社会的適合
4．予防：予防プログラムの例（幼児・児童期～成人・老年期）、予防の倫理問題
5．ストレスとコーピング：ストレス研究の歴史、心理・社会的ストレス・モデル、コーピング
6．危機介入とコンサルテーション：危機理論（危機状態、危機介入法）、コンサルテーション
7．ソーシャルサポートとセルフヘルプ：定義と尺度、その影響、援助への活用、セルフヘルプ
8．エンパワメント：歴史的考察、定義と発想の転換、実践例
（個人・組織・コミュニティ３つの次元）
9．コミュニティ感覚と市民参加：定義、予防介入への示唆、市民参加の定義、実証的研究
10．理論と実践の協働：コミュニティ心理学における研究と実践（アクションリサーチ）
11．研究と実践の協同の実際⑴　中高年および青少年における自殺問題
12．研究と実践の協同の実際⑵　ハラスメント問題
13．研究と実践の協同の実際⑶　ホームレス問題
14．研究と実践の協同の実際⑷　DV 被害者に対する援助についての研究
（危機アセスメントモデル）
15．まとめ：15回の授業全体を通して振り返り
期末試験

［準備学習］

①課題提出シートを教員から提示した場合は、記載して次回持参すること
②次回のテキストで行う範囲の用語について調べておくこと
③前回の範囲について、復習してくること（小テスト実施の場合もある）

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「コミュニティ心理学入門」
上村勝彦【編】ナカニシヤ出版
参考文献：「コミュニティ心理学」
山本和朗【著】東大出版会
その他　参考 DVD 鑑賞、新聞記事のコピーなど適宜配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

成績評価の方法・基準
・授業態度・課題提出　30％
・期末試験　70％
課題・成績評価のフィードバック
・提出シートはコメントを付けて個人へ返却
・授業中に全体にもフィードバックする

こども専門科目

（子育てと教育の原理）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育原理	（講義・演習・実習）	五十嵐裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	保育士必修

［授業の目的］

子どもの見方、保育の考え方、保育の思想・歴史など、保育に関する基礎知識を身につけることをめざす。具体的には、保育の専門性、保育観、子ども観、子ども理解、保育における環境の意味、保育内容・方法の原理や保育計画のあり方、保育の歴史と思想、保育の制度等を学習し、子どもと保育についての理解を深め、『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で基本とされている、乳幼児の特性に即した「子どもから出発する保育」を、自ら創造するための手だてを考える糸口をつかむことを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

保育の基礎的な理論について学習する。保育の定義、保育の歴史や思想、保育の制度について学習する。さらに、幼稚園と保育所における養護と教育を一体化した保育のあり方、幼稚園と保育所の共通点と相違点など、保育に関する基本的な原理について学習する。さらに、乳児・幼児に対する保育の意義、子どもの発達を支える保育のあり方、保育内容と保育方法、保育形態、子ども観・保育観と保育計画に基づいた具体的な指導計画について、基礎的な事項を学習する。

［授業終了時の到達目標］

子どもの見方、保育の考え方、保育制度など保育に関する基礎的な理論について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育とは何か
2．こども観と保育　―こどもをどうとらえるか―
3．保育とこども理解　―こどもをどう理解し、どのようにかかわるか―
4．保育の中のこども理解　―発達をどうとらえるか―
5．実践記録から学ぶ(1)
6．こどもが育つ環境の理解　―保育は「環境を通して」行われる―
7．保育内容・保育方法の原理
8．保育計画と実践の原理
9．保育計画の歴史とさまざまな保育計画
10．実践記録から学ぶ(2)
11．健康・安全と障害のある子どもへの対応
12．保育の歴史と思想(1)　―西欧における保育の歴史と思想―
13．保育の歴史と思想(2)　―日本における保育の歴史と思想―
14．保育者に求められるもの
15．保育の現状と課題
試験・レポート等

［準備学習］

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：森上史朗他編『保育原理』　ミネルヴァ書房2015
厚生労働省編『保育所保育指針解説書』　フレーベル館
文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成20年10月』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成27年２月』　フレーベル館
参考文献：全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2015』ひとなる書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育原理	（講義・演習・実習）	内田　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

1．幼稚園教育と小学校教育の違いを理解し、両者をめぐって展開している教育改革の現状をおさえる。
2．幼年教育にかかわる現代的諸問題を理解できるようにする。
3．幼稚園・小学校教育において最低限必要となる教職教養について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

1．幼稚園・小学校に関わる現代的な教育課題について具体的な事例をもとに学習する。
2．教育とは何かという難しい課題を、具体的な教育問題を通して紹介し、議論する。
3．教育の目的、方法、制度について、具体的な事例を通じて理解する。

［授業終了時の到達目標］

1．現代の教育が抱える諸問題について、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようにする。
2．幼稚園教育と小学校教育に共通する教職教養の基本を理解できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．学校暦と子どもの成長
2．子どもたちの不安状況と「居場所論」
3．日本の子ども達がおかれた現状
4．「学び観」の転換…覚える勉強から問題解決への主体的な学びへ
5．「生きる力」とは何を育てることなのか
6．学習権をめぐるトリレンマ
7．早期教育と子どもの発達可能性
8．特別支援教育の体制と課題
9．教育の市場化と幼稚園・保育園教育
10．学校の安全と危機管理
11．ジェンダーとセクシャリティ
12．多文化社会の教育
13．児童虐待とその対応
14．いじめの構造とその対応
15．教育改革の現状と課題
定期試験

［準備学習］

事前の準備は必要ありませんが、授業中に提示される課題について事後にノートづくりをすることが必要です。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の展開に応じて授業中に配布します。
参考文献：池上彰『日本の大課題　子どもの貧困』（ちくま新書）、川崎二三彦『児童虐待』（岩波新書）他、池谷孝司『スクールセクハラ』幻冬舎、佐伯胖『学びを問い続けて』（小学館）、『〈いじめ〉〈迫害〉』（全国生活指導研究協議会編、クリエイツかもがわ）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート：30%
定期試験：70%
総合して60%以上合格

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの保健Ⅰ	（講義・演習・実習）	江藤　千里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの心身の健康維持・増進に取り組むため、こどもの成長・発達への理解を深めながら、疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。こども自身が持っている発育発達する能力を保育士として援助できるようにする。保育者自身の健康管理についても理解する。

［授業全体の内容の概要］

こどもの心身の健全な育成、また、起こりやすい疾病、異常、傷害などについて理解を深め、保育を担当する者として、その予防方法を習得する。乳幼児の発育・発達を理解し、現代の乳幼児の生活状況やその環境を知る。乳幼児健康診査や保健指導、予防接種などの母子保健システムを理解する。こどもが罹患するさまざまな病気の種類、その治療法や予防法を学ぶ。また、主な小児保健統計を理解する。

［授業終了時の到達目標］

こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。こどもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．こどもの健康と保健の意義
2．こどもの発育・発達と保健―身体発育―
3．こどもの発育・発達と保健―生理機能の発達―
4．こどもの発育・発達と保健―運動機能の発達―
5．こどもの発育・発達と保健―精神機能の発達―
6．こどもの健康状態の把握と保育
7．こどもの病気―先天異常―
8．こどもの病気―感染症―
9．こどもの病気―アレルギー疾患―
10．こどもの病気―慢性疾患―
11．こどもの疾病の予防と適切な対応
12．精神保健・発達障害
13．衛生安全管理
14．健康および安全の実施体制
15．まとめ
試験・レポート

［準備学習］

次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでくること。配布資料はファイルに整理して、授業に持参すること。テキストは、毎回授業に持参すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：佐藤益子・中根淳子 編著
「子どもの保健Ⅰ」ななみ書房
参考文献：竹内義博・大矢紀昭 編
「よくわかる子どもの保健」ミネルヴァ書房
その他に、授業で提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：10％
期末試験：60％
課題提出：30％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの保健Ⅱ	（講義・演習・実習）	野中　和代

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

小児がこどもらしく、心身ともに健やかな生活ができるために、こどもたちの健康を守り、増進を図る保健活動の意義を学び、また、こどもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。こどもの成長発達、事故防止、母子保健対策について学習する。こどもの特徴を把握する為に、こどもの健康上のニーズや課題を知り、保育に必要な、保健指導、安全管理について理解する。保育者自身の健康管理について理解する。

［授業全体の内容の概要］

前期「こどもの保健Ⅰ」で習得した知識を基に、こどもの心身の発達を促すために必要な保健活動や環境について学び、さらに、疾病や事故とその予防に対する適切な対応や、家庭・地域・他職種との連携の必要性も含め学習する。

［授業終了時の到達目標］

・こどもが健やかに成長することと、こころが健康であることがどのように関連しているかについて理解する。
・保育における環境及び衛生管理並び安全管理について理解する。
・障がい児へのより良い対処方法を育児の観点から、具体的に考えることができる。
・こどもをけがや病気から守る為に健康及び安全の実施体制について理解する。
・社会全体で子育て家庭を支援していくことが、重要であることについて理解し「『子育て支援』とは」について考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス　「こどもの保健Ⅰ」で学んだことの振り返り
2．こどものこころと健康
3．社会性とこころ
4．健康と安全　1）病気と異常の考え方
5．健康と安全　2）こどもの時期の病気の特徴　3）健康な体つくり
6．健康と安全　4）主なこどもの症状と対応法　5）こどものアレルギー　6）エピペンへの対処
7．健康と安全　7）感染症と予防接種
8．健康と安全　8）こどもと事故　9）事故予防　10）ケアと応急処置
9．こどもの健康を支える施策（教育・福祉・保健）の基本理念・現行制度
10．子育て支援　1）子育てをとりまく環境　2）こどもの生活の現状　3）子育てと情報
11．子育て支援　4）家庭での子育て　5）就労と子育て　6）災害と子育て　7）子育て支援策
12．障がいをもつこども
　　1）障がいの原因―発生時期から分類　2）障がいの種類　3）障がい診断・予防
13．障がいをもつこども　4）障がいや慢性疾患をもったこどもを育てる　5）障がいや慢性疾患制度
14．保育保健を支える家族・地域
15．こどもの保健Ⅱの振り返り、まとめ、期末試験について
期末試験・レポート

［準備学習］

次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を予習してくる。配布資料はファイルに整理しておき、必ず授業時には持参する。テキストは、毎回持参する。コメントカードは必ず書き提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：江藤　隆編著「新しい時代の子どもの保健」日本小児医事出版
参考文献：遠藤郁夫編著「保育保健2016」日本小児医事出版社
その他、授業時に提示配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：10%
コメントカード：10%
レポート：20%
期末試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの保健演習	（ 講義・演習・実習 ）	野中　和代

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの健康及び安全に係る保健活動の計画評価、こどもの健康増進及び適切な対応について、養護の知識・技術・救急時の対応や事故防止、安全管理について学び、保育現場において保健衛生・安全教育について実践ができるように具体的な方法を学び理解する。

［授業全体の内容の概要］

「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」で習得した知識を基礎として踏まえ、養護の知識・技術・救急時の対応について具体的な方法を学ぶ。さらに、現代社会における心の問題や地域保健活動について学習を深める。

［授業終了時の到達目標］

・こどもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解を深めることができる。
・養護の知識・技術・救急時の対応、事故防止、安全管理について理解をし、実践的な場面に応じて行動ができる。
・現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について、関心を持つ姿勢が身につく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス　「こどもの保健Ⅰ・Ⅱ」で学んだことの振り返り
2．保健活動の計画及び評価　1）保健活動計画の作成と活用
3．保健活動の計画及び評価　2）集団の健康と安全・衛生管理
4．こどもの保健と環境　1）健康状態、発育・発達状態の把握
5．こどもの健康状態の観察と把握･身体状態の観察･健康調査、バイタルサイン測定
6．身体測定演習・育児マニュアル（DVD）鑑賞
7．養護技術：衣類の着脱、清潔、沐浴、抱き方、寝かせ方、オムツ交換演習第1回
8．養護技術：衣類の着脱、清潔、沐浴、抱き方、寝かせ方、オムツ交換演習第2回
9．事故防止と安全教育の実際・事故の応急処置演習
10．事故防止と安全教育の実際・救急蘇生法演習第1回
11．事故防止と安全教育の実際・救急蘇生法演習第2回
12．病児保育・病院保育士の役割
13．病児保育・プレパレーション DVD 鑑賞
14．障がい児の理解　自閉症
15．こども保健演習の振り返り　まとめ
レポート

［準備学習］

・養護演習では動きやすい服装で出席する。・教科書の該当する部分は予習してくる。
・配布資料はファイルに整理しておき、必ず授業時には持参する。
・養護技術、救急演習時で学んだこと感じたことの感想を提出する。・コメントカードは必ず提出する。
・DVD 鑑賞時は学んだこと感じたことを提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大澤　真木子編著「子どもの保健Ⅰ・Ⅱ」
参考文献：江藤　隆「新しい時代の子どもの保健」
その他、授業時に提示配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：10%
コメントカード：10%
DVD・演習の感想文：50%
レポート（保健演習の振り返り）：30%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの食と栄養	（ 講義・演習・実習 ）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育の現場では、子ども一人一人の心身の状態や発達過程を踏まえ、食に関わる保育実践を行なうことや食を通した保護者への支援や地域との連携が期待されています。子どもが楽しく安心して食事ができ、心身ともに健やかに成長できるよう、食生活の側面から子どもの育ちを支え、子育て家庭を支えるための専門性を養うことを目的とします。

［授業全体の内容の概要］

小児期の栄養・食生活の基礎的知識および生涯発達と食生活の課題を学修します。食育の必要性と関連させて、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学びます。また、特別な配慮を必要とする子どもへの理解と対応を学修します。

［授業終了時の到達目標］

・栄養と食品に関する基本的知識や小児期および生涯発達における食生活の留意点を説明できるようになります。
・食育に関わる保育内容を説明できるようになります。
・家庭の食生活を支援する方法や児童福祉施設での食事の提供および栄養管理の留意点を説明できるようになります。
・特別な配慮を要する子どもへの食事の提供の留意点を説明できるようになります。
・自らが「食」への興味、関心をもつようになります。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1．子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活／食生活の現状と課題
2．栄養に関する基礎的知識①	栄養素の種類と機能（炭水化物、脂質、たんぱく質）
3．栄養に関する基礎的知識②	栄養素の種類と機能（無機質、ビタミン）／水分の機能
4．栄養に関する基礎的知識③	食事摂取基準と献立作成
5．栄養に関する基礎的知識④	調理の基本／食の安全
6．子どもの発育・発達と食生活①	乳児期の栄養・食生活（乳汁栄養）
7．子どもの発育・発達と食生活②	乳児期の栄養・食生活（離乳）
8．子どもの発育・発達と食生活②の実習	調乳／ベビーフード体験
9．子どもの発育・発達と食生活③	幼児期の栄養・食生活
10．子どもの発育・発達と食生活③の実習	幼児期の間食
11．子どもの発育・発達と食生活④	学童期の栄養・食生活／生涯発達の食生活
12．食育の基本と内容①	養護と教育の一体性／食育の内容と計画および評価
13．食育の基本と内容②	食育のための環境／連携／保護者への支援
14．家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭の食育／児童福祉施設給食の基本
15．特別な配慮を要する子どもへの対応	体調不良・食物アレルギーへの対応／摂食・嚥下障害への対応
定期試験	

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
授業の前に前回の学修内容に関する確認問題に取り組む。
授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「新版　子どもの食生活」ななみ書房
「食べるって何だろう」合同出版
参考文献：「食育の力」創成社
「栄養の基本がわかる図解辞典」成美堂出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験：60%
課題提出：20%
確認問題：10%
受講態度：10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもの食と調理	（ 講義・演習・実習 ）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3，4年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

食育の実践力を養うために、「こどもの食と栄養」で習得した体系的な知識を基にして、各発達・発育段階に応じた食材や食べる量、大きさ、調理形態、食事バランスを意識した食事を実習します。また、日々の食育活動を考えられるようになることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

子どもの発育・発達段階を再確認しながら食育の意義を明確にし、食育の５項目に関する具体的な内容を考えていきます。また、離乳食、幼児食、特別な配慮を要する食事および子どもと一緒に調理できる内容に取り組みます。最後に、保育所の食育活動内容について考えます。

［授業終了時の到達目標］

・子どもの発育・発達段階に応じた食育の意義について説明できるようになります。
・各発達・発育段階に応じた食事の特徴を把握できるようになります。
・保育所の食育活動を具体的に示すことができるようになります。
・自らが調理活動に対して興味・関心を高め、子どもにも調理の楽しさを伝えられるようになります。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．食育の意義	保育所の食育
2．食育の実践①	食と健康／いのちの育ちと食
3．食育の実践②	食と文化／食と人間関係
4．食育の実践③	料理と食
5．食育の実践④	調理の基本／衛生管理
6．離乳期の食事	離乳食に関する調理実習
7．幼児期の食事	幼児食に関する調理実習
8．調理保育①	子どもと一緒にできる調理実習①
9．調理保育②	子どもと一緒にできる調理実習②
10．調理保育③	子どもと一緒にできる調理実習③
11．調理保育④	子どもと一緒にできる調理実習④
12．特別な配慮を要する食事	アレルギー対応（摂食・嚥下機能障害対応を含む）の調理実習
13．特別な日の食事	行事に関する調理実習
14．食育の内容①	保育所の食育活動
15．食育の内容②	「自分が考える保育所の食育活動」の記述・提出
定期試験	

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
授業の前に前回の学修内容に関する確認問題に取り組む。
授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「食育のアイディア」メイト
参考文献：「食育の力」創成社
「保育における食育活動の道しるべ」
トロル出版部

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験：60％
課題提出：20％
確認問題：10％
受講態度：10％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容総論	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五味美奈子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 2 単位	1 年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育要領や保育所保育指針が示している保育の考え方や全体構造を理解し、保育の目標を達成するために必要な保育内容・保育者の指導・援助を理解する。また、保育内容の歴史的な変遷を踏まえ、現代の保育の課題を理解する。さらに子ども理解を深め、特別な支援を必要とする子どもへの保育や、連携、協働についても学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている、保育の目的、目標、ねらい、内容や領域の考え方について学び、子ども主体に根ざした保育の指導や援助を学ぶ。保育内容の歴史的変遷を理解することで保育内容と社会や時代との関係を知り、現代の保育課題についても学ぶ。さらに、保育の質や内容を高めていくために不可欠である子ども理解の大切さを理解し、さらに保護者や保育者同士の連携や協働、小学校との連携についても学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

保育内容の基本的構造を理解し、幼稚園・保育所における保育内容について総合的に捉えられるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．本授業についてのガイダンス　保育内容とは何か
2．保育内容の基本構造
3．保育の特質
4．保育内容の変遷
5．子どもの発達と生活
6．子ども理解と保育内容
7．「環境」と保育内容
8．子どもにとっての遊び
9．保育内容と保育の計画
10．保育内容と保育の展開
11．さまざまな主義の保育と保育内容
12．保育の評価と記録
13．保育者の役割
14．保育内容における現状と課題（小学校・地域・家庭との連携）
15．今日の保育の課題と保育内容（生活環境、幼稚園・保育所をめぐる状況の変化と保育内容）

定期試験・レポート

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノートを一読しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：文部科学省「幼稚園教育要領」
厚生労働省「保育所保育指針」
「子どもの育ちを支える保育内容総論」大学図書出版

参考文献：「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：20%
レポート：20%
試験：60%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容（人間関係）	（ 講義・演習・実習 ）	五十嵐淳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とのかかわりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特性を踏まえた、人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助について習得する。

［授業全体の内容の概要］

子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、乳幼児期の人間関係の発達特性を踏まえた保育実践のあり方を指導する。幼児の「人とかかわる力」がどのように育まれていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。

［授業終了時の到達目標］

①一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういうことかを捉え、人とかかわる力を養う。
②「人間関係」の領域を理解する。
③保育内容領域「人間関係」について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解を深める保育実践力を養うことを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、領域「人間関係」とは
2．子どもの遊びと人間関係
3．領域「人間関係」のねらいと内容
4．人とのかかわりを育てる保育教材①
5．人とのかかわりを育てる保育教材②
6．子どもの人間関係を育む保育者の役割
7．子どもの言葉と人間関係
8．子どもの人間関係を育む保育実践①
9．子どもの人間関係を育む保育実践②
10．子どもの人間関係を育む保育実践③
11．子どもを取り巻く地域や高齢者との交流
12．保育者同士の人間関係
13．保育者と保護者の人間関係
14．保護者へのかかわり（学級便りの作成）
15．子どもの人間関係をめぐる現代的課題
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

予習として次回の授業を行う箇所の教科書を読むこと。授業で学んだことを踏まえ、保育実践発表ができるように準備しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
浅見均『実践から学ぶ　人間関係』
大学図書出版　2013年
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：10%
提出課題：10%
保育実践の発表：30%
期末試験：50%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容（環境）	（ 講義・演習・実習 ）	下田　敏江

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育要領または保育指針における領域「環境」のねらいと内容を理解し保育における環境の意味や重要性について考えるとともに、「保育環境のデザイン」をテ―マに子どもの豊かな生活を育む視点を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

子どもの体験や活動内容を充実させていくための「保育環境」とは何か、実践例を通し具体的に描き出すと共に、子どもの年齢に応じた「保育環境」の構成について理解を深める。さらに、保育者に求められる専門性を考え、環境に関わる力を育てる保育実践力を高める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

「保育環境」を理解すると共に自然と関わりながら、子どもの心情を理解し、子どもに対してどのように関わるのか、子どもの生活・活動を支える「保育環境」を捉える力

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育内容の「環境」とは
2．領域「環境」の捉え方
3．保育環境の構成
4．自然を生かした環境①：自然を取り入れた遊び
5．自然を生かした環境②：活動の場の安全と確保
6．友だちや保育者と共に育つ
7．保育園や幼稚園の環境について①：保育環境と私の育ち
8．保育園や幼稚園の環境について②：豊かな生活を楽しむ環境デザイン
9．保育園や幼稚園の環境について③：子どもの育ちを考えた空間
10．遊びや生活の情報に興味をもつ
11．子どもの遊びと伝統遊び
12．子どもを守るための安全な環境
13．保育環境に求めるもの
14．現代社会における子どもの環境の課題
15．「環境を通して」の保育とは
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んで予習してくること。
②授業の前に今までの内容を読み返し復習してくること。
③授業内容での資料や参考図書を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：演習　保育内容　環境　建帛社
新時代の保育双書　保育内容「環境」
第２版　㈱みらい
参考文献：厚生労働省編　保育所保育指針解説書
フレーベル館
幼稚園教育要領

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験やレポートの評価基準
試験…60％
授業態度…40％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容（健康）	（ 講義・演習・実習 ）	宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

保育者として皆さんが関わる子どもたちが、人間の生涯において成長の一時期であることを理解し、乳幼児期における「健康」についての意味を考えていきます。

［授業全体の内容の概要］

子どもたちの心と身体の健やかな発達を可能にするために、日々の保育の中で必要な保育者の立場から必要な知識、役割、行動について、VTR や実際の事例等を交えて学習していきます。また、子どもだけではなく、保育者自身や保護者の健康の大切さについても理解を深めていきましょう。

［授業終了時の到達目標］

健康とは何か、また子どもの成長発達について理解し、子どもたちが健康を保つために必要な環境づくりについて考えるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．オリエンテーション：人間の健康とは何か
2．私自身の健康について考える
3．子どもの健康と成長発達
4．子どもの心身の発達①（0・1歳児）
5．子どもの心身の発達②（2歳児）
6．子どもの心身の発達③（3歳児）
7．子どもの心身の発達④（4歳児）
8．子どもの心身の発達⑤（5・6歳児）
9．「健康」の歴史の変遷
10．子どものケガとその対応
11．子どもの病気とその対応
12．自然の中で遊び育つ子どもたち（保育の取り組み事例から）
13．保護者の心の健康に配慮した支援
14．食育を通して健康を考える
15．まとめ
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

自分自身の心と身体の健康管理を大切にしてください。
TV・新聞・インターネットなどで「健康」に関するニュースの情報に関心を持ってください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：事例で学ぶ保育内容　領域「健康」
萌文書林

参考文献：文部科学省編『幼稚園教育要領解説書』
厚生労働省編『保育所保育指針解説』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験：60%
レポート：20%
授業への参加と態度：20%
感想文を返却します。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容（ことば）	（ 講義・演習・実習 ）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

子どもがどのように言葉を獲得していくのか、その発達の道筋について知る。
子どもたちの言葉を育むために、保育者がなすべき指導や援助の方法を学ぶ。
言葉への関心を高め、言葉についての知識を修得する。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領が示す領域の考え方を知り、領域「言葉」のねらいと内容について理解する。乳幼児期の言語的発達をふまえ、言葉を育てるための環境づくり、保育者の言葉がけや指導・援助の方法、絵本などの文化財の活用方法について、実践的に学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①幼稚園教育要領が示す領域「言葉」のねらいと内容を理解する。
②子どもの言葉を用いて表現する力、思考する力、他者と関わる力を育むために、適切な機会と環境を整え、支援できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション「言葉とはなにか」
2．領域「言葉」がめざすもの「言葉の意義」
3．子どもの育ちと言葉について
4．子どもの言葉の獲得と発達「言葉の前の言葉」
5．子どもの言葉の獲得と発達「言葉の使用」
6．子どもの言葉の獲得と発達「気持ちや考えを言葉で伝え合うこと」
7．子どもの言葉の獲得と発達「文字への関心を育てる」
8．言葉を育てる環境「保育者の役割と援助」
9．言葉を育てる環境「共に育つ」
10．言葉の響き・リズム・ルール「詩」
11．言葉遊び
12．言葉と物語
13．言葉と絵
14．言葉の遅れ、地域言葉
15．まとめ
定期試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

日頃から文学や芸術に親しみ、他者の言葉に耳を傾けて、言葉への関心を高めてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：幼稚園教育要領

参考文献：授業で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①授業への取り組み：20%
②授業中に出す課題：20%
③定期試験：60%
単位取得に①②③は不可欠

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育内容（表現）	（ 講義・演習・実習 ）	津山由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

渾然一体となって現われる子どもの表現を総合的にとらえる視点を身につけ、子どもの表現する意欲・感性を育む保育者の関わり方や保育計画について理解する。

［授業全体の内容の概要］

生活や遊びの中で子どもが表現する姿を事例等から検討するとともに、子どもの表現の発達過程や特徴および領域「表現」に関する理論を学ぶ。また、子どもの表現に共感し、意欲や感性を育むための実技や基礎的な援助法、教材研究を取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

さまざまな表現活動の学びから高いコミュニケーション能力を身につけ、子どものあそびを支えるとはどういうことなのか考えられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・あそびと表現
2．乳幼児期の発達と表現（事例映像）
3．ドラマによる表現教育とは（全人格的な人間形成）
4．あそびと表現活動「感覚」
5．あそびと表現活動「集中」
6．あそびと表現活動「想像」
7．あそびと表現活動「解放」
8．あそびと表現活動「スピーチ」
9．あそびと表現活動「模倣」
10．劇あそび（行事）を生活の中でどのように展開していったらよいか（保育計画）
11．即興劇あれこれ
12．表現劇場１（フィンランドメソッド・仮面＆でたらめ劇場）
13．表現劇場２（物語・ムーブメント）
14．表現劇場３（お笑い）
15．まとめ・保育者の心もち（子どもに学ぶ姿勢）
レポート、実技

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

授業の前にテキストや参考書の関連部分を読んでくること。
講義＆実技を毎回行うので動きやすい格好で参加すること。
授業の後に簡単な振り返りレポートを提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

①保育・幼児教育シリーズ『表現の指導法』
田澤里喜編：玉川大学出版部
②『幼稚園教育要領』
③『保育所保育指針』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・課題提出：40％
実技：60％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
乳児保育	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	下田　敏江

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

主に保育所における３歳未満児の保育、加えて乳児院等における３歳未満児の保育について、その意義と役割、制度と現状を理解する。さらに､乳児保育の基本的知識を理解し､実践的な技能の基礎を学習する。

［授業全体の内容の概要］

主に保育所における３歳未満児の保育、加えて乳児院等における３歳未満児の保育について、その意義、制度と現状を理解する。さらに、乳児保育の基本的知識を理解し、実践的な技能の基礎を演習を通して学習する。保育所保育指針に沿って、６ヶ月未満児、６ヶ月から１歳３ヶ月未満児、１歳３ヶ月から２歳未満児、２歳児と発達段階ごとに子どもの発達と保育内容、保育計画と指導計画、環境構成、職員のチームワーク、保護者との連携と子育て支援等について基礎的理解を促す。さらに、産休明け保育について、子どもの発達の様子と保育の実際や配慮事項について基礎的理解を促す。

［授業終了時の到達目標］

乳児保育の必要性を理解する。保育者として必要な理論、知識、技術の基本を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．保育所、乳児院、家庭的保育における３歳未満児に対する保育の概要を理解する。
２．乳児保育の制度的変遷と共働き家庭や一人親家庭における意義と役割について理解する。
３．産前産後の休業、育児休業等の法律、母親・父親の育休取得の現状について理解する。
４．産休明け、３カ月～９カ月児の発達と保育のポイントについて理解する。
５．10カ月～１歳３カ月、１歳３カ月～２歳未満、２歳児の発達と保育のポイントを理解する。
６．３歳未満児保育における課題と配慮事項について理解する。
７．新入園児の受け入れとその際の配慮事項について理解する。
８．乳児の人形を使って、おしめ交換の手順と乳児の抱き方等について演習する。
９．乳児における遊びの意義、遊びを充実・発展させる人的・物的環境について理解する。
10．乳児の発達段階に適した絵本・紙芝居について理解し、選定や読み聞かせを演習する。
11．３歳未満児の保育計画と指導計画について理解する。
12．３歳未満児保育の特性をふまえ、各自で指導計画を作成する。
13．乳児保育における保育記録の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。
14．乳児保育における保育所と保護者との連携の重要性と連携のあり方について理解する。
15．乳児保育における連絡帳の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。
試験

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
②授業の前にこれまでの配布資料を読み返してくること。
③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
『乳児保育　一人一人を大切に』 萌文書林、2015
参考図書：
厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 フレーベル館、2008
CHS 子育て文化研究所編
『見る･考える･創りだす乳児保育』 萌文書林、2012

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

試験	60%
授業態度	20%
課題への取り組み	20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
障害児保育	（ 講義・演習・実習 ）	皆川　　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を得る。各障害について、その障害の定義、診断基準、原因、発達特性と発達援助、早期発見と早期対応等について基礎的な知識を得る。さらに、幼稚園や保育所で健常児とともに育つ障害乳幼児に対する発達支援について、その考え方、支援の内容と方法などを理解する。

［授業全体の内容の概要］

障害をどう捉えるかという障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を促す。各障害について、その障害の定義や診断基準、原因、発達特性、早期発見と早期対応などについて基礎知識を学習する。就学前の障害乳幼児を取りまく状況について、各種通園施設や療育・発達支援センター、特殊教育諸学校の幼稚部など、障害児専門機関での受け入れとその対応、幼稚園や保育所での統合保育の状況について理解する。統合保育については、その意義と受け入れ態勢、発達支援の方法と保育における配慮事項などについて基礎的理解を促し、事例を通して具体的対応についても理解を促す。

［授業終了時の到達目標］

知的障害、運動障害、視覚障害、聴覚障害、自閉症スペクトラム障害、重症心身障害について基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の概要と進め方について理解する。障害観の歴史的変遷と望ましい障害観を理解する。
2．知的障害について、その用語、定義、分類、原因
3．知的障害をもつ子どもの発達特性と発達支援
4．肢体不自由について、定義、分類、原因
5．脳性麻痺の定義、原因、発達特性、発達支援
6．重度・重複障害児、重症心身障害児の定義、発達特性、発達支援
7．自閉症、軽度発達障害について、原因、診断基準、発達特性
8．自閉症、軽度発達障害の早期発見と早期対応、発達支援
9．視覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援
10．聴覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援
11．視覚障害児・聴覚障害児に対する発達支援
12．言語障害、病弱・身体虚弱について、定義、分類、原因、発達特性と発達支援
13．統合保育の意義、障害乳幼児の受け入れに当たっての条件整備や配慮事項
14．統合保育に関する理解を深める(1)。
15．統合保育に関する理解を深める(2)。
試験　　※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

適宜、授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストの該当部分を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）尾野明美編著「保育者のための障害児保育」萌文書林　　￥2,000＋税
（参考文献）福永博文・藤井和枝編著「障害をもつ子どもの理解と援助」コレール社2009
「幼稚園教育要領」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

テスト　80%
提出物　10%
授業態度　10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
障害児保育演習	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	皆川　　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3，4年次・前期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）の定義、診断基準、発達特性、早期発見と早期対応について基礎的な知識を得る。保育所や幼稚園での保育者による気付きと支援の実際について事例を通して学習する。保護者支援、専門機関や小学校との連携についても理解する。

［授業全体の内容の概要］

発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）の定義、診断基準、発達特性、早期発見と早期対応について理解する。さらに、保育の場での指導の実際について、指導計画の作成、記録及び評価、職員間の協働と保護者支援を理解する。

［授業終了時の到達目標］

発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）のある子どもの特性と保育現場での対応等について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の目的､概要､評価について。発達障害についての考え方と対応の歴史的変遷
2．自閉症スペクトラム障害の定義、診断基準、原因、特性
3．自閉症スペクトラム障害のある子どもの発達特性
4．自閉症スペクトラム障害のある子どもの発達支援と保育の場での対応
5．注意欠陥多動性障害（ADHD）の定義、診断基準、原因、特性
6．ADHD のある子どもの発達特性
7．ADHD のある子どもの発達支援と保育の場での対応
8．LD の定義、診断基準、原因、特性
9．LD のある子どもの発達特性
10．LD のある子どもの発達支援と保育の場での対応
11．発達障害の早期発見と早期対応
12．発達障害児の保護者対応についての理解と保護者支援
13．保育の場での受け入れと支援計画の作成
14．小学校との連携
15．保育所・幼稚園と専門機関との連携
定期試験

［準備学習］

授業で適宜、次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストの該当部分を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）尾崎康子編著「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房　2010
（参考文献）榊原洋一著「図解よくわかる発達障害の子どもたち」ナツメ社　2011
上野一彦他著「ケース別発達障害のある子へのサポート実例集幼稚園・保育園」ナツメ社　2010

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験　80%
提出物　10%
授業態度　10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育方法の研究	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五味美奈子・宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 2 単位	3, 4年次・前期, 後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

教育課程・保育課程について理解を深め、更に指導計画についての理解と実際の活用について学ぶ。また、豊かな保育を展開できるような子ども理解をめざした記録のあり方や保育形態など多様な保育方法についても学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

教育課程や保育課程の意義について学び、その編成の方法について具体的に学ぶ。また、教育課程や保育課程を土台にした指導計画の考え方を学び、実際に指導計画を立案することで、それに基づいた保育の実践、反省・評価についても学ぶ。さらに、子どもへの理解が可能となる保育の記録の方法、保育形態や多様な保育方法についても理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

指導計画（指導案）作成、保育（教育）理念・保育（教育）目標と保育実践の関連付けなどを通して実際的な技能を身につけていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．本授業のねらい／幼児教育・保育の基本と計画
2．保育（教育）理念・保育（教育）目標と保育実践の関連
3．教育課程・保育課程の編成と手順
4．教育課程・保育課程と指導計画の関連
5．幼稚園・保育所における長期指導計画の作成・実施
6．幼稚園・保育所における短期指導計画の作成・実施
7．子ども理解に根ざした保育とその記録
8．保育の記録の活かし方
9．指導計画と立案の方法
10．指導計画の具体的作成（部分）
11．指導計画の具体的作成（全日）
12．指導計画の具体的作成（全日）
13．保育実践の評価・反省および活かし方
14．多様な保育方法への理解
15．まとめ
定期試験・レポートなど

［準備学習］

授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノートを一読しておくこと。指導案作成にあたり指示された準備をして授業に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
文部科学省「幼稚園教育要領」
厚生労働省「保育所保育指針」
「子どもの育ちを支える保育課程論」大学図書出版
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への参加態度：20%
指導計画案提出：20%
試験：60%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育者論	（講義・演習・実習）	宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育者としての専門性、園と地域における役割、職務内容について理解をしていきます。また、子どもたちの心に寄り添い、その成長発達を理解するだけでなく、成長発達に合わせて自立を見守り援助する方法について学んでいきます。自らの保育者としての成長と保育者間の協働について考えながら、自らのキャリアイメージを持てるようにしましょう。

［授業全体の内容の概要］

パワーポイントや映像教材、事例資料などをもちいながら、実際の保育現場での出来事や学生自身が実習体験で得られた経験を参考にして考察をしていくことで、将来保育者となる自分をイメージできるようにしましょう。また、学生のみなさんの実習などでの体験との比較などから考察を深めていきます。

［授業終了時の到達目標］

毎日成長する子ども達と過ごす楽しさをたくさん感じて、保育者という仕事の魅力を感じてください。一方で、専門職としての保育者に求められる多様な役割についても理解や考えを深めていきます。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・保育者とは
2．保育者の役割と仕事
3．子どもの権利の視点から考える
4．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する①
5．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する②
6．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する③
7．保育者の視点から、子どもの気持ちの変化を感じる（映画鑑賞）①
8．保育者の視点から、子どもの気持ちの変化を感じる（映画鑑賞と感想文）②
9．子どもの育ちを支える環境づくり
10．特に配慮が必要な子どもへの支援①
11．特に配慮が必要な子どもへの支援②
12．保育者として育ち合う
13．保護者や家庭と共にある保育
14．多様な支援のあり方を考える
15．まとめ
試験

［準備学習］

保育所や幼稚園、施設実習で体験した出来事の中で、疑問に感じたことや感じたことを振り返り書きとめておいてください。授業の中で皆さんの体験や疑問を一緒に考察しながら、次の実践に役立てるようにしていきましょう。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：最新保育講座2「保育者論」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験：60%
レポート：20%
授業への参加と態度：20%
感想文を返却します。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育の制度と展開	（講義・演習・実習）	五十嵐裕子(2017年度不開講)

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・後期	選択

[授業の目的]

幼稚園や保育園等で日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、保育制度や政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上では欠かせない作業といえる。このような認識の下、戦後日本の保育制度はどのように築かれてきたのか、そして少子化や待機児童問題が深刻化する現在、日本の保育制度・政策はどのように展開されていこうとしているのかについて学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

まず、日本において「保育」がどのような社会的背景の下、政策としてとりあげられ制度化されてきたのか、歴史的変遷について概説する。そしてその中で、親の就労保障としてだけではなく、こどもの発達保障、こどもの権利としての保育制度について考える。次に近年新たに展開されている認定こども園制度、家庭的保育制度等を取り上げ、それぞれの制度創設の背景や実施状況、課題等について概説する。また欧米の保育制度を概観することによって、日本の保育制度の特徴や課題について明らかにする。

[授業終了時の到達目標]

①日本の保育制度がどのような背景の下、成立し変遷してきたかについて理解する。
②現在展開されている幼稚園、保育所、認定こども園、家庭的保育等の制度について基礎的な知識を身につける。
③日本における保育制度・政策の現代的な特徴、課題について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.「制度を学ぶ」ということ
2. 保育制度の変遷(1)　戦前の保育制度
3. 保育制度の変遷(2)　戦後の保育制度
4. 保育制度の変遷(3)　エンゼルプラン以降の保育制度・政策
5.「こどもの最善の利益」と保育制度
6. 施設や設備、保育内容に関する公的基準
7. 新たな保育制度の展開(1)　認定こども園
8. 新たな保育制度の展開(2)　家庭的保育
9. 新たな保育制度の展開(3)　夜間保育、病児保育等
10. 新たな保育制度の展開(4)　子育て支援
11. 新たな保育制度の展開(5)　放課後健全育成事業と学童保育
12. 外国における保育制度(1)　イギリス・フランス
13. 外国における保育制度(2)　スウェーデン・デンマーク
14. 外国における保育制度(3)　カナダ・ニュージーランド
15. 授業のふりかえりとまとめ

試験・レポート等

[準備学習]

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：全国保育団体連絡会・保育研究所編
『保育白書2015』ひとなる書房　2015

参考文献：『最新保育資料集2015』ミネルヴァ書房

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
多文化と保育	（講義・演習・実習）	五十嵐淳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・後期	選択

［授業の目的］

保育の現場における多文化保育について学習し、様々な文化的背景をもつ子どもや保護者とのかかわりにおいて必要事項を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

多様な文化的背景を理解し、子どもや保護者との信頼関係を構築できる保育者としての役割を踏まえ、多文化保育における子ども及び保護者支援ができる保育者の専門性を探る。

［授業の目的］

①多文化共生社会における保育のあり方を理解する。
②多文化保育を踏まえ、子どもの生活の中に、外国の遊びや歌を取り入れ、子どもが異なる文化に親しみを持つことができるような保育の実践ができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、多文化共生保育とは
2．異なる文化を持つ人とのかかわり　―子どもと一緒に楽しむには―
3．季節に合わせた活動①ハロウィーン
4．外国語の紙芝居の作成
5．外国語の紙芝居の実演
6．親子で楽しむ外国語の手遊びや歌
7．保育者に求められる子どもへの支援　―多文化と保育の実際―
8．保育者に求められる保護者への支援　―多文化と子育て支援の実際―
9．多文化共生社会における異文化理解
10．季節に合わせた活動②クリスマス
11．多文化共生を踏まえた保育実践(1)
12．多文化共生を踏まえた保育実践(2)
13．多文化共生を踏まえた保育実践(3)
14．卒園証書・参加証書の作成
15．多文化共生保育における現代の課題

レポート課題

［準備学習］

保育実践発表に向けて、外国の歌や手遊び、紙芝居などを覚える。

［使用テキスト・参考文献］

使用テキスト：
五十嵐淳子「英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語」大学図書出版　2015年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度　10%
保育実践発表　40%
レポート　50%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育社会学	（講義・演習・実習）	山﨑　真之

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

本講義では、現代の子どもや教育にかかわる現象を社会的なものとして捉え、それを分析・解釈するための社会学的な捉え方・考え方を事例を通して学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

本講義では、教育と社会のかかわり、保育所、幼稚園など学校が果たしている機能、子どもの姿、保育者や教師の仕事、教育と職業のつながりなどの事例を通して現代の子どもや教育の現実を知る。そしてそれらを検討することで批判的・分析的視点や実証性の重要さに気付き、受講者それぞれが自らの問題として実践的に捉え・考える。

［授業終了時の到達目標］

①教育と社会との関係性の理解
②保育園、幼稚園など学校、保育者や教師の社会的機能の理解
③特別な支援を必要とする子どもの実態の教育社会学的視点からの理解

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．社会の中の教育
2．子どもの社会学
3．近代社会と学校(1)　戦前の近代学校制度の成立と変容
4．近代社会と学校(2)　戦後の近代学校制度の概要
5．学校の社会的機能(1)　統合機能
6・学校の社会的機能(2)　社会的選別機能
7．少年非行の社会学
8．ニューカマーと教育
9．子どもの貧困と教育
10．ジェンダーと教育
11．いじめ問題
12．社会的排除と教育
13．教育政策と社会階層
14．教師・保育者の社会学
15．教育社会学の社会的使命
試験

［準備学習］

教育や子どもに関する新聞記事やニュースに日々関心を払い、一つのトピックに対し様々な意見や考え方があることに意識を向けてみて下さい。また、次回の授業に向けた準備課題を出し、その課題を用いて授業を行う回もあります。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：遠藤克弥ほか編『教育の原理を学ぶ』

参考文献：広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか：「わかったつもり」からの脱却』日本図書センター

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

講義への参加度：10%
課題・リアクションペーパー：10%
期末試験：80%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育の制度と経営	（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

教育制度を大きく転換させる教育改革のマクロな視点と子ども達に向かいあう教室場面というミクロな状況をリンクさせながら、教育制度と学校経営・教室経営に関わる基本を理解する。

［授業全体の内容の概要］

教育制度と教育法規の知識・理解習得だけでなく、教育制度そのものが目まぐるしく変化している現状の中で、最新の教育制度を紹介する。制度の歴史的変遷、幼保一元化、小中高一貫教育などの持つ意味を理解するだけではなく、現行の教育制度が地域や学校や教室、あるいは幼稚園・小学校教諭に関わるものとしてどのように機能しているかについて具体的事例を挙げながら学習する。また、学級経営の具体的な方法について、実践的に学ぶ機会を提供する。

［授業終了時の到達目標］

1．学級経営の基礎的スキルを身に着ける。
2．教育制度に関わる基本的な理解ができるようにする。
3．教育制度の大きな転換をもたらす教育改革について関心を持てるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．学級づくりの基本的スキル…子どもが明日も学校に来たくなるような学級づくりとは？
2．学校経営上の基本問題…文句を言う保護者が出てきたら、どうしよう？
3．子ども達の命を守るために…いじめや児童虐待を発見したら…どうしよう？
4．学校の設置主体…学校は誰がつくれる？
5．就学年齢、学年、学区制度…入学する小学校はどうやって決まる？
6．「一条校」問題…保育園と幼稚園はどこが違う？外国の大学を卒業しても…。
7．学校安全保健の制度…インフルエンザに罹った子どもが登校してきたら？
8．教育職員免許法制…教員免許状の１種と２種はどう違う？
9．特別支援教育の制度…普通教室に時々しか来ない友達がいたけれど…？
10．教育課程制度…学校の教育課程はどうなっている？
11．学校給食法…学校給食は、日本の世界に誇る制度だ。
12．教育委員会制度…教育委員会ってどこにあって、何やっている？
13．教育公務員特例法…学校の先生にはどんな研修がある？
14．県費負担教職員制度…学校の先生の給料は、どこが払っている？
15．社会教育法制…公民館や児童館って何やってるのだろうか？
定期試験

［準備学習］

・授業テーマに関わる新聞記事やニュースに関心を払い、教育制度に関する授業とリンクできるように。前回の授業ノートや配布資料を読み返しておくこと。
・毎回、資料を授業で配布します。授業終了後、授業内容と資料をノートにまとめること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『教育小六法』学陽書房
（定期試験は、『教育小六法』持ち込み可としますので、必ず購入しておきましょう）
参考文献：土屋基規『現代教育制度論』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．授業への取り組み：10%
2．定期試験：90%
合計して60%以上合格

授業科目名	授業の種類	授業担当者
カリキュラム論	（講義・演習・実習）	杉本　久枝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における教育課程・保育課程の編成原理の理解、及び保育における指導計画の必要性・意義について基礎的事項の習得を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育のねらい及び内容についての理解を深める。幼児の生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育てる教育課程及び保育課程について具体的な例を示しながら講義する。幼児の自発的な活動としてのあそびは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮し、遊びを通した総合的な指導による子どもの育ちへの理解を深め、小学校への成長の連続性、系統性を踏まえたカリキュラム論を展開する。

［授業終了時の到達目標］

・カリキュラムの必要性・意義についての基本的な知識を身に付ける。
・子どもたちの遊びをカリキュラムの中にどのように位置づけているかを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス・教育の目的
2．幼稚園・小学校教育の目的（学校教育法）・保育所の指針
3．教育課程に関する法規・カリキュラムとは
4．幼児期・児童期の発達的特性
5．幼児期・児童期における教育（西洋）
6．幼児期・児童期における教育（日本）
7．小学校学習指導要領の変遷
8．小学校学習指導要領（現行）
9．幼稚園教育要領のねらい（総則）・保育所保育指針のねらい
10．幼稚園教育要領の内容「健康」「人間関係」
11．幼稚園教育要領の内容「環境」「ことば」「表現」
12．保育所保育指針のねらい
13．幼稚園における指導計画の作成とカリキュラム
14．保育所における指導計画の作成とカリキュラム
15．小学校教育と幼稚園教育カリキュラム保育所保育内容の連続性
定期テスト・レポート等

［準備学習］

○毎回振り返りカードにその日の要点、課題を記入すること。
○授業の前に前回授業箇所のテキストやノートを読み返してくること。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：『幼稚園教育要領解説』
文部科学省　フレーベル館
『保育所保育指針解説書』
厚生労働省編　フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み・小レポート（40%）
定期試験（60%）の結果を総括して評価する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもと学習活動	（講義・演習・実習）	橋本由美子・亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3, 4年次・前期, 後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼児期の学習活動について具体的内容及び幼児理解に関する理論と方法を理解し、幼児教育に携わる保育者としての資質を身に付けることを目的とする。また、幼児を取り巻く社会的な状況や今日的な課題に対応できるよう実践力を伸ばす。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領に基づき、学習活動の具体的内容と方法を学ぶ。幼児の発達の側面から見た各領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のねらい、内容について具体的に考察する。また、幼児を取り巻く今日的な課題や小学校との成長の接続を視野に入れた具体的な事例を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①幼児期の学習活動の具体的内容と方法について理解を深め、幼児教育に携わる保育者としての資質を身に付ける。
②幼児を取り巻く今日的な課題、小学校との成長の接続など具体的な事例を考察し、実践力を伸ばす。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子どもと学習活動について（子どもにとっての学習活動とは何か）
2．幼児教育を取り巻く現代社会の課題(1)
3．幼児教育を取り巻く現代社会の課題(2)
4．「健康」と学習活動
5．「人間関係」と学習活動
6．「環境」と学習活動
7．「言葉」と学習活動
8．「表現」と学習活動
9．子どもの発達段階に応じた学習活動（3歳）
10．子どもの発達段階に応じた学習活動（4歳）
11．子どもの発達段階に応じた学習活動（5歳）
12．指導計画の作成(1)（年間指導計画と指導案・数量に関する作品の教材化）
13．指導計画の作成(2)（月間指導計画と指導案・図形に関する作品の教材化）
14．幼児教育と小学校教育を接続した学習活動(1)
15．幼児教育と小学校教育を接続した学習活動(2)
試験・レポート

［準備学習］

①各回のテーマについて調べ、まとめておくこと。
②授業の前に調べたことを、授業時に提出すること。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『実習における遊びの援助と展開』
萌文書林　久富陽子他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教育の方法と技術	（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

教育の方法と技術について歴史的変遷や理論的な基礎及び視聴覚教育、情報教育の意義を理解し、視聴覚教材やICT機器の有効活用ができるようにする。また、教育場面を想定し、指導改善のための教育の方法と技術について実践力を身に付けることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育における視聴覚教材やICT機器活用の必要性やその果たす役割について、教育現場における展開事例から学ぶ。また、パワーポイント使用のプレゼンテーションなど実践事例に考察を加え、作成し発表する。

［授業終了時の到達目標］

①教育の方法と技術について歴史的変遷を理解し、視聴覚教育、情報教育に関わる知識を深める。
②指導改善のためにパワーポイント使用のプレゼンテーションなど実践事例に考察を加え、それを作成することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．教育の方法と技術の理論
2．視聴覚教育の歴史的変遷(1)
3．視聴覚教育の歴史的変遷(2)
4．情報社会における課題(1)
5．情報社会における課題(2)
6．幼児教育における視聴覚教育と情報教育（ICT機器活用）の役割(1)
7．幼児教育における視聴覚教育と情報教育（ICT機器活用）の役割(2)
8．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(1)
9．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(2)
10．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(3)
11．教育技術　視聴覚教材・ICT機器活用の作品の発表(1)
12．教育技術　視聴覚教材・ICT機器活用の作品の発表(2)
13．学習指導案の作成（視聴覚教材、ICT機器を使った豊かな環境作り）
14．学習指導案の発表（視聴覚教材、ICT機器を使った豊かな環境作り）
15．幼児教育と小学校教育の接続
試験・レポート

［準備学習］

①授業の前に該当部分を調べること。
②授業の前に調べたことを簡単にまとめ、授業時に提出すること。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：資料配布
参考文献：『実践に活かす教育課程論･教育方法論』
学事出版　林尚示他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文・毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・作品・発表（80%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
教職概論	（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

教職についての基本的な事項を理解する。教職の意義、幼児教育、義務教育の意義を理解する。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園の教員養成における教職の意義や教員の果たす役割、服務の厳正、身分保障と分限・懲戒、職務内容など理解する。幼児教育の重要性を知り研修の大切さを理解する。具体的な実践事例をあげ、望ましい子ども観、教材観を身に付け、教職に就くことへの意欲を高める。アクティブラーニングにより主体的に授業に参加する態度を身に付ける。

［授業終了時の到達目標］

①教職の意義を理解し、教員の果たす役割に関する知識を身に付ける。
②幼児教育の役割を理解し、教職への意欲を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．教職の定義
2．教育の本質と目的
3．教員として必要な資質・条件
4．子どもがともに生きる学校空間
5．教育観、子ども観の歴史
6．教員の任用・身分・服務
7．現代学校に求められる教育内容
8．教員の研修
9．教員の守秘義務
10．現代社会の子ども
11．現代社会における教員の役割
12．信頼される教師（保護者の信頼）
13．気になる子への望ましい対応
14．学級経営について
15．幼児教育と小学校教育の接続を目指して
試験・レポート

［準備学習］

①各回のテーマについてテキストの該当部分を読み、まとめておくこと。
②教育に関係するニュースを調べておくこと。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『新・教職課程シリーズ教職概論』
高橋勝（編）　一藝社
参考文献：『教育法規集』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育・教職実践演習（幼稚園）	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	橋本由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 2単位	4年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

大学４年間で学んだ幼稚園教諭としての知識と、幼稚園教育実習や保育実習で得た指導力・幼児理解力等実践力との統合を図り、幼稚園教諭や保育士としての資質を身に付けることを目的とする。また、子どもや保護者への理解、学級経営、教育的環境構成、年間を通しての子どもの動きなどを、事例研究、グループディスカッション、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を通して身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

子どもとのコミュニケーション、信頼関係、遊びや環境の構成、学級経営、特別支援、障害のある子どもへの配慮や個への援助、教科や発達の連続性を考えた幼稚園と小学校との連携など、幼稚園教諭としての実践に必要な資質を身に付けるために事例研究、グループディスカッション、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を行う。

［授業終了時の到達目標］

１．大学で学んだ知識と実習で身に付けた指導力、理解力など、幼稚園教諭としての資質を身に付ける。
２．幼児教育への意欲を持つ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

授業計画（前期３回　後期12回）

１．オリエンテーション（授業目的、概要、評価について）、保育・幼稚園実習振り返り⑴
２．保育・幼稚園実習振り返り⑵（遊びを通しての総合的な指導に必要な力）
３．新入園児に対して（年間保育・教育課程計画）
４．子ども理解（コミュニケーションの基礎知識とスキルアップ）
５．保護者理解（信頼関係づくり、モンスターペアレントへの対応）
６．特別支援教育（個への援助、個のカリキュラムと学級のカリキュラム、障害への理解）
７．環境づくり（学内子育て支援広場「ぽっけ」や幼稚園の環境づくり）
８．行事を通して育つもの（個の育ち、集団の育ち）
９．好きな遊び場面の援助⑴（運動遊び、音楽遊び、製作遊びなど）
10．好きな遊び場面の援助⑵（劇ごっこの実際、グループ活動）
11．遊びを通して育つもの（子どもの育ちを保護者へ伝える、連絡帳、学級だより、園だより）
12．表現の指導・援助⑴（音楽、言葉、数量、形などに関する感性）指導案作成
13．表現の指導・援助⑵（音楽、言葉、数量、形などに関する感性）模擬保育
14．小学校との連携（小１プロブレム、発達の連続性）
15．幼児教育に携わる者としての指導力と使命（グループディスカッション）

試験・レポート等

［準備学習］

○事前に次回のテーマの文献・ニュースを調べ、教育要領の関連箇所を予習しておく。
○実習後、自分の課題となる点をまとめておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
現実と向きあう教育学
　教師という仕事を考える25章

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度・感想文毎時間提出（20％）
試験・レポート・発表（80％）

こども専門科目

（こどもの文化と環境）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
こどもと音楽Ａ（理論・ピアノ・こどもの歌）	（ 講義・演習・実習 ）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	１年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

保育者における音楽活動に必要な音楽的知識や技術（歌唱やピアノ実技など）の基礎を習得するとともに、子どもの音楽的発達過程を理解し、それを踏まえた音楽活動の内容や教材の活用、遊びの展開について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

歌唱やピアノ演奏に必要な音楽理論の基礎について、テキストやビデオおよび実技を通して学び、ピアノ演奏や弾き歌いについては個人レッスンも受講する。また、子どもの音楽的発達過程への理解や教材研究も踏まえ、歌遊びなど保育に取り入れられている音楽活動を実践する。

［授業終了時の到達目標］

音楽理論とピアノ演奏・歌唱の基礎を身に付け、こどもの歌を生き生きと歌い、簡単な伴奏で弾き歌いをできるようになること。こどもの音楽表現活動の発達を理解し、手遊びや歌唱の初歩的な指導ができるようになること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーションおよびピアノレッスンのためのアンケート・個人面談
2．音の高さについて①／ピアノ個人レッスン①
3．音の長さについて①／ピアノ個人レッスン②
4．音の長さについて②／ピアノ個人レッスン③
5．簡単な器楽合奏／ピアノ個人レッスン④
6．音の高さについて②／ピアノ個人レッスン⑤
7．こどもの歌唱行動の発達①および音楽理論の復習／ピアノ個人レッスン⑥
8．こどもの歌唱行動の発達②および音楽理論の復習／ピアノ個人レッスン⑦
9．手遊び歌の実践①／ピアノ個人レッスン⑧
10．手遊び歌の実践②／ピアノ個人レッスン⑨
11．歌唱および音の高さについて③／ピアノ個人レッスン⑩
12．歌唱および音の長さについて③／ピアノ個人レッスン⑪
13．実演発表①／ピアノ個人レッスン⑫
14．実演発表②／ピアノ個人レッスン⑬
15．音楽理論の復習／ピアノ実技試験リハーサル
試験・レポート

［準備学習］

①授業の前に前回課されたピアノ課題の練習を行ってくること。　②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。　③実演発表の前に十分な準備練習を行ってくること。　④授業の後にピアノレッスン内容を整理すること。　⑤授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』

参考文献：
大畑祥子編著『音楽表現』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：40％
レポート：40％
受講態度：20％

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こどもと音楽Ｂ（理論・ピアノ・簡易楽器）	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	１年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

保育者における音楽活動に必要な音楽的知識や技術（簡易楽器の奏法やピアノ実技など）の基礎を習得するとともに、子どもの音楽的表現の特性を理解し、それを踏まえた音楽活動の内容や教材の活用、遊びの展開について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

合奏やピアノ演奏に必要な音楽理論の基礎について、テキストやビデオおよび実技を通して学び、ピアノ演奏や弾き歌いについては個人レッスンも受講する。また、子どもの音楽的表現の特性への理解や教材研究も踏まえ、楽器遊びや器楽合奏など保育に取り入れられている音楽活動を実践する。

［授業終了時の到達目標］

音楽理論とピアノ演奏・歌唱・器楽の基礎を身に付け、こどもの歌の弾き歌いや器楽合奏できるようになること。こどもの音楽表現活動の発達を理解し、手遊びや歌唱・器楽合奏の指導ができるようになること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーションおよびピアノ演奏技術修得状況の確認
2．音階・調性について①／ピアノ個人レッスン①
3．音階・調性について②／ピアノ個人レッスン②
4．和音について①／ピアノ個人レッスン③
5．和音について②／ピアノ個人レッスン④
6．こどもと音遊び／ピアノ個人レッスン⑤
7．保育における楽器・合奏／ピアノ個人レッスン⑥
8．簡易楽器の奏法／ピアノ個人レッスン⑦
9．合奏曲の編曲および合奏練習①／ピアノ個人レッスン⑧
10．合奏曲の編曲および合奏練習②／ピアノ個人レッスン⑨
11．合奏曲の編曲および合奏練習③／ピアノ個人レッスン⑩
12．保育における音楽発表会の構成／ピアノ個人レッスン⑪
13．実演発表①／ピアノ個人レッスン⑫
14．実演発表②／ピアノ個人レッスン⑬
15．音楽理論の復習／ピアノ実技試験リハーサル
試験・レポート

［準備学習］

①授業の前に前回課されたピアノ課題の練習を行ってくること。　②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。　③実演発表の前に十分な準備練習を行ってくること。　④授業の後にピアノレッスン内容を整理すること。　⑤授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』

参考文献：
大畑祥子編著『音楽表現』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：40%
レポート：40%
受講態度：20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
造形表現（図画工作）	（ 講義・演習・実習 ）	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

材料・道具についての基礎的な知識と理解、絵画や彫塑に関する基礎技能を習得する。また講評会において他者と自分の作品を並列することで、客観性や「自分らしさ」を発見し、他者への理解や興味を作品を通し抱くきっかけとする。その経験が将来、幼児の作品を観察し支援する力へと発展することが望ましい。また少しでも自分の「枠」を造形や表現を通じて拡げることを狙いとする。

［授業全体の内容の概要］

造形活動で必要となる材料や道具に関する基本的な知識を実習を通じで学ぶ。基礎力として、“もの（事象）を観察する力”を重要視する。課題ごとに講評会形式を取り入れ、各自、自らの作品についてプレゼンテーションを行い、総合的な表現力を養う。課題は多様だが、ゼロから作り上げるだけでなく、編集作業的な創作過程を経る課題もある。活動は個人作業と協同作業があり、特に協同作業時はコミュニケーションも含めた活動を促す。

［授業終了時の到達目標］

「自分らしさ」を発見し、自己表現につなげる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の概要説明　鉛筆デッサン／講評会
2．コラージュ１
3．コラージュ２／講評会
4．自然を観察する
5．既にある形から発想する
6．伝言ワーク　グループワーク１
7．伝言ワーク　グループワーク２／講評会
8．友人を観る・観られる／講評会
9．環境を考える　グループワーク１
10．環境を考える　グループワーク２
11．環境を考える　グループワーク３／講評会
12．紙粘土１
13．紙粘土２　講評会小麦粉粘土
14．イメージ水彩画
15．自由制作
レポート　提出作品

［準備学習］

特にありません。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時指示

参考文献：ニキドサンファル画集
ブルーノムナーリ画集
エミールノルデ画集

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
課題作品　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
児童文化	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・ 1 単位	2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

児童文化の歴史を学ぶ。

紙芝居・わらべうた・アニメーションのそれぞれの特徴を学び、基礎的理解をはかる。

［授業全体の内容の概要］

「子ども」とは誰をさすのかということを入り口に児童文化について考える。具体的には、紙芝居、わらべ歌・アニメーションについて学ぶ。特に、紙芝居について、絵本との違いを学びながら、それぞれの持つ可能性について考える。紙芝居、わらべ歌については、実演方法、遊び方も含めて学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

⑴児童文化を歴史的に概観し、基礎的理解をはかる。

⑵紙芝居、わらべうた、アニメーションの特質について基礎的理解をはかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．〈児童文化〉とは何か。⑴

2．〈児童文化〉とは何か。⑵　遊びをめぐって

3．〈児童文化〉とは何か。⑶　おもちゃ、お菓子をめぐって

4．わらべうた⑴　わらべうたとは何か

5．わらべうた⑵　わらべうた遊び

6．絵本と紙芝居

7．紙芝居⑴　歴史　戦前

8．紙芝居⑵　歴史　戦後

9．紙芝居⑶　特性と種類

10．紙芝居⑷　実演するには

11．紙芝居⑸　選び方

12．紙芝居⑹　演じ方

13．紙芝居⑺　観客について

14．アニメーションの特性について

15．まとめ

筆記試験

※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。

②授業の後にノートや配布資料を整理すること。

③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：指定無し

参考文献：まついのりこ

「紙芝居―共感のよろこび」

童心社（18／09）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

①授業に取り組む態度（25％）

②課題提出（25％）

③期末試験（50％）

（単位取得に①②③は不可欠）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ピアノ応用	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・ 金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

ピアノ演奏の基本的なテクニックを学び、表現力を高めるとともに、子どもの歌の伴奏や弾き歌いなど、保育実践において役立つレパートリーを身につける。

［授業全体の内容の概要］

保育者として子どもと音楽を楽しむために必要なピアノ演奏や弾き歌いの技術、ならびに音楽的感性を養うことを目的とする。練習曲やさまざまな様式のピアノ曲の他、子どもの歌の伴奏や弾き歌いなど、保育実践において役立つ課題に取り組み、レパートリーを広げる。受講者は各自のレベルに応じた課題曲を練習し、主に個人指導を受ける。

［授業終了時の到達目標］

生き生きとした表現で弾き歌いできるこどもの歌のレパートリーを５曲程度修得すること。バイエル80番程度の演奏技術を身に付けること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーションおよびレベルチェックのための試験
2．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン①）
3．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン②）
4．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン③）
5．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン④）
6．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑤）
7．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑥）
8．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑦）
9．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑧）
10．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑨）
11．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑩）
12．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑪）
13．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑫）
14．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑬）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②演奏に必要な読譜を行い、楽語などの意味を調べてくること。
③授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
小林美実編『こどものうた200』
参考文献：
『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』
その他、適宜紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60％
課題の進度：20％
受講態度：20％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
ピアノ実践	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・ 金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

ピアノ曲や子どもの歌の伴奏など、さまざまな曲の演奏に取り組むとともに、簡単な伴奏付けなどの課題を通して、保育現場で活用できる力を養う。

［授業全体の内容の概要］

「ピアノ応用」修了以上のピアノ経験がある者を対象とする。さまざまなピアノ曲の演奏に取り組み、演奏技術や表現力を高めることに加え、子どもの歌や弾き歌いなどのレパートリーを広げる。また、受講生のレベルに応じて、簡単な伴奏付けや即興演奏などの課題も導入し、保育実践における音楽活動により柔軟に対応できる演奏技術を習得することを目指す。受講者は各自のレベルに応じた課題曲を練習し、主に個人指導を受ける。

［授業終了時の到達目標］

生き生きとした表現で弾き歌いできるこどもの歌のレパートリーを10曲程度修得すること。バイエル終了またはそれ以上のピアノ演奏技術を身に付け、リズム表現のための楽曲演奏法を修得すること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーションおよびレベルチェックのための試験
2．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン①）
3．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン②）
4．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン③）
5．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン④）
6．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑤）
7．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑥）
8．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑦）
9．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑧）
10．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑨）
11．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑩）
12．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑪）
13．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑫）
14．各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑬）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②演奏に必要な読譜を行い、楽語などの意味を調べてくること。
③授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
小林美実編『こどものうた200』
参考文献：
『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』
その他、適宜紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%
課題の進度：20%
受講態度：20%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
声とからだ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	杉森のりこ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 1 単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

からだと声の繋がりを体感することで、姿勢・呼吸は自分でコントロールできることを理解する。また、音楽的・身体的教養を身に付けることで、それを伝える保育者・教育者としての身体、心構えをサポートでき、自信に繋がることを理解する。

［授業全体の内容の概要］

身体の構造・動く仕組みを学び、それを効率よく使うことを試し、歌うことで確認していく。保育現場で活用できる教材を実践することにより、「声」「音楽」を通してこどもと関わる保育者・教育者としての基礎力を養う。

［授業終了時の到達目標］

・身体や呼吸の仕組み・使い方を知り、無理のない発声の方向性を理解する。　・声と姿勢の関係を体感する。
・よりよい呼吸・発声のための自分の姿勢の改善点を見つけ、自分で修正できるようにする。
・歌のレパートリーを広げる。
・「声」と「からだ」を通して「音楽にできること」を自ら探し、体感し、それを伝えることの喜びを感じられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．姿勢について自分と向き合う
3．「身体を支える」脚から考える
4．「腰を自由にする」腰のロックを外し、大腰筋を使ってみる
5．音楽活動実施に際しての準備
6．学内の親子のひろば「ぽっけ」における音楽活動の実施（第１回）
7．音の高低を身体で表現しながらドレミで歌う
8．前回の小テスト（暗譜）
9．音楽鑑賞
10．音楽活動実施に際しての準備
11．学内の親子のひろば「ぽっけ」における音楽活動の実施（第２回）
12．「呼吸のグレードを上げる」背中を意識して、肋骨全体で呼吸してみる
13．全身の繋がりを感じて歌う
14．前回までの復習と実践
15．今期の振り返り・まとめ
定期試験

［準備学習］

前回に行ったストレッチやトレーニングを、できるだけ毎日、自分のペースで続けること。
次の授業内容に対しての調べ学習が指示された場合、発表または伴奏できるよう準備すること。

［使用テキスト・参考文献］

不要（プリントなどで用意）
（参考文献）
「ふるさとの四季」源田俊一郎編曲
カワイ出版ほか

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40%
試験：50%　　小テスト：10%
テーマ毎、ふり返りシートの記入、提出、チェックと姿勢チェックをし、学期終了後テストと共に学生本人に返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
器楽・合奏	（ 講義・演習・実習 ）	梅本　由紀

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

器楽を通して合奏を作りあげてゆくことを学ぶ。

こどもに関わる現場で必要とされることや想定されること（職員＝大人同士の合奏など）に対応できるような経験を通して知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

合奏に必要なことを体得するために、各自の技術を磨くことから始める。キーボードをはじめ、音楽室で用意できる楽器を使用して合奏の仕方を学んだり、互いに鑑賞することによって内容を発展できるようにする。

こちらが指定したグループごとに練習する課題も、個々に行う課題もある。履修前の読譜力や演奏力は問わないが、苦手な事を克服したり補い合うことをしながら積極的に参加することが求められる。

［授業終了時の到達目標］

個々の苦手な部分を少しでも克服すること。

音楽を通して「人に何かを伝えること」へのエネルギーを体感すること。

日常生活における様々な音・音楽への興味関心を持つこと。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・指の体操・元の曲を知って弾いてみよう1
2．指の体操・元の曲を知って弾いてみよう2
3．音階を弾いてみよう1～同じ指使いで弾ける調たち・元の曲を知って弾いてみよう3
4．音階を弾いてみよう2～2の指から始まる調たち・元の曲を知って弾いてみよう4
5．楽譜の読み方、書き方、拍子について
6．リズム練習・手拍子の音楽1
7．打楽器体験1・手拍子の音楽2～打楽器で演奏してみた場合
8．打楽器体験2～音と音で会話してみよう1・図形楽譜
9．身近な物で音を出してみよう・音と音で会話してみよう2
10．物語を立体的に1～場面に合った音を探してみよう、テーマの音を作ってみよう
11．物語を立体的に2～音・音楽を入れて完成させよう
12．ドラム体験～ドラムの楽譜を見てみよう
13．グランドピアノを弾いてみよう
14．管楽器体験～ドの音はどの音？
15．さまざまな音楽
試験

上記のシラバスを基本とするが、履修者の状況により順序を入れ替えたり内容を変更することがある。

［準備学習］

五線の楽譜が読めることが望ましい。苦手な場合は自力で読めるよう努力すること。

1．授業前に手を温めておくこと。　2．1回目の授業で行った指の体操を復習しておくこと。　3．指の体操を復習し、親指が大きく動かせるようにしておくこと。　4．指の体操を復習し、各指が独立し動かせるようにしておくこと。　5．ト音記号、ヘ音記号の楽譜を少しでも読めるようにしておくこと。　6．授業後に、うまくできなかった箇所を練習しておくこと。　7．授業後に、学んだことや気付いたことを整理しておくこと。　8．日常の会話がどのように行われているのか観察しておくこと。　9．楽器としてどのようなものが使えるのか、具体例をまとめておくこと。　10．授業後に、感想をまとめておくこと。　11．授業後に、改善できることをまとめておくこと。　12．色々なジャンルの音楽を聞いておくこと。動きやすい服装で受講すること。　13．授業後に、復習しておくこと。
14．授業後に、資料を見て復習しておくこと。　15．授業後に、これまでの授業で体験したこと・学んだことをまとめ、復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）必要に応じてプリントを配布する

（参考文献）汐巻公子著「大人の音楽ドリル　入門編」ヤマハミュージックメディア

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

グループごとに発表する課題についてはその場で講評し、各自で行う課題については個々に評価。

試験実施後（時間内）に解説を行う。

授業への取り組み：40%

試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
応用伴奏法	（ 講義・演習・実習 ）	金井　玲子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	4年次・前期	選択

［授業の目的］

ピアノやギターなどの楽器の演奏を通して、保育・児童教育の現場における音楽表現活動のための、また受講者自らの音楽表現活動のための高い応用能力を養うことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

「こどもと音楽B」および「ピアノ実践」終了と同等以上の者を受講対象とする。講義の前半は、コードネームによる伴奏付け、伴奏譜の編曲、与えられたメロディへの即興的な伴奏付けなどの課題を、簡易なものから高度なものへと順に行うことにより、楽器を用いた実践的な応用能力と表現能力を身に付ける。後半は各自が到達目標の設定を行い、個々の課題に取り組む。

［授業終了時の到達目標］

標準的な音楽における和音の構成と進行を理解し、簡易なメロディであれば即興的に器楽伴奏を付けられるようになること。ねらいに応じた伴奏を自身で編曲し演奏できるようになること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション及び個々の能力レベルを知るためのアンケート
2．音階とその練習方法
3．和音とその練習方法①（長三和音、短三和音）
4．和音とその練習方法②（その他の和音）
5．初見視奏とその練習方法
6．コードネームによる伴奏付け
7．伴奏譜の編曲
8．即興伴奏
9．各自の課題設定
10．課題練習とレッスン①（音楽理論上の指導）
11．課題練習とレッスン②（演奏上の指導）
12．課題練習とレッスン③（総合的な指導）
13．課題練習とレッスン④（発展的な指導）
14．課題実演発表
15．まとめ、振り返り
実技試験

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。②授業の前に与えられた実技課題を十分練習してくること。③授業の後にノートや配布資料を整理すること。④授業の後に与えられた実技課題の練習ポイントを整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考文献：
野村美樹子ほか共著
『はじめようピアノでコード弾き』他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
実技レッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
絵画制作	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 1 単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

与えられたテーマではなく、自らでテーマを探りプランをたてるようになる。「したいこと」と表現がすぐに結びつかなくとも、その「もどかしい」経験を経ることで自分の方向性を掴んでいく事ができるようになる。またそれがオリジナリティへと発展することが望ましい。

［授業全体の内容の概要］

主に造形表現を履修した学生を対象に、絵画制作を中心とした作品制作の実習。油画の基礎技法の習得はもとより、“自分にとって表現とは何か？”という問いのもとで作品のアプローチを試みる。本演習では個別対応形式をとりつつ、各学生の個性やオリジナリティを発見していく方法をともに検討していく。その過程で、保育者を志す学生自身が、個性やオリジナリティを発見することで、こどものそれを育み評価することができる感性を磨いていく。

［授業終了時の到達目標］

「自分がしたい事」を頭でなく手で動かしながら思考をすることができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．ガイダンス
2．観察する―自画像１　木炭画
3．観察する―自画像２　木炭画・講評会
4．観察する―友人　描画材選択・講評会
5．観察する―屋外スケッチ１　木炭画
6．観察する―屋外スケッチ２　木炭画・講評会
7．イメージを広げる―色で遊ぶ１　水彩
8．イメージを広げる―色で遊ぶ２　水彩・講評会
9．自由課題１　美術史上の作品参照　ディスカッション
10．油画　自由課題２　油絵について
11．油画　自由課題３→個別対応①
12．油画　自由課題４→個別対応②
13．油画　自由課題５→個別対応③
14．油画　自由課題６→個別対応④
15．展示場所整備　講評会　作品撮影
提出作品　レポート等

［準備学習］

油彩セットとキャンバスを個別で購入します。購入については授業で説明します。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：　随時指示
参考文献：マチス画集
セザンヌ画集
ムンク画集
コンテンポラリーペインター画集

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
課題作品・レポート　60%
受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
イノセンスアート	（ 講義・演習・実習 ）	クリスティーヌ・プレ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2, 3, 4年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

障がいのあるこども達との造形活動を通じて学ぶアクティブ・ラーニング（能動的学習）形式の授業。

まず素材／道具の選択、使用方法を習得し、言語以外のコミュニケーション手段のメディア選択と使用（物質、写真、映像など）を学び、活動に合わせた環境作りを行う。こどもの制作の豊かさと多様性を評価するため、視覚美術文化を学ぶ。また制作体験の結果として出来た作品よりも、制作過程並びに、もの作りの喜びの重要性を学ぶ。チームワークでの活動を通して感覚を拡げ、環境をより認識することでコミュニケーション能力を発展させる。

［授業全体の内容の概要］

造形活動とイメージリテラシーを体験しながら感動的なイノセンスアートを共に発見する。障がいのあるこども達との造形活動を実践する、また一方、アールプルミエ（原始と民族美術、もの作り）、アールブリュットの表現、現在の障がい者の芸術運動など、こども達の造形活動などを理解するための研究により様々な視点から味わえるアートの意味を思考する。

［授業終了時の到達目標］

アートの多様性を学びながら、障がいのあるこども達の表現の多様性を実践の場で理解していく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス「イノセンスアートとは」
2．アトリエの環境づくりについて
3．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅰ
4．協同制作プロジェクトⅠ実践振り返り。素材、表現研究
5．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅱ
6．協同制作プロジェクトⅡ実践振り返り。素材、表現研究
7．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅲ
8．協同制作プロジェクトⅢ実践振り返り。素材、表現研究
9．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅳ
10．協同制作プロジェクトⅣ実践振り返り。素材、表現研究
11．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅴ
12．協同制作プロジェクトⅤ実践振り返り。素材、表現研究
13．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅵ
14．協同制作プロジェクトⅥ実践振り返り。素材、表現研究
15．プロジェクトについての観察記録発表

試験・レポート等

＊実践は障がいのあるこども達と共に活動を行います。それに伴いガイダンスでは、適切で細やかな受講ルールを周知します。受講者は15回通じてその受講ルールをしっかりと理解し厳守するようにしてください。

＊障がいのあるこども達との活動日程は、随時、告知します。

［準備学習］

日常生活の中で、または観た映画や読んだ本のなかで、自分にとって気になる事項を考えること。GIFT：与える、受け取る事の意味を考えること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時指示

参考文献：

＊“Klee and Cobra. A Child’s Play”, Zentrum Paul Klee Edition, 2011
＊“Surrealism”, Phaidon Edition, 2004
＊“Gaston Chaissac”, R•union des Mus•es Nationaux Edition, 1998
＊「アウトサイダー・アートの世界、東と西のアール・ブリュット」
編著者：はたよしこ、紀伊国屋書店、2008
＊“Masques” Mus•e du Quai Branly Edition, 2010

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

試験・レポート　60%

受講態度　40%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
アートコミュニケーション	（ 講義・演習・実習 ）	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

この授業では、ワークショップを通して「対話」をもち、グループ内の相互作用から学びを深めます。ひとりひとりが「自分」の意見や考えを持ち、お互いがその違いを受容する時、コミュニケーションが開けていきます。そのためには、まずは自分自身とコミュニケーションを図ることの重要さを知ります。

［授業全体の内容の概要］

「ワークショップとは何か」を理論と実践で学びます。その後、グループに分かれ自分たちで目標設定・企画から実施まで実験的に行い、実施者／参加者／観察者の３役をお互いで経験します。各回、フィードバックをしながら、現場で学んだことを共有します。なお実践はグループワークですが、いずれも、ひとりひとりが観察と考察を繰り返します。

［授業終了時の到達目標］

コミュニティの中で、「自分」をどのように表現し、形成していくか意識を高める。またコミュニケーションにおいて自分の課題を明確にしていくこと。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．ガイダンス
2．ワークショップとは何か①　基礎理論
3．ワークショップとは何か②　実践１
4．ワークショップとは何か③　実践２
5．ワークショップとは何か④　実践３
6．グループにてワークショップ実践Ⅰ①　目的設定
7．グループにてワークショップ実践Ⅰ②　企画
8．グループにてワークショップ実践Ⅰ③　実践
9．グループにてワークショップ実践Ⅰ④　振り返り
10．全体　振り返りⅠ　対話
11．グループにてワークショップ実践Ⅱ①　目的設定
12．グループにてワークショップ実践Ⅱ②　企画
13．グループにてワークショップ実践Ⅱ③　実践
14．グループにてワークショップ実践Ⅱ④　振り返り
15．振り返りⅡ　対話
試験：レポート提出

［準備学習］

受講中は積極的・能動的な態度が望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
ワークショップと学び１　まなびを学ぶ
ワークショップと学び２　場づくりとしての学び
ワークショップと学び３　まなびほぐしのデザイン

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
学習態度（能動性など）：40%
レポートなど提出物：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
絵本と児童文学	（講義・演習・実習）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2，3，4年次・後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

絵本・児童文学を歴史的に概観し基礎的理解をはかる。

［授業全体の内容の概要］

幼い子は、誰かに本を読んでもらうことで物語を享受する。耳で聞く文芸である「昔ばなし」の語法を学び、耳で聞くことの多い幼年文学の特性について考える。あわせて、数多く出版されている昔ばなし絵本のありようについて考える。また、日本の近現代の代表的な作家の作品を、歴史をたどりながら講読。特にそれぞれの作品において、子どもがどのように描かれているかという点に注目し、時代の特徴を捉えたい。

［授業終了時の到達目標］

⑴昔ばなし、絵本の特質について基礎的理解をはかる。
⑵近代日本児童文学の誕生を歴史的に概観し、基礎的理解をはかる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．児童文学とは何か。⑴「大人」と「子ども」について考える。
2．児童文学と昔ばなし⑴　耳で聞く文芸と幼年文学について
3．児童文学と昔ばなし⑵　昔ばなしの語法について
4．児童文学と昔ばなし⑶　昔ばなしの語法について
5．児童文学と昔ばなし⑷　昔ばなし絵本について
6．児童文学と昔ばなし⑸　昔ばなし絵本について
7．児童文学とは何か。⑵　近代以前の子どもの読み物～子ども読者の登場
8．〈お伽噺〉の誕生⑴　巖谷小波の登場
9．〈お伽噺〉の誕生⑵　小波〈お伽噺〉の特徴
10．大正期の児童文学⑴〈お伽噺〉から〈童話〉へ
11．大正期の児童文学⑵〈お伽噺〉から〈童話〉へ
12．昭和前期の児童文学
13．絵本と児童文学⑴　絵本化された作品について
14．絵本と児童文学⑵
15．まとめ
筆記試験
※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。
②授業の後にノートや配布資料を整理すること。
③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：指定無し
参考文献：桑原三郎・千葉俊二編
『日本児童文学名作集』上・下岩波文庫

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
①授業に取り組む態度（25%）
②課題提出（25%）
③期末試験（50%）
（単位取得に①②③は不可欠）

授業科目名	授業の種類	
物語とこども	（講義・演習・実習）	2017年度不開講

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2，3，4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

他者の語る物語に耳を傾けること、物語を発見する喜びを味わうこと、自らの物語を紡ぐことは、こどもの発達において大きな意味をもつ。本講義では、さまざまなメディアによって語られてきた物語をみつめ、その語り方や内容について理解を深めながら、こどもと物語の出会いについて見識を広めていく。

［授業全体の内容の概要］

洞窟壁画からアニメーションまで、さまざまなメディアによる物語に親しみながら、こどもと物語の存在について深く考える。また、どのような物語がいかなる表現で語られているかやそれぞれの作品におけるこどもの描き方とこどもという存在への認識について、作品の精読や文献研究、ディスカッション等を通じて学び、思索する。さらに、こどもが物語をどのように楽しんでいるのかについても考える。

［授業終了時の到達目標］

①絵画、物語絵、伝承文学、児童文学、アニメーション等、物語るメディアの特性と共通点について理解を深める。②こどもと物語の出会いに貢献できる見識を備える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．物語とこども
2．洞窟壁画
3．物語絵
4．物語絵本
5．神話と伝説
6．昔話①昔話とは何か
7．昔話②昔話の語法
8．児童文学の誕生
9．幼年文学
10．冒険物語
11．ファンタジー文学
12．アニメーション
13．ナラティブ・アート
14．こどもが紡ぐ物語
15．まとめ
試験・レポート

［準備学習］

①授業時に指定した作品や文献を必ず読んでくる、あるいは鑑賞してくること。
②授業後にノートや配布資料を読み返して復習し、学んだ事や疑問点を整理しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：川端有子『児童文学の教科書』
玉川大学出版部、2013
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：25%
授業中に出す課題：25%
試験・レポート：50%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
絵本学	（講義・演習・実習）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

絵本の特性を学び、絵本についての基礎的な知識や視点を獲得する。口承文芸である昔ばなしの絵本化について考察し、絵本ならではの表現を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

絵本の歴史を紐解くことで、多角的に絵本というメディアの本質について考える機会をもつ。その上で、昔ばなしの絵本化について考察する。これらをふまえ各自絵本を分析する。絵本というメディアとその表現の可能性を見つけ、それを他者と分かち合うことの楽しさと意義を知る。

［授業終了時の到達目標］

①絵本の特性を説明できる。
②絵本の楽しみ方を他者に提案できるようになる。
③子どもの生活を豊かにし、ことばや創造性を育むために、絵本を活用する方法を考えられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．絵本とは何か
2．絵本の歴史①書物としての絵本
3．絵本の歴史②芸術としての絵本
4．絵本の歴史③文学としての絵本
5．児童文化財としての絵本
6．昔ばなし絵本①昔ばなしとはなにか
7．昔ばなし絵本②昔ばなしの特徴
8．昔ばなし絵本③昔ばなしは残酷か
9．昔ばなし絵本④昔ばなし絵本とアニメーション
10．絵本を分析する①デザイン色・形
11．絵本を分析する②デザインリズム・構造
12．絵本を分析する③デザイン視点・視界
13．絵本を分析する④ストーリー
14．絵本を分析する⑤文章
15．まとめ
課題・レポート

［準備学習］

①多くの絵本を手に取り読むこと。
②指示した配布プリントを読んで来ること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリントを配布する。
参考文献：『昔話入門』小澤俊夫編著（ぎょうせい）
『アプローチ児童文学』関口安義編（翰林書房）
『絵本を読む』松居直（日本エディタースクール出版部）
『絵本のよろこび』松居直（日本出版放送協会）
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子
（日本エディタースクール出版部）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①授業への取り組み：20%
②授業中に出す課題：20%
③定期試験：60%
単位取得に①②③は不可欠

授業科目名	授業の種類	授業担当者
おもちゃと文化	（講義・演習・実習）	鈴木　律子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

おもちゃの歴史および教育思想を理解し、おもちゃが子どもの成長・発達にどのような役割を果たしているかを学ぶ。また、病気や障がいをもつ子ども、多世代を対象にしたおもちゃについても学び、多様な観点からおもちゃの選択・扱い・活用法（遊び）を考える力を養うことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

おもちゃの歴史、幼稚園・保育所・子育て支援施設・こども病院などのおもちゃ、世代間交流のおもちゃなど、多種多様なおもちゃを取り上げ、それぞれの遊びについて解説する。遊びの考察、記録、仲間とのかかわり、リサーチ（調査）、発表を行う。

［授業終了時の到達目標］

幼稚園や保育所等の現場に於いて、適切なおもちゃの選び方の目を養うと共に、活動への導入や子どもたちとのコミュニケーションにおもちゃを活用できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．おもちゃとは何か、おもちゃの種類と分類
2．玩具の歴史1
3．玩具の歴史2
4．おもちゃの賞
5．教育思想と玩具
6．子どもの発達とおもちゃ・遊び1
7．子どもの発達とおもちゃ・遊び2
8．おもちゃの安全性
9．多様な対象者とおもちゃ
10．手作りおもちゃの意義1
11．手作りおもちゃの意義2
12．ごっこ遊びのおもちゃ
13．構成玩具
14．テーブルゲーム
15．まとめ
試験

［準備学習］

子ども時代に遊んだおもちゃと遊びを思い出す。市販されているおもちゃのリサーチおよび幼稚園や保育所、子育て支援施設などのおもちゃと遊びを記録する。

毎回の授業後に学んだことを振り返り、各自どう生かせるかを考えておく。

［使用テキスト・参考文献］

使用テキスト：使用しない

参考文献：

NPO法人日本グッド・トイ委員会監修

『おもちゃインストラクター入門』黎明書房、2007年、他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み､授業内課題､授業時の提出物：40%

試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
おもちゃ論	（講義・演習・実習）	鈴木　律子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択

[授業の目的]

おもちゃの歴史および教育思想を理解し、おもちゃが子どもの成長・発達にどのような役割を果たしているかを学ぶ。また、病気や障がいをもつ子ども、多世代を対象にしたおもちゃについても学び、多様な観点からおもちゃの選択・扱い・活用法（遊び）を考える力を養うことを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

おもちゃの歴史、幼稚園・保育所・子育て支援施設・こども病院などのおもちゃ、世代間交流のおもちゃなど、多種多様なおもちゃを取り上げ、それぞれの遊びについて解説する。遊びの考察、記録、仲間とのかかわり、リサーチ（調査）、発表を行う。

[授業終了時の到達目標]

幼稚園や保育所等の現場に於いて、適切なおもちゃの選び方の目を養うと共に、活動への導入や子どもたちとのコミュニケーションにおもちゃを活用できるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．おもちゃとは何か、おもちゃの種類と分類
2．玩具の歴史1
3．玩具の歴史2
4．おもちゃの賞
5．教育思想と玩具
6．子どもの発達とおもちゃ・遊び1
7．子どもの発達とおもちゃ・遊び2
8．おもちゃの安全性
9．多様な対象者とおもちゃ
10．手作りおもちゃの意義1
11．手作りおもちゃの意義2
12．ごっこ遊びのおもちゃ
13．構成玩具
14．テーブルゲーム
15．まとめ
試験

[準備学習]

子ども時代に遊んだおもちゃと遊びを思い出す。市販されているおもちゃのリサーチおよび幼稚園や保育所、子育て支援施設などのおもちゃと遊びを記録する。

毎回の授業後に学んだことを振り返り、各自どう生かせるかを考えておく。

[使用テキスト・参考文献]

使用テキスト：使用しない

参考文献：

NPO法人日本グッド・トイ委員会監修

『おもちゃインストラクター入門』黎明書房、2007年、他

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業への取り組み､授業内課題､授業時の提出物：40%

試験：60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育教材演習	（ 講義・演習・実習 ）	五味美奈子・細井　圭子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	１年次・通年	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

・保育活動に欠かすことのできない保育教材の意義、ねらいについて知る。
・基本的な保育教材の制作、実演を経験し、保育者としての技能を身につける。

［授業全体の内容の概要］

保育教材・教具には目的、ねらいがあることを知り、保育現場で活用されている保育教材を紹介し、制作、実演、遊びを経験する。具体的には折り紙、身近な素材を用いての工作などの日々の遊び、ペープサート、パネルシアターなど作って演じる教材、壁面装飾などを取り上げる。

［授業終了時の到達目標］

保育教材のねらいや製作方法を知り、２年次以降の実習で使用可能なパネルシアターなどを完成させる。
折り紙や身近な素材を用いて、工作あそびや装飾の制作などにイメージをもって取り組めるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

１．本授業のねらいと進め方
２．春の行事と保育教材
３．保育教材とこどもの遊び
４．七夕の工作
５．パネルシアターの制作①
６．夏の行事と保育教材
７．パネルシアターの制作②
８．パネルシアター実技①
９．パネルシアター実技②
10．秋の行事と保育教材
11．クリスマスの制作
12．冬の行事と保育教材
13．シアタースタイルの児童文化財
14．身近な素材を用いての工作
15．１年間の振り返り
定期試験・レポートなど

［準備学習］

毎回の授業で、次回の授業内容とその準備について指示する。
折り紙、パネルシアター制作・実演、季節の工作など課題が多いので、積極的・自主的に取り組むことを期待する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
新版遊びの指導乳・幼児編（同文書院）
おりがみ事典（同文書院）
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

課題提出：50%
試験：30%
授業への取り組み：20%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
あそびと科学	（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

・実際の活動を通して生活科の特徴を学び、教師としてどう関わるべきなのか考える。
・幼児のあそびの中や身の回りにある科学現象を、実際の体験を通して理解する。
・理解した科学現象について説明することができる。

［授業全体の内容の概要］

こどもたちにとってあそびは自然なものであり、自ら発見し工夫が重ねられていくものである。そのあそびの中には多くの科学現象がつまっている。子どものあそびのなかにある科学現象について理解し、こどもの自然な学びをサポートできることを目指す。また、こどもの自然な興味・関心を伸ばす科目である生活科の特色を実際の活動から学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・生活科の授業の意義を理解できる。
・生活科の指導要領を理解し、簡単な指導案を作成できる。
・あそびの中の科学現象についてその原理を理解し、レポートにまとめることができる。
・あそびの中にある科学現象を、こどもの学びにどのようにしてつなげるか考え、指導案を作成することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．シーソー（てこの原理）
2．紙飛行機（揚力）
3．楽器づくり（音の伝搬）
4．折り紙（立体）
5．スライムづくり（化学変化）
6．ホバークラフト（空気のちから）
7．いろ水（酸性とアルカリ性）
8．草花や木の観察（植物の体のつくりと環境）
9．身の回りの生き物の観察（昆虫の体のつくりと環境）
10．身の回りの生き物の観察（魚、鳥の体のつくりと環境）
11．水辺の生き物の観察（水辺の環境と生物の関係）
12．土と石（土壌の形成）
13．天気（天気の移り変わりと気圧）
14．太陽や星（天体の動きと季節）
15．まとめ
定期試験・レポート

［準備学習］

①講義で行った実験についてまとめ、レポートを作成し提出する。②身のまわりにある科学現象に目を向け、疑問に思ったことについて調べておく。②講義で説明をした生活科の指導要領について復習し、指導案に反映できるようにしておく。③生活科の指導要領に関する配布資料をよく読み内容を理解しておく。④講義で取り扱った内容に関する科学現象を復習し、説明できるようにしておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：小学校学習指導要領解説　生活編
（日本文教出版）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験　40%
レポート　50%
小テスト及び受講態度　10%
提出されたレポートは、コメントを入れて返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
自然観察	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	２年次・開講日指定	選択

［授業の目的］

・自然や生息する生物の調査・観察を行い、調査・観察や記録の方法を身に付ける。
・１年間を通して調査・観察を行うことで、季節による自然の変化を理解する。
・学外実習を行うことで、様々な場所での調査方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

幼少期に様々な生物と関わることは、その後の成長において重要な役割を果たす。そのため、保育者として、自然や生物の知識を持つことは不可欠である。また、自然やそこに生息する生物といった、注意深く見なければ理解したり、違いを見つけたりすることが難しいものを観察する能力を身に付けることは、将来、保育者としてこどもの観察を行う際に活かすことができると考える。この授業では、１年間を通して様々な自然や生物の観察を行い、調査・観察や記録の方法を身に付けることを目的とする。事前に生物の知識を持っている必要はないが、苦手でも挑戦してみようという気持ちを持って授業に臨んでほしい。また、授業期間外での活動や、野外活動等も行うため、欠席することなく時間外の活動にも積極的に参加のできる学生の履修を望む。

［授業終了時の到達目標］

・生物の観察方法がわかる。・生物の簡単な分類方法がわかる。・図鑑を使って生物の同定を行うことができる。
・生物のスケッチを行うことができる。・場所や種類による生物の調査方法がわかる。
・調査場所による用具や服装の準備ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．オリエンテーション・野外活動の安全①
２．野外活動の安全②・自然観察の基本
３．ぽっけの庭の生物調査①　春編
４．教育の森の生物調査①　春編
５．ビオトープの生物調査①　春編・顕微鏡の使い方
６．野外活動の安全③　海編・臨海実習オリエンテーション
７．海産生物の調査①（方法と注意事項）※夏季休業中に学外で行う予定
８．海産生物の調査②（調査）※夏季休業中に学外で行う
９．海産生物の調査③（分類とスケッチ）※夏季休業中に学外で行う
10．海産生物の調査④（まとめ）
11．ぽっけの庭の生物調査②　秋編
12．４号館の森の生物調査
13．教育の森の生物調査②　秋編
14．ビオトープの生物調査②　秋編
15．調査結果のまとめ
レポート提出

［準備学習］

①講義内で行った調査についてまとめ、レポートを作成して提出すること。
②講義内で学んだ調査方法や調査の準備について復習し、次の調査時には自分で準備できるようにすること。
③講義内で学んだり、行ったりした調査について復習し、自主的に観察を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：生物に関する図鑑

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業内および学年末のレポート　80%
受講態度（調査への取り組み、提出物）20%
提出物には、コメントを入れて返却する。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
英語の歌あそび	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・ 1 単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

英語が苦手でも、英語の歌を歌うことはできる。英語で歌うことで、苦手なはずの英語を好きになる。会話ができないと思っていても、歌を通して会話が始まり、世界中の子どもたちとのつながりを深めることができる。

［授業全体の内容の概要］

英語の授業ではなく、英語の歌を聴き、歌い、覚えて、自分の「力」にする授業である。英語の歌詞を読むことから始めるが、歌詞の意味は授業担当者から説明するため、受講生が辞書を引きながら訳することはしない。歌詞の意味がわからないまま歌うのでは、心から歌うことはできないので、歌詞の意味理解は絶対条件である。毎回の授業によって、自分自身のノートを作り上げ、自信を持って歌える歌を増やせるようにする。

［授業終了時の到達目標］

子どもたちの前で、英語の歌を諳んじて（暗記して）歌う発表会（最終講義）で自分自身が満足できる歌いぶりをする。授業終了後も、この経験を生かして、英語の歌を歌うことを習慣にし、自己 PR の一つにしてほしい。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介（英語の歌であそぶとは？）
2．自分たちの身近にある英語の歌を持ち寄ろう！
3．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！①「サウンド・オブ・ミュージック」
4．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！②「天使にラブソングを」
5．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！③「レ・ミゼラブル」
6．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！①　♪ London Bridge
7．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！②　♪ Mary Had a Little Lamb
8．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！③　♪ Old MacDonald Had a Farm
9．子どもが歌う英語の歌を歌おう！①　♪ I've Been Working on the Railroad
10．子どもが歌う英語の歌を歌おう！②　♪ My Grandfather's Clock
11．子どもが歌う英語の歌を歌おう！③　♪ Happy Birthday!
12．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！①　♪ My Favorite Thing
13．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！②　♪ Halle Holly Queen
14．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！③　♪ On My Own
15．まとめ（ノート提出←この日までにノートを完成させておく。次週このノート持ち込みで試験）

達成度確認試験（自筆ノート持ち込み）

［準備学習］

準備学習は、予習ではなく復習にあてるように心がけること。テキストを使用せず、手作り教材が配布されるので、授業時間内で終了しなかった教材をきちんと仕上げたり、復習したりすることで、次回の授業にもつながっていく。

［使用テキスト・参考文献］

テキストは使用せず、毎回教材プリントを配布。
参考文献は適宜、講義の中で紹介する。幼児英語教育を始めている NHK のテキストなどは、その例となる。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

授業参加度　20%
ノート提出　20%
期末試験　　60%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
国語	（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3，4年次・前期，後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

幼稚園教諭として心得ておくべき国語（国語学・国文学）の基礎的な事柄を項目別に理解し、現場で役立つ国語の知識を身に付けさせる。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教諭が現場ですぐに使うことを想定した国語（国語学・国文学）の基礎知識、もしくは早期教育での文字教育等の可能性をも勘案しての国語の講義とする。具体的には乳幼児の言葉に対する感覚から始めて漢字の話（六書等）、日本の文字（ひらがな等）、敬語、そして言葉遊び、昔話の構成、童謡、絵本の視点や語り手の問題、俳句の作り方、百人一首とカルタ遊びなどについて取り上げ、この講義の国語の基礎知識を幼児教育の中でどのように生かしていったらよいかを考えつつ講義を進める。

［授業終了時の到達目標］

すべての項目のベースとなる日本語の知識（話し言葉・書き言葉）の基礎を獲得することを目標とし、幼稚園教諭の国語の側面での地盤の知識を修得することを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子どもと言葉の発達Ⅰ（0歳から3歳）
2．子どもと言葉の発達Ⅱ（4歳から6歳）
3．漢字の話（六書・漢字音・書体・常用漢字・教育漢字）
4．ひらがな・カタカナ・送り仮名・仮名遣い・ローマ字
5．助数字（一本・一枚・一個）
6．敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語）
7．言葉遊び（なぞなぞとことわざ）
8．昔話とは
9．昔話の構成
10．唱歌と童謡
11．絵本の表現Ⅰ（視点）
12．絵本の表現Ⅱ（場面の連続性と語り手）
13．俳句の作り方（季語・取り合わせ・写生）
14．小倉百人一首と遊び方
15．まとめ
試験

［準備学習］

復習は板書したノートに必ず目を通し、書き直すような形ですること。復習の際、疑問点は調べ、解決するように努力すること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
授業で指示。

（参考文献）
『新しい国語表記ハンドブック』三省堂

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　60%
授業態度　40%
修了時ノート提出。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
算数	（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

小学校算数教育の目標、4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の内容や各学年の内容を具体的に考察することにより、幼児期に共通する数感覚、量感覚、図形感覚等について理解する。算数への興味関心をもたせる。

［授業全体の内容の概要］

幼児教育で数についての数感覚、量についての量感覚、図形についての図形感覚を重視することにより、小学校における算数教育への滑らかな接続を図る。算数教育、数学教育の系統性を見通した幼児期における数量・図形についての基本的な事項を理解する。数と計算、量と測定、図形、数量関係領域において幼児の発達段階に応じた興味や関心及び感覚が養われる指導法を研究事例について検討する。そのために、算数科における授業研究の意義を探る。また、学生自身が問題解決できるように、算数的活動を重視した指導法を考察する。

［授業終了時の到達目標］

①算数に興味関心をもち数感覚、量感覚、図形感覚を身に付ける。
②幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指し、幼児教育の学びを小学校算数教育で活かす指導法を考察する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．算数科学習指導要領と算数的活動
2．算数科の目標と歴史的変遷
3．数学的な思考力・表現力とは
4．「数と計算」領域の内容
5．「量と測定」領域の内容
6．「図形」領域の内容
7．「数量関係」領域の内容
8．第1学年の内容
9．第2学年の内容
10．第3学年の内容
11．第4学年の内容
12．第5学年の内容
13．第6学年の内容
14．幼児教育と小学校教育の接続を目指して(1)
15．幼児教育と小学校教育の接続を目指して(2)
試験・レポート

［準備学習］

①算数科の独自の教具（コンパス、三角定規など）を用意すること
②算数科にかかわる実践研究論文などにあたり教材研究をすること
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『小学校学習指導要領解説〔算数編〕』
平成20年
『新編算数科教育研究改訂版』
算数科教育学研究会編　東洋館出版社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
幼児体育	（ 講義・演習・実習 ）	北原　澄高

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

多様な運動パターンの体験から運動を構成している要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について実践を通しての考察を重ねながら、幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図る。特別な運動技能を身に付ける過程ではなく、基本的な動きを獲得する過程において、特に必要とされる事柄を中心に学習する。

また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場における子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。

［授業全体の内容の概要］

多様な運動パターンの体験から運動を構成する要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について、実践を通しての考察を重ねながら幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図ると共に、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動きを伴うものとして捉え、運動指導の意義について実践的に学習する。また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場に於ける子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。

［授業終了時の到達目標］

対象年齢に合った運動遊びの指導法を身につける。また、そのために必要な指導案の作成能力を身につけることを到達目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス　授業の進め方や注意点等の確認
2．表現遊び　ダンス「ディン・ドン・ダディ」を中心に行います
3．集団ゲーム遊び　鬼ごっこなどの多人数でできるゲームや遊び
4．マット①　基礎的なマット運動
5．マット②　マットを利用した遊び
6．ボール①　基礎的なボール運動
7．ボール②　ボールを利用した遊び
8．平均台　基礎的な平均台運動
9．プレイバルーン　プレイバルーンを使用した表現
10．鉄棒　簡単な鉄棒遊び
11．表現①　オーレチャンプの練習①
12．表現②　オーレチャンプの練習②
13．総合①　創作表現の発表会
14．総合②　運動会
15．まとめ　VTR 鑑賞、前期の振り返り
レポート提出

［準備学習］

各回の授業テーマに沿った運動遊びを事前に調べておくことを準備学習とする。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
幼児期運動指針（文部科学省ホームページ参照）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート　60%
授業への取り組み　40%

こども専門科目

（保育・福祉・教育の現場に学ぶ）

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＡ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・内田徹・五味美奈子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	２年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育実習の意義・目的、保育実習ＩＡの内容を理解し、実習の計画を立てると共に自らの実習課題を明確にする。また、実習園における子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の重要性を理解する。さらに、観察、実践、記録、評価の方法や内容を学び、実習後は、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習の目標を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習ＩＡに必要な基本的な知識・態度、専門的な知識・技術を学ぶ。具体的には、実習に必要な書類についての知識、専門的な立場からの講話や視覚教材を用いての演習、倫理綱領や保育所保育指針、記録、指導案についての学習、実技の演習、オリエンテーションや実習での指導の受け方などについて学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

初回の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、部分実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育実習（保育所）の目的と内容、保育実習指導ＩＡの目的と授業計画について
2．保育所の一日の流れと保育士の仕事について
3．実習の方法、課題、実習生としての心構えについて
4．現場の保育士から学ぶ
5．オリエンテーションについて
6．実習記録について(1)
7．実習記録について(2)
8．部分実習と保育実技
9．実習直前の指導、巡回指導教員との顔合わせ
10．実習報告会

＊必要に応じて随時補講、個別指導を行う。また実習終了後には個別に評価面談を行う。
レポート

［準備学習］

①「保育実習（保育所）の手引き」の該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。②保育所保育指針を熟読し、既習の保育関連教科のテキスト等を復習しておく。③実習先について、インターネット等で調べる。④絵本、紙芝居、手あそび、エプロンシアターなどの練習をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
幼少年教育研究所「新版　遊びの指導　乳幼児編」
同文書院

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40%
レポートなどの課題の提出(期限・内容)：60%
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＡ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・内田徹・五味美奈子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	２年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育実習の意義・目的、保育実習ＩＡの内容を理解し、実習の計画を立てると共に自らの実習課題を明確にする。また、実習園における子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の重要性を理解する。さらに、観察、実践、記録、評価の方法や内容を学び、実習後は、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習の目標を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習ＩＡに必要な基本的な知識・態度、専門的な知識・技術を学ぶ。具体的には、実習に必要な書類についての知識、専門的な立場からの講話や視覚教材を用いての演習、倫理綱領や保育所保育指針、記録、指導案についての学習、実技の演習、オリエンテーションや実習での指導の受け方などについて学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

初回の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、部分実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．オリエンテーション　浦和大学が目指す保育者養成　保育実習の意義と目的
　　履修方法と条件　実習のスケジュールについて
２．保育実習ＩＡの目的と内容
３．保育所の役割と責任についての理解
４．保育士の業務・役割・守秘義務についての理解
５．先輩から学ぶ
６．実習配属及び実習園についての理解
７．実習への準備①　実習の目的から実習課題を考える
８．実習への準備②　実習に必要な書類について知る
９．実習への準備③　実習生としての姿勢を学ぶ（オリエンテーション、実習前、中、後）
10．実習記録について学ぶ（書き方と取り扱い）
11．指導計画について学ぶ
12．保育技術の実践
13．事後指導　実習の振り返り
14．事後指導　実習報告会
15．事後指導　評価票面談

＊必要に応じて随時補講、個別指導を行う。また実習終了後には個別に評価面談を行う。
レポート

［準備学習］

①「保育実習（保育所）の手引き」の該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。②保育所保育指針を熟読し、既習の保育関連教科のテキスト等を復習しておく。③実習先について、インターネット等で調べる。④絵本、紙芝居、手あそび、エプロンシアターなどの練習をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
幼少年教育研究所「新版　遊びの指導　乳幼児編」
同文書院

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出(期限・内容)：60％
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＢ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・ 瓜巣由紀子・柴田崇浩・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	２年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育所以外の児童福祉施設における実習の意義を理解し、利用児・者、施設への理解を図る。さらに、実習計画、記録、評価について理解するとともに、利用児・者の人権擁護や守秘義務について確認する。

［授業全体の内容の概要］

保育所以外の児童福祉施設（一部成人施設を含む）における実習の意義を理解し、実習施設の目的、利用児・者への理解、養護実践、生活支援・自立支援について学習し、自身の実習計画を立案する。また利用児・者の人権擁護や守秘義務への理解を図る。実習後は実習を総括し、今後の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習（福祉施設）の意義を理解し、実習課題を明確にする。保育所以外の児童福祉施設、社会福祉施設の目的と利用児・者への理解を深める。さらに、各自、実習計画を立案し、実習記録、評価について理解し、利用児・者への人権擁護と守秘義務について確認する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育実習ＩＢの目的と内容、保育実習指導ＩＢの目的と授業計画について
2．施設種別の理解①（障がい分野）
3．施設種別の理解②（養護分野）
4．実習課題を立てる
5．福祉施設の職員から学ぶ①（障がい分野）
6．福祉施設の職員から学ぶ②（養護分野）
7．オリエンテーションについて
8．実習記録について
9．実習直前の指導　巡回指導教員との顔合わせ
10．実習報告会

＊上記の他、前期７月には保育実習ＩＢの希望調査と、希望調査に先立ち「先輩の話を聞く」授業を実施する。また必要に応じて随時補講、個別指導を行う。実習終了後には個別に評価面談を行う。

レポート

［準備学習］

①「保育実習（福祉施設）の手引き」と実習指導のテキストの該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておき、既習の保育関連教科のテキスト等も復習しておく。②事前学習で課されるレポート等の課題に真剣に取り組み、期日までに提出する。③各自の実習施設についてインターネット等で調べるだけでなく、実習先と同種別の施設や利用児・者に関連する書籍を読む。④実習先や同種別の施設の行事等のボランティア活動にも積極的に参加し、利用児・者についての理解を深める。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（福祉施設）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
阿部和子他編著「最新保育講座13．保育実習」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＢ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・ 瓜巣由紀子・柴田崇浩・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	２年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育所以外の児童福祉施設における実習の意義を理解し、利用児・者、施設への理解を図る。さらに、実習計画、記録、評価について理解するとともに、利用児・者の人権擁護や守秘義務について確認する。

［授業全体の内容の概要］

保育所以外の児童福祉施設（一部成人施設を含む）における実習の意義を理解し、実習施設の目的、利用児・者への理解、養護実践、生活支援・自立支援について学習し、自身の実習計画を立案する。また利用児・者の人権擁護や守秘義務への理解を図る。実習後は実習を総括し、今後の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習（福祉施設）の意義を理解し、実習課題を明確にする。保育所以外の児童福祉施設、社会福祉施設の目的と利用児・者への理解を深める。さらに、各自、実習計画を立案し、実習記録、評価について理解し、利用児・者への人権擁護と守秘義務について確認する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育実習ＩＢの意義、目的、概要の説明
2．実習施設の種別についての説明と、配属希望調査について
3．配属先の発表、配属面談
4．実習施設についての理解(1)
5．実習施設についての理解(2)
6．施設の利用児・者への理解(1)
7．施設の利用児・者への理解(2)
8．実習計画、実習課題等の立案
9．実習書類（実習生カード等）の作成
10．実習における観察、記録及び評価、実習記録の取り扱いについて
11．施設における人権擁護、子どもの最善の利益、プライバシー保護、守秘義務等
12．実習にあたっての諸注意
13．実習の総括と自己評価、評価票面談
14．実習での学びの共有(1)
15．実習での学びの共有(2)　自分の今後の課題や学習目標の明確化

＊上記の他、前期７月には保育実習ＩＢの希望調査と、希望調査に先立ち「先輩の話を聞く」授業を実施する。また必要に応じて随時補講、個別指導を行う。実習終了後には個別に評価面談を行う。

レポート

［準備学習］

①「保育実習（福祉施設）の手引き」と実習指導のテキストの該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておき、既習の保育関連教科のテキスト等も復習しておく。②事前学習で課されるレポート等の課題に真剣に取り組み、期日までに提出する。③各自の実習施設についてインターネット等で調べるだけでなく、実習先と同種別の施設や利用児・者に関連する書籍を読む。④実習先や同種別の施設の行事等のボランティア活動にも積極的に参加し、利用児・者についての理解を深める。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（福祉施設）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
阿部和子他編著「最新保育講座13．保育実習」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習ＩＡ（保育所）	（ 講義・演習・実習 ）	五十嵐・皆川・内田・五味・丸谷・船木・亘理・金井・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・２単位	２年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

児童福祉施設としての保育所の生活の流れや全体像、養護的な役割や機能、家庭や地域との連携を理解する。さらに、乳幼児とのふれ合いを通して乳幼児について理解し、発達の概略を学び、保育所保育士の役割や職務内容についても実践的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育士資格取得のために、見学実習、参加実習に加え、部分実習を含めた12日間の保育所実習を行う。実習を通じて保育の場に参加しながら、保育所の役割や機能について学び、乳幼児についての理解を深める。実習中の子どもとのふれ合いを通して、乳幼児の発達の実際について理解する。保育所の生活と保育士の役割、実習記録の書き方についても学習し、保育士としての基本的な態度を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

観察実習、参加実習、部分実習を通して、児童福祉施設としての保育所の役割と機能、家庭や地域との連携、乳幼児への理解や発達、保育士の役割や職務内容について理解する。

既習の保育関連教科の内容を理解して実習に取り組み、保育所の全体像と保育について理解し、今後の学習課題を明確にする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育所での見学実習のオリエンテーション：見学実習の目的と概要
2．保育所での見学実習と見学実習報告書の提出
3．保育所実習のオリエンテーション：保育実習ＩＡ（保育所）の目的と概要
4．保育所実習
5．保育所実習
6．保育所実習
7．保育所実習（担当教員が実習園を訪問し学生の指導を行う）
8．保育所実習
9．保育所実習（部分実習について､実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）
10．保育所実習
11．保育所実習
12．保育所実習
13．保育所実習（実習園において部分実習を行う）
14．保育所実習
15．保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）
レポート

［準備学習］

その日の実習についてふり返り日々の記録を作成するとともに、次の日の実習のねらいを明確にする。次の日に配属されるクラスの子どもの発達について保育所保育指針等で確認しておく。部分実習の準備を行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
参考文献：
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習ＩＢ（福祉施設）	（ 講義・演習・(実習) ）	五十嵐・皆川・瓜巣・柴田・丸谷・船木・亘理・金井・内田・五味・鶴ヶ谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・２単位	２年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

①保育所以外の児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。②観察やかかわりを通して利用児・者への理解を図る。③児童福祉施設で展開されている保育、養護及び保護者への支援について学ぶ。④保育、養護の計画、観察、記録、自己評価等について理解を図る。⑤児童福祉施設で働く保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

原則として12日間、90時間以上の実習を行う。実習中は施設の実習担当職員の指導、また大学の巡回指導教員の指導を受ける。また日々の実習内容を記録して翌朝提出し、指導を受ける。

［授業終了時の到達目標］

観察、参加、部分実習を通して、保育所以外の児童福祉施設、社会福祉施設の社会的役割と機能を知り、施設を利用する人たちへの理解を深める。施設における養護内容と方法を知り、保育士の役割を実践的に学び、他職種の職員間の役割とチームワークについても理解する。既習の関連教科の内容を理解して実習に取り組み、施設での支援の全体像と社会的養護や保育・療育について理解し、今後の学習課題を明確にする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．施設実習のオリエンテーション：保育実習ＩＢ（福祉施設）の目的と概要
2．施設実習
3．施設実習
4．施設実習
5．施設実習
6．施設実習
7．施設実習（担当教員が実習施設を訪問し学生の指導を行う）
8．施設実習（実習施設における施設実習の中間反省会において、指導していただく）
9．施設実習
10．施設実習
11．施設実習
12．施設実習
13．施設実習
14．施設実習
15．施設実習（実習施設における施設実習の全体反省会において、指導していただく）
レポート

［準備学習］

その日の実習についてふり返り日々の記録を作成するとともに、次の日の実習のねらいを明確にする。次の日に配属される生活寮やグループの利用児・者について施設でいただいた資料やテキスト、関連書籍などで確認し、利用児・者に相応しい関わり、部分実習等について準備をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（福祉施設）の手引き」
阿部和子他編著「最新保育講座13．保育実習」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅱ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	丸谷充子・五十嵐裕子・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「保育実習Ⅱ」は、「保育実習ＩＡ」及び「保育実習ＩＢ」を履修した学生が、さらに保育所保育について学習するための科目である。「保育実習指導Ⅱ」では、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。「保育実習Ⅱ」の意義と目的を理解し、自分の実習課題をもって実習に臨めるよう指導する。子どもの発達段階に適した部分実習の内容や環境構成について理解し、教材研究を行い、部分・責任実習の指導計画を作成する。保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援についても理解を深める。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

「保育実習Ⅱ」のための事前・事後指導を行う。事前指導では、「保育実習Ⅱ」の目的と意義を理解する。「保育実習ＩＡ」では、保育所実習を行うにあたっての心構えや保育への参加の仕方についての基本を学習しており、「保育実習Ⅱ」では、「保育実習ＩＡ」をふり返って明らかになった自己課題について再学習し、さらに深く学ぶよう促す。実習記録においては、日々の実習のねらいと合致したエピソード記録と考察の書き方を学習する。また、子どもの発達段階に相応しい部分実習、責任実習の内容、環境構成、進め方、指導計画の立案について学習する。さらに、保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援などの保育所の社会的な役割についても事前に理解する。事後指導では、各自が実習をふり返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

２回目の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、責任実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．「保育実習Ⅱ」の目的と概要、実習指導の進め方と日程・「保育実習ＩＡ」のふり返り
2．実習課題と実習生カードの記入
3．保育所保育指針の解説・守秘義務と実習記録の取り扱い
4．部分実習の内容と教材研究、環境構成、進め方と指導計画の立案
5．グループ学習―模擬保育―
6．責任実習の指導計画の立案―３歳未満児―
7．責任実習の指導計画の立案―３，４，５歳児―
8．実習記録の書き方―日々の実習のねらいとエピソード記録・考察との関連性―
9．直前指導―オリエンテーションを経ての指導―
10．「保育実習Ⅱ」のまとめ、実習のふり返りと報告会（グループディスカッション）、評価票面談

［準備学習］

毎回の授業で、次回の学習内容を示すので、「保育実習（保育所）の手引き」、保育所保育指針、テキスト等の該当部分をよく読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。次回までに各自が行う課題について説明するので、課題を完成させて持参する。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
フレーベル館　2008
財団法人幼少年教育研究所編著　新版「遊びの指導乳幼児編」同文書院2014

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅱ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	丸谷充子・五十嵐裕子・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「保育実習Ⅱ」は、「保育実習ＩＡ」及び「保育実習ＩＢ」を履修した学生が、さらに保育所保育について学習するための科目である。「保育実習指導Ⅱ」では、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。「保育実習Ⅱ」の意義と目的を理解し、自分の実習課題をもって実習に臨めるよう指導する。子どもの発達段階に適した部分実習の内容や環境構成について理解し、教材研究を行い、部分・責任実習の指導計画を作成する。保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援についても理解を深める。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

「保育実習Ⅱ」のための事前・事後指導を行う。事前指導では、「保育実習Ⅱ」の目的と意義を理解する。「保育実習ＩＡ」では、保育所実習を行うにあたっての心構えや保育への参加の仕方についての基本を学習しており、「保育実習Ⅱ」では、「保育実習ＩＡ」をふり返って明らかになった自己課題について再学習し、さらに深く学ぶよう促す。実習記録においては、日々の実習のねらいと合致したエピソード記録と考察の書き方を学習する。また、子どもの発達段階に相応しい部分実習、責任実習の内容、環境構成、進め方、指導計画の立案について学習する。さらに、保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援などの保育所の社会的な役割についても事前に理解する。事後指導では、各自が実習をふり返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

２回目の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、責任実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1.「保育実習Ⅱ」の目的と概要、実習指導の進め方と日程
2.「保育実習ＩＡ」のふり返りと実習課題
3. 実習生カードの記入
4. 保育所保育指針の解説
5. 守秘義務と実習記録の取り扱い
6. 部分実習の内容と教材研究、環境構成、進め方について
7. 部分実習の指導計画の立案
8. グループ学習―模擬保育―
9. 責任実習の指導計画の立案―３歳未満児―
10. 責任実習の指導計画の立案―３，４，５歳児―
11. 実習記録の書き方―日々の実習のねらいとエピソード記録・考察との関連性―
12. 直前指導―オリエンテーションを経ての指導―
13.「保育実習Ⅱ」のまとめと実習のふり返り
14.「保育実習Ⅱ」の報告会―グループディスカッション―
15. 評価票面談

［準備学習］

毎回の授業で、次回の学習内容を示すので、「保育実習（保育所）の手引き」、保育所保育指針、テキスト等の該当部分をよく読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。次回までに各自が行う課題について説明するので、課題を完成させて持参する。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
フレーベル館　2008
財団法人幼少年教育研究所編著　新版「遊びの指導乳幼児編」同文書院2014

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅱ（保育所）	（ 講義・演習・実習 ）	丸谷・五十嵐・宮﨑・船木・皆川・亘理・金井・内田・瓜巣・五味・柴田・鶴ヶ谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・２単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「保育実習Ⅱ」では、以下の４点について学ぶことを目的とする。①１週間ないしは２週間同じクラスで実習することにより、遊びや生活の中で、発達や個に応じた乳幼児理解とその援助方法を学ぶ。②集団の中での一人ひとりの乳幼児へのかかわりやクラス運営などにおけるきめ細かい保育士の役割を学ぶ。③実際に指導計画を立てて乳幼児とかかわる中で、教材研究や環境構成のあり方、計画と実践の関係について学ぶ。④保育所と家庭や地域との連携、子育て支援などの保育所の社会的な役割について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

「保育実習Ⅱ」は、保育士資格のための選択必修科目である。「保育実習ＩＡ」（保育所での実習）及び「保育実習ＩＢ」（保育所以外の福祉施設での実習）を履修した者が履修し、保育所で12日間の実習を行う。「保育実習ＩＡ」の学習内容をもとにして、責任実習の指導計画の立案や実施等を含む、さらにステップアップした保育実習である。

［授業終了時の到達目標］

参加実習、部分実習、責任実習を通して、乳幼児の発達、集団保育やクラス運営における保育士の役割、集団の中での個に応じたかかわりや援助方法について理解する。部分実習や責任実習を通して、教材研究や環境構成のあり方、指導計画を立てることと実践との関係等について理解する。既習の保育関連教科の内容を理解して実習に取り組み、保育所保育を総合的に理解し、今後の学習課題を明確にする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育所実習のオリエンテーション：保育実習Ⅱ（保育所）の目的と概要
2．保育所実習
3．保育所実習
4．保育所実習
5．保育所実習
6．保育所実習
7．保育所実習（授業担当者が実習園を訪問し学生の指導を行う）
8．保育所実習（責任実習について、実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）
9．保育所実習
10．保育所実習
11．保育所実習
12．保育所実習（実習園において責任実習を行う）
13．保育所実習
14．保育所実習
15．保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）

［準備学習］

その日の実習についてふり返り、次の日の実習のねらいを明確にし、そのねらいにそって保育所保育指針等の関連書籍等を読む。

次の日に配属されるクラスの子どもの発達について保育所保育指針等で確認し、発達段階等に相応しい部分実習や責任実習の準備をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
フレーベル館　2008

参考文献：
「最新保育資料集2014」ミネルヴァ書房　2014
その他の参考文献については、授業で適宜説明する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅲ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	瓜巣由紀子・皆川順・柴田崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育実習ＩＡ、ＩＢの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。保育実習の総括的な実習となることから、３回の実習をふり返って学び得たことを実習報告書として執筆し、学生自身の実習全体への省察と今後の学習課題を明らかにする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習Ⅲ〈福祉施設〉を効果的に行うための準備を整えるとともに、実習後は保育実習全体の成果をまとめることを通じ、実習からの学びについて報告書を作成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション、施設実習配属調査アンケート
2．配属面談
3．実習目標と実習課題
4．実習施設の理解
5．利用児・者、職員とのコミュニケーション
6．実習記録の書き方
7．実習での学びと評価の観点
8．実習中の諸注意と必要な事務手続き
9．実習報告会
10．実習評価票面談、報告書執筆指導

［準備学習］

指導教員の指示に従って実習に臨むために必要な準備を計画的に進める。実習後は指導教員の個別指導を受けて報告書を作成し、保育実習全体のふり返りを行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部『保育実習の手引き』

参考文献：
『最新保育講座13　保育実習』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅲ	（ 講義 ・演習・ 実習 ）	瓜巣由紀子・皆川順・柴田崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・１単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育実習ＩＡ、ＩＢの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。保育実習の総括的な実習となることから、３回の実習をふり返って学び得たことを実習報告書として執筆し、学生自身の実習全体への省察と今後の学習課題を明らかにする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習Ⅲ〈福祉施設〉を効果的に行うための準備を整えるとともに、実習後は保育実習全体の成果をまとめることを通じ、実習からの学びについて報告書を作成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．授業オリエンテーション、施設実習配属調査アンケート
２．配属面談
３．実習目標と実習課題
４．実習施設の理解１
５．実習施設の理解２
６．利用児・者、職員とのコミュニケーション
７．実習記録と評価の観点
８．実習に必要な事務手続き
９．施設でのオリエンテーション
10．実習中の諸注意
11．実習報告会
12．実習評価票面談
13．実習後ふり返り面談、報告書執筆指導
14．実習報告書執筆指導
15．実習報告書執筆指導

［準備学習］

指導教員の指示に従って実習に臨むために必要な準備を計画的に進める。実習後は指導教員の個別指導を受けて報告書を作成し、保育実習全体のふり返りを行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部『保育実習の手引き』

参考文献：
『最新保育講座13　保育実習』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅲ（福祉施設）	（ 講義・演習・(実習) ）	瓜巣・皆川・柴田・船木・亘理・金井・五十嵐・内田・五味・鶴ヶ谷・丸谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・２単位	３年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育実習ＩＡ、ＩＢの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

社会福祉施設における２週間の実習を通じて、福祉施設の役割ならびに施設における保育士の業務の意義と特色を理解し、実践することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

１．施設実習
２．施設実習
３．施設実習
４．施設実習
５．施設実習
６．施設実習
７．施設実習（実習指導教員の巡回指導）
８．施設実習（実習施設における中間反省会）
９．施設実習
10．施設実習
11．施設実習
12．施設実習
13．施設実習
14．施設実習
15．施設実習

［準備学習］

毎日、記録を作成してその日の実習をふり返り、翌日の目標を定めて計画的な実習を行う。

実習施設の指導者からの指導を受けることによって、より広い視野からの学習を深められるようにする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部『保育実習の手引き』

参考文献：
『最新保育講座13　保育実習』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習指導	（ 講義・演習・(実習) ）	五味美奈子・亘理史子・内田徹・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	45時間・1単位	3,4年次・開講日指定	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育実習に向けての事前指導を通して、幼稚園の機能と役割、実習の基本的な知識、技術を習得する。

幼稚園教育実習後には自らの実習を振り返ることで自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味・方法を再認識する。

［授業全体の内容の概要］

教育実習前には、幼稚園の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、観察や記録の仕方、実習日誌の書き方、部分・責任実習の進め方など、実習の基本的な知識、技術を習得する。実習後は、実習体験の報告と検討、レポートの作成等を行い、実習で学んだことの意味を改めて問い直し自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味、方法について再認識する。

［授業終了時の到達目標］

・実習前には、幼稚園の機能・役割・実習の目的を知り、実習の基本的な知識や技術を身に付ける。
・実習後は、実習で学んだことを振り返り、自分の解決すべき課題を明確にできる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの概要・意義・目的
2．幼稚園教育実習Ⅰの目標と課題
3．幼稚園教育実習Ⅰの内容と進め方
4．特別講義
5．直前指導並びに守秘義務と実習記録の取り扱い
6．幼稚園教育実習Ⅰの振り返りとまとめ
7．幼稚園教育実習Ⅱの課題と目標
8．幼稚園教育実習Ⅱの内容と進め方
9．幼稚園教育実習準備 1
10．幼稚園教育実習準備 2
11．指導案準備 1
12．指導案準備 2
13．幼稚園教育実習Ⅱの直前指導
14．幼稚園教育実習Ⅱの振り返りとまとめ
15．幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの振り返りとまとめ　報告書作成

［準備学習］

①幼稚園教育要領を復習しておく。　②手遊び、ペープサートなど教材作成ノートを作り各自事前に準備しておく。　③自分の実習する園についての方針・特徴について調べておく。　④ピアノの課題について、途中で止まらずに弾き歌いができるようにしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
評価の視点
授業及び課題への取り組み：30%
保育実践への取り組み（ピアノ等）：20%
指導案、提出物、レポート等：50%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	（ 講義・演習・実習 ）	五味・亘理・内田・宮﨑・船木・皆川・金井・五十嵐・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・丸谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	80時間・２単位	３年次・後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教諭に求められる基礎的な技能を実際の現場で学び、学内授業で身につけた理論的予習の成果と結びつけながら理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

観察実習、参加実習を中心に、幼稚園という教育機関の具体的な環境、幼稚園教諭の仕事の実際、具体的な子どもの姿について学ぶ。また、実習指導担当教諭のもとで部分実習を行い幼児理解に基づく指導・援助の方法についても学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・観察実習、参加実習を通して、幼稚園教諭として必要な知識・技能を理解する。
・幼稚園教育実習Ⅱへの課題をみつけることができる。
・授業で学んだことと、実践を結びつけることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について幼稚園において学ぶ２週間の現場実習である。
事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習並びに、基礎的な技能を実際の現場で学ぶ。

［準備学習］

・実習園について調べる。
・課題で出されたピアノ、手遊び、ペープサートなどができるようにしておく。
・幼稚園と保育園の違いについて調べる。

［使用テキスト・参考文献］

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	（ 講義・演習・実習 ）	五味・亘理・内田・宮﨑・船木・皆川・金井・五十嵐・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・丸谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	80時間・2単位	4年次・前期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）をふまえて、指導案を立案して責任実習を行うことにより、幼稚園での実践的な能力をより高める。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）から得た各自の実習課題をもとに実習に臨む。参加実習を経た後に、実習指導担当教諭のもとで指導案を立案し部分・責任実習を行う。それらを通して子どもたちの園生活の実態、環境構成、保育者の援助、指導などについての理解をさらに深め、保育者になるにあたっての各自の課題を自覚する。

［授業終了時の到達目標］

1．部分・責任実習を自信を持って行い、やり方を身につける。
2．実習を通して、園生活の実態や保育者の授助について知り、自分の課題を見つける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

幼稚園教育実習Ⅰでの学習をふまえ、年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について学び、部分実習を中心として実施し、総まとめとして責任実習を行う2週間の現場実習である。
事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、責任実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習を行う。

［準備学習］

・ピアノ、手遊び、ペープサートができるようにしておく。（各自、数を増やしておく）
・園のオリエンテーションに基づき、園の教育方針等について、事前に調べておく。

［使用テキスト・参考文献］

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%